令和4年度

こうべ動物共生センター管理運営業務

実施報告書

公益社団法人Knots

Public Interest Incorporated Association Knots

令和4年度
こうべ動物共生センター管理運営業務 実施報告書
【目 次】

① 本事業の全体コンセプト ―― 3

② センターの管理・運営に関する業務 ―― 6

③ アニマルセラピー　動物ふれあい事業 ―― 27
・わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）

④ 一緒に学ぼう！For Kids　子どもを対象にした動物共生教育事業 ―― 37
・獣医師体験プログラム
・犬とともだちになろう
・いきものといっしょ
・「いのちの教育」プログラム

⑤ 一緒に学ぼう！　飼い方相談事業 ―― 68
・犬のしつけ方教室案内
・老犬との暮らし方教室
・和犬教室

⑥ お困りごと　飼育者支援事業 ―― 75
・飼い主相談　飼い方相談・犬猫のしつけ相談

⑦ 参加してみよう！ ―― 87
・お散歩診断　飼い方相談事業
・体験！ドッグダンス　飼い方相談事業
・介助犬と歩こう！　身体障害者補助犬の普及啓発事業

⑧ 受託者企画事業の展開 ―― 95
・セラピー研究フィールド
・こうべ動物共生プラットフォーム
・市民へのセンター成果のフィードバック及び課題収集
専用ウェブサイトの構築
出没・こうべ動物共生センター
・こうべ動物共生情報の提供・収集

⑨ センター広報 ―― 99

①本事業の全体コンセプト

こうべ動物共生センターとは？

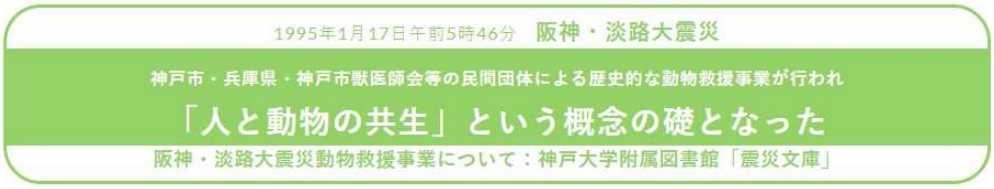
— Kobe Center for Human-Animal Interaction —

こうべ動物共生センターは、**動物関係の公的機関で初めて「共生」と名付けられた**、保護動物の譲渡と教育・啓発を行うことを目的とした施設です。

神戸市は、平成29年4月に**日本で初めて、人と猫が共生する社会の実現を目指す「神戸市人と猫との共生に関する条例」を施行**しました。これは、**阪神・淡路大震災の際、神戸市で行われた歴史的な動物救援事業からの長い取り組みのひとつの成果**でもありました。また、当センターがある「しあわせの村」は30年以上前からノーマライゼーションに取り組み、すべての人が健康で文化的な活動に参加できるように整備されたSDGs視点を持ったソーシャルインクルージョン（社会的包摂）を目指す複合施設です。

「共生」という言葉には、**「人と動物、お互いの関係を大切にし、一緒に暮らしていこう**」という思いが込められています。当センターでは、その影響を科学的に解明し、人と動物の幸せな暮らしを支える関係者を繋ぎ、市民ひとりひとりに寄り添う課題解決を目指します。

愛護から共生へ…人と動物の幸せな共生を通じて、**「人も動物もずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸市**」を実現していきます。



専用ウェブサイトにおいては、阪神淡路大震災の被災動物救援事業記録集である「大震災の被災動物を救うために 兵庫県南部地震動物救援本部活動の記録」を、上記のバナーリンクより読んでいただけるようにしており、神戸市の「人と動物の共生」の根底にある事業を引き継いでいけるよう発信を行っている。

①本事業の全体コンセプト

「ずっと一緒に幸せに暮らしていける」SDGs 視点を持ったあたたかな神戸市

しあわせの村

研究・連携

市民　ひとりひとりに寄り添う課題解決

参加・相談・交流

成果のフィードバック（QOL 向上）

情報収集・提供・登録

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

《セラピー研究フィールド》

科学的影響を明らかにし、広く市民の生活の質の向上に貢献し、国内外へ情報発信できるよう、国内外のアニマルセラピーに係る専門家による研究フィールドを構築

「試み・開発の場」「人材育成の場」

【アドバイザー】
- 中山裕之先生（東京大学名誉教授／VISION VETS GROUP (VVG) Lab 学術役員）
- 土居裕和先生（長岡技術科学大学 技学研究院 情報・経営システム系 准教授）
- 柴内裕子先生（赤坂動物病院総院長／公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）相談役）
- 島村俊介先生（大阪公立大学 生命環境科学域 小動物臨床医学 准教授）
- 木下美也子先生（グリーン・チムニーズ＆ファーム サム＆マイラ・ロス研究所教育プログラム部長）
- アンドレア・ビーツ先生（インクルーシブ教育教授 IU 国際応用科学大学・ドイツ）

アニマルセラピー
- R.E.A.D. プログラムの実施・研究

《こうべ動物共生プラットフォーム》

「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸」を実現する、神戸市の「幸せな動物との共生」を支えるプラットフォームを構築

「試み・開発の場」「人材育成の場」

動物取扱業登録事業者、関連事業事業者、関連団体、ボランティア等の連携とスキルアップのため、賛同する企業、団体、個人の参加を促し、神戸市の「**市民を幸せにする動物共生チーム**」を構築。
※神戸市以外の参加も促し、多様なサポーターを集積させていく。
※各地域：地域包括支援センター／社会福祉協議会／自治会／病院／学校とも連携・協働

センターを市民に広報

「"つなぐ" 場」「市民交流の場」

《出没・こうべ動物共生センター（出張イベント）》

防災イベントとコラボし、**各区で**年１回しつけ教室、相談、身体障害者補助犬紹介を**イベント的に実施**。センターの業務を市民に知って頂く機会を設け、区毎の課題情報も収集。

将来的な可能性

教育・相談の事業がプラットフォームとの協働によって各区で自律的に行われることを目指す

自分の近くにある共生支援情報を手に入れることができる。

評価・フィードバック・教育・研修

事業協力・課題解決

こうべ動物共生センター

一緒に暮らそう
- 保護動物の譲渡および見学

一緒に学ぼう!
- 和犬教室
- 老犬との暮らし方教室

一緒に学ぼう! For Kids
- 獣医師体験プログラム
- 犬とともだちになろう
- いきものといっしょ
- いのちの教育プログラム

お困りごと
- 獣医師等による電話相談
- 来所相談（予約制）
- パピーのお困りごと相談会

参加してみよう!
- お散歩診断
- 介助犬と歩こう!
- 楽しくしつけを学ぼう ～ドッグスポーツにチャレンジ!

《こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー》

プラットフォームに係る情報を市民に提供し、交流の場を構築し、事業者にビジネス活性の機会を提供。

情報登録・ビジネス活用

《適正飼養アドバイザー会議》

①共生センターのしつけ方教室・しつけ相談のプログラム構成
②上記プログラム実施に向けてのアドバイス（事業者向け研修の実施）
③各区での教室・相談に対応できる体制づくり
④「こうべ動物共生プラットフォーム」の研修体制の整備

【アドバイザー】
- 村田香織先生（獣医師／公益社団法人日本動物病院協会（インストラクター養成講座委員会アドバイザー））
- 近藤悦子先生（獣医師／JAHA 認定家庭犬しつけインストラクター）
- 中塚圭子先生（人と犬との共生教室「ドルチェカーネ・中塚」主催／JAHA 認定家庭犬しつけインストラクター／JKC 公認副 練士）

内外への情報発信収集

実施においては、IAHAIO のガイドラインに沿って、事業に参加する動物にはなるべくストレスがかからないように配慮しています。

※IAHAIO（International Association of Human-Animal Interaction Organizations）とは、人と動物との相互作用の正しい理解を促進させるために各国で活動している学会、協会等の国際的な連合体として、米国の Delta Society（現 PetPartners）、フランスの afirac、イギリスの SCAS が中心となって 1992 年に設立。人と動物の相互作用の分野を進歩させるため、国際的な指導力を提供することを使命としている。

《専用ウェブサイト》 「"つなぐ" 場」「市民交流の場」

資料・報告を専用ウェブサイト上で提供し、来所できない市民への利便を図る。しつけ教室や飼養相談及びその対策等については事例として紹介して市民に情報を提供し、センターの成果を活用。市民の様々な課題に対し、解決・相談の場が整備されていることを報せる。

将来的な可能性 → 《こうべ動物共生アプリ》

《考えられる登録情報》飼養動物情報・飼養者情報・賛同者情報・動物取扱業登録電子化
緊急事態対応情報の適切な提供／登録に係る事務負担軽減／狂犬病予防注射未接種犬への接種促進／マイナンバーとの紐付け・国との連携／決済機能追加による新たな登録料等の徴収／利用状況を分析して市民の動物との共生の実態を把握し、**EBPM** につなげる。

①本事業の全体コンセプト

【「IAHAIO白書」全ての事業をIAHAIO白書に沿って実施】

動物とのふれあいを実施するにあたっては、活動に参加する動物にはなるべくストレスがかからないように配慮し、当法人がIAHAIO*の正会員であることから「IAHAIO白書」（IAHAIO White Paper）に沿って行っている。

*IAHAIO=International Association of Human-Animal Interaction Organizations

人と動物との相互作用の正しい理解を促進させるために各国で活動している学会、協会等の国際的な連合体として、米国のDelta Society（現PetPartners）、フランスのafirac、イギリスのSCASが中心となって1992年に設立。人と動物の相互作用の分野を進歩させるため、国際的な指導力を提供することを使命としている。

《IAHAIO白書》
IAHAIO動物介在介入の定義とAAIに係る動物の福祉のガイドライン

IAHAIO白書では、『**動物介在介入 Animal Assisted Interventions（AAI）**とは、動物を意図的に取り入れまたは編入された人の治療効果のための目標設定がされて構成されている健康、教育、人的サービス（例：社会福祉事業）への介入である。関係する人や動物に関する知識を持っている人が関与している。動物介在介入は、動物介在療法（AAT）や動物介在教育（AAE）、動物介在活動（AAA）等正規の人的サービスに、人と動物のチームを組み込んでいる。さらに動物介在指導（AAC）もこれに含まれる。これらの介入は学際的アプローチによって開発、実施されなければならない。』と定義されている。

AAIに参加している人と動物の福祉を守るために、人の福祉、動物の福祉についてそれぞれガイドラインが定められている。

人の福祉（抜粋）

・クライアントの安全対策がなければならない。専門家はAAIに関わっているクライアントのリスクを軽減しなければならない。クライアントに動物種や品種のアレルギーがないことを確認し、人によってはリスクが高いことやリスクの種類（例：免疫抑制された患者の感染、動物を通じて人から人に感染する疾患等）による除外の基準の認識を持っていなければならない。
・動物のハンドラーは、関係している受益者に必要なケアを理解しなければならない。AAIにおいて人に応じて起きる状況についてもトレーニングを受けている方がよい。

動物の福祉（抜粋）

・適切な性質をもち適切なトレーニングを受けた動物のみがAAIに選ばれるべきである。
・動物と活動するハンドラー及び専門家は、動物の不快感やストレスのサインを読み取ることも含め、福祉を確保するための動物のニーズについて学び、トレーニングを受けていなければならない。
・介入中の動物の福祉に責任がある専門家は、活動中そして終了後も、動物が健康で、適切に休め、快適で、世話を受けられることを保証しなければならない（例：水の提供、動物に安全で適切な床材）。動物に過剰な作業を要求してはならないので、活動時間は制限しなければならない（30～45分間）。
・適切な獣医学的なケアを提供しなければならない。AAIまたはAAAに参加する動物は、選定の過程において、また定期的にも獣医師による検査を受けなければならない。
・人と動物の共通感染症を防ぐため、適切な手段をとらなければならない。専門家は動物に最低年一回は獣医師免許保持者による適切なワクチンの接種、寄生虫の予防を受けさせなければならない。

②センターの管理・運営に関する業務

【令和4年度開業日数・来場者数等】

《**開業日数**》307日　《**開所時間**》10:00～17:00　《**休館日**》火曜日・年末年始の閉庁日
《**総来場者数**》13,308名　《**ウェブサイト総閲覧数**》109,662

こうべ動物共生センター　2022(令和4)年度 来場者数

	譲渡見学会 人数(組数)							譲渡前講習会		教育啓発事業	視察			取材				その他来所			合計	HP閲覧数
	事前予約			当日予約			計															
	犬	猫	小計	犬	猫	小計		犬	猫		個人	団体	計	新聞	テレビ	その他	計	外からの見学	その他	計		
合計	232 (87)	168 (79)	400 (166)	184 (71)	163 (64)	347 (135)	**747 (301)**	86 (38)	73 (36)	1043	14	55	**69**	2	20	16	**38**	10,025	1,227	**11,252**	**13,308**	109,662
4月	50 (16)	14 (5)	64 (21)	6 (2)	10 (3)	16 (5)	**80 (26)**	17 (7)	3 (2)	69	4	3	**7**					940	221	**1,161**	**1,337**	9,371
5月	7 (2)	8 (4)	15 (6)		10 (5)	10 (5)	**25 (11)**	23 (8)	3 (2)	43	6	3	**9**		3		**3**	1,030	85	**1,115**	**1,221**	8,393
6月	23 (9)	31 (15)	54 (24)	6 (4)	16 (7)	22 (11)	**76 (35)**	16 (6)	6 (3)	165		14	**14**	1	3	5	**9**	920	75	**995**	**1,281**	8,708
7月	10 (6)	40 (16)	50 (22)	18 (8)	7 (4)	25 (12)	**75 (34)**		11 (5)	100	1		**1**			2	**2**	820	66	**886**	**1,075**	8,347
8月	8 (4)	5 (2)	13 (6)	33 (10)	16 (6)	49 (16)	**62 (22)**	3 (2)	9 (5)	111					4		**4**	725	127	**852**	**1,041**	8,789
9月	7 (3)	16 (8)	23 (11)	24 (11)	3 (1)	27 (12)	**50 (23)**	5 (3)	3 (1)	151				1	3		**4**	670	95	**765**	**978**	10,889
10月	15 (7)	8 (5)	23 (12)	20 (9)	16 (5)	36 (14)	**59 (26)**	4 (2)	6 (3)	128	2	8	**10**		3		**3**	880	203	**1,083**	**1,293**	9,837
11月	18 (7)	9 (4)	27 (11)	14 (5)	19 (7)	33 (12)	**60 (23)**		8 (4)	89		5	**5**			5	**5**	840	56	**896**	**1,063**	8,541
12月	30 (10)	16 (9)	46 (19)	2 (1)	6 (4)	8 (5)	**54 (24)**	5 (3)	12 (6)	65								630	65	**695**	**831**	7,992
1月	16 (4)	7 (4)	23 (8)	23 (9)	18 (6)	41 (15)	**64 (23)**	3 (1)	2 (1)	17					4	4	**8**	830	80	**910**	**1,004**	10,124
2月	41 (16)	2 (1)	43 (17)	18 (6)	28 (10)	46 (16)	**89 (33)**	4 (3)	2 (1)	60	1		**1**					620	51	**671**	**827**	9,399
3月	7 (3)	12 (6)	19 (9)	20 (6)	14 (6)	34 (12)	**53 (21)**	6 (3)	8 (3)	45		22	**22**					1,120	103	**1,223**	**1,357**	9,272
	譲渡見学会 人数(組数)							譲渡前講習会		教育啓発事業	視察			取材				その他来所			合計	HP閲覧数
	事前予約			当日予約			計															
	犬	猫	小計	犬	猫	小計		犬	猫		個人	団体	計	新聞	テレビ	その他	計	外からの見学	その他	計		
日・祝	121 (43)	86 (37)	207 (80)	72 (26)	69 (24)	141 (50)	**348 (130)**	37 (15)	30 (15)	305	1	9	**10**	1	6		**7**	2,620	499	**3,119**	**3,856**	19,368
月	7 (3)	4 (2)	11 (5)	32 (9)	15 (8)	47 (17)	**58 (22)**			44	4	5	**9**			7	**7**	1,160	79	**1,239**	**1,357**	14,394
火															3		**3**	1,070	2	**1,072**	**1,075**	15,118
水	13 (7)	13 (8)	26 (15)	31 (14)	35 (14)	66 (28)	**92 (43)**	18 (11)	17 (9)			15	**15**			5	**5**	1,235	137	**1,372**	**1,519**	15,524
木	19 (9)	5 (5)	24 (14)	12 (8)	16 (8)	28 (16)	**52 (30)**			262	6	6	**12**					1,080	140	**1,220**	**1,546**	15,160
金										108	2	20	**22**	1	11	4	**16**	1,180	133	**1,313**	**1,459**	15,480
土	72 (25)	60 (27)	132 (52)	37 (14)	28 (10)	65 (24)	**197 (76)**	31 (12)	26 (12)	324	1		**1**					1,680	237	**1,917**	**2,496**	14,618

こうべ動物共生センター　2022(令和4)年度 事業別来場者数

回数	14回						13回			6回				13回			2回			14回			4回			7回			6回								6回		人合計	犬合計
	わんちゃん教室（R.E.A.D.プログラム）						いきものといっしょ			犬とともだちになろう				認知症体験プログラム			犬のしつけ方教室			相談（来所）			ドッグメンテナンス			お散歩診断			介助犬と歩こう！								いのちの教育			
	参加者	付添	講師	ボランティア	犬	その他	参加者	付添	犬	参加者	付添	ボランティア	犬	参加者	付添	講師	参加者	講師	犬	参加者	講師	犬	参加者	講師	犬	参加者	講師	犬	参加者	付添	講師	犬	参加者	講師	ボランティア	犬	参加者	付添		
合計	35	46	19	25	23	3	48	43	1	57	51	17	16	122	114	11	20	5	14	33	14	24	31	4	29	59	19	47	71		7	6					180	9	1043	160
4月							1	2	1	12	9	3	3							4	1	2	8	1	7				27		1	1							69	14
5月							5	2						8	8	1				3	2	2	7	1	7				5		1	1							43	10
6月							1	1		13	13	3	3	24	23	1				3	1	2				11	2	10	3		2	1					60	4	165	16
7月	6	8		2	3		5	2						8	6	1																					59	3	100	3
8月	9	11		2	3		28	31						13	11	2				2	2	3																	111	6
9月	6	9	4	6	4		3	2						22	25	2				1	1	1				5	2										61	2	151	5
10月	3	2	2	2	2	1	2	1		16	13	6	6	16	18	1				1	1	1	8	1	7	10	3	8	20		1	1							128	25
11月	4	6	6	6	4												15	4	12	7	2	4	8	1	8	14	6	15	9		1	1							89	44
12月	2	3	3	2	3					7	7	3	2	8	8	1	5	1	2	1	1	1				10	3	8											65	16
1月	2	2	1	3	2	2	3	2												1	1	1																	17	3
2月	3	5	3	2	2									23	15	2				6	1	5																	60	7
3月										9	9	2	2							4	1	2				9	3	6	7		1	1							45	11
	わんちゃん教室（R.E.A.D.プログラム）						いきものといっしょ			犬とともだちになろう				認知症体験プログラム			犬のしつけ方教室			相談（来所）			介助犬ドッグダンス			お散歩診断			介助犬と歩こう！								いのちの教育		人合計	犬合計
	参加者	付添	講師	ボランティア	犬	その他	参加者	付添	犬	参加者	付添	ボランティア	犬	参加者	付添	講師	参加者	講師	犬	参加者	講師	犬	参加者	講師	犬	参加者	講師	犬	参加者	付添	講師	犬	来場者	講師	ボランティア	犬	参加者	付添		
日・祝	23	33	15	19	16	2				28	22	9	9	53	48	5	16	4	11	6	1	5							20		1	1							305	42
月														8	6	1													24		5	4							44	4
火																																								
水																																								
木														5	5	1										48	14	38									180	9	262	38
金							20	25						8	6	1	4	1	3	5	3	4	31	4	29														108	36
土	12	13	4	6	7	1	28	18	1	29	29	8	7	48	49	3				22	10	15				11	5	9	27		1	1							324	40

②センターの管理・運営に関する業務

【電話対応・来所者対応・メール対応】

令和4年4月～令和5年3月までの電話・来所・メールによる対応件数

相談・問い合わせ		
合計	433	
相談	146	33.7%
問合せ	287	66.3%

電話・来所		
合計	433	
電話	356	82.2%
来所	29	6.7%
メール	48	11.1%

カテゴリー		
合計	433	
譲渡	143	33.0%
野良猫	83	19.2%
飼犬	49	11.3%
飼猫	37	8.5%
寄附	31	7.2%
事業	26	6.0%
野良犬	11	2.5%
ボランティア	10	2.3%
施設	7	1.6%
健康	0	0.0%
その他	36	8.3%

問い合わせでは、譲渡希望者からの「申請手続きについて教えてほしい」「犬（猫）を見学に行きたい」といったものが多かった。
次に多く寄せられたのが、野良猫について「保護してもらいたい」との相談だった。
寄附は、飼い犬・飼い猫が亡くなったことによるフードやペットシーツ、猫砂を届けていただいた。
ボランティアについては、「犬や猫とふれあいたい」「お世話がしたい」という希望での問い合わせが多かった。

その他の問い合わせ内容（抜粋）

・共生センターで求人はあるか？
・社会福祉協議会の方より、若年性認知症の対策としてアニマルセラピーを考えているが、情報が欲しい。
・ワニと千鳥の共生について情報があれば、ポイントを紹介してほしい。
・県立高校の先生より、3年生の課題研究で動物愛護・殺処分について調べたい生徒がいるが、対応可能か。
・インコを引き取れないか。
・シルバーカレッジ様より、アニマルセラピーについて講義をしてくれる先生を探している。
・大学の警備の人より、アライグマが弱っていて保護したが、どうしたらよいか。

様々な立場の方よりお問い合わせをいただいている。求人については、犬猫の飼養管理の業務希望等で複数の問い合わせがあった。それぞれの相談内容に応じた対応を行い、必要に応じて適切な部署を紹介した。

②センターの管理・運営に関する業務

令和4年4月～令和5年3月までの電話･来所･メールによる相談･問合せ件数

		電話	来所（しつけ以外）	メール	相談件数	問合せ件数
令和4年	4月	51	1	5	11	46
	5月	34	2	7	12	31
	6月	33	3	10	10	36
	7月	26	1	4	18	13
	8月	32	1	2	10	25
	9月	19	4	0	10	13
	10月	28	3	9	13	27
	11月	27	4	3	14	20
	12月	19	4	0	10	13
令和5年	1月	27	1	0	8	20
	2月	27	2	5	18	16
	3月	33	3	3	12	27
合　計		**356**	**29**	**48**	**146**	**287**

電話・来所・メールでの対応の内訳について、問い合わせ（66.3%）で相談（33.7%）であった。相談の内容は以下の通り（抜粋）である。

◎飼い犬に関する相談

・飼い犬が認知症で夜中に鳴いて家族も弱っている。病院にもかかっているが、どうしたらよいか。神戸では補助はあるのか。
・新長田のコンビニの消火栓にずっと犬がつながれていて気になってかわいそうで、警察に連絡した。近所の人が預かると言ってくれているが、このままだとどうなるのか。
・中央区民生委員の方より、80代男性一人暮らしの方が飼っている犬がトリミングしておらず部屋の中も物凄い臭いがしている。散歩にも行っていない様子。何か方法はないか。
・老犬（大型犬17歳）の飼い主より、老犬が病気で寝たきり状態で、病院で薬も処方してもらっているが、食べる力もなくなり見ていてつらい。獣医師に安楽死を求めたが応じてくれず、そちらの施設で可能か。
・舞子台のあんしんすこやかセンターの方より、利用者が入院する事になり、犬や猫の一時預かりをして欲しい。

②センターの管理・運営に関する業務

・北区社協の方より、高齢者の方の入院が決定し、犬がいるが譲渡は希望されておらず、帰ってくるまで預かってくれるところはないか。
・垂水区の方より、近所の一人暮らしの女性が大型犬7頭を飼育中、常に4～5頭は庭で放し飼いをしており吠えてうるさく、生活衛生ダイヤルに電話したら本人同士で話し合ってくれと言われた。どうしたらよいか。
・川西市戸建て在住者より、トイプードル10歳が吠えて近所から苦情がきて手放すことも考えている。首につける器具（吠えると振動する）等も使っている。他に缶を振って音を出す等やってみたが効果がうすい。

◎飼い猫に関する相談

・実家の隣に猫40匹飼っている方が引っ越して来ることになった。多頭飼育だと思うが何かあればそちらに相談できるのか。
・年末に息子が亡くなり飼っていた猫が飼えなくなったため引き取ってほしい。
・自分が病気になったので猫を引き取ってほしい。
・野良猫を保護した人から具体的な説明がないまま猫を譲り受けた。家の中に慣れず2ヶ月程飼育しているが暴れまわり病院に連れて行くのも一苦労、元の保護主（最初は色々相談していたが連絡が取れなくなった）に返したいが断られ連絡がつかなくなった。飼えないので引き取ってもらえないか。
・近所のおばあさんが施設に入ることになり、飼っている猫を公園に放すと言っている。

◎野良猫に関する相談

・須磨区で弱っている猫を見つけたが、引き取ってもらう事は可能か。
・北区の工場より、トイレの壁の間に猫が落ちたようで鳴いている。昼からスコープで見て救出しようと思う。救出できたらその猫を引き取ってほしい。
・自宅の周辺に野良猫が居ついて（餌付けなどしたことない）糞尿を床下、玄関などにまき散らす。市にも相談したが、こちらでは駆除できないと言われた。捕獲してそちらに連れて行けば保護してもらえるか？
・ポートアイランドのパーキングに猫が何匹かいてエサをやっているが管理会社からやめろと言われた。どうしたらよいか。手術は施されていないと思われる。

◎譲渡に関する相談

・以前飼っていた犬が亡くなり、又飼いたいと思っているが年齢78歳でも大丈夫か。
・20年猫を飼っていて全員居なくなり5年ほど経つ。息子が猫を飼いたいと言っており、マンションの人は犬やら猫やら飼っているがペット不可とも聞いたことがある。譲渡猫の「たっぴ」が気になる。譲渡してもらえるか。
・保護犬を保護してあげられるので是非保護してあげたいと思う。一匹でも助けたい。私たち家族でお手伝い出来ることがあればしてあげたい。

飼い犬、飼い猫の相談では、高齢や病気による飼い主の死亡、入院、施設への入所のための引取り相談が過半数を占める。「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸市」の実現に向け、福祉部署等との連携も含めた《こうべ動物共生プラットフォーム》の構築に着手していきたい。共生センターで対応できない相談については、一次コールセンターである生活衛生ダイヤルを案内し、そこから適切な部署につないでもらっているが、その後の対応については個人情報保護の観点からこちらに知らされることはないため、今年度は相談内容すべての事後の把握には至っていない。しかしながら、市民ひとりひとりの課題解決のためには、丁寧なフォローが必要であるため、次年度は可能な限り対応についての情報共有を環境衛生課にお願いしている。

②センターの管理・運営に関する業務

《見学・視察対応》

施設や事業の見学・視察依頼が多くあり、所管の環境衛生課と共に対応にあたった。休館日である火曜日のKnotsスタッフ不在時の対応や、神戸市ご関係者への施設案内・事業説明等は、環境衛生課での対応をお願いした。

・4月 6日 （水） 振興協会新任　三浦専務理事、澤田常務理事、藤田運営振興課長
・4月25日 （土） 兵庫県北上議員、宝塚市大島議員、猪名川町井戸議員
・4月28日 （水） マースジャパンデジタルコマース部　石田様
株式会社　B-blast様（3名）
・5月19日 （木） 元自民党議員　尾立様
・5月12日 （木） 奈良県うだ・アニマルパーク振興室 藤井先生、西川先生、笹野主査
・6月 3日 （金） 振興協会　三木会長
振興協会運営振興課 健康科学担当アドバイザー　大塚様
・6月 5日 （日） 神戸大学生協　学生グループ（9名）
・6月 16日 （木） 公益社団法人日本動物福祉協会顧問　山口千津子先生
神戸市立王子動物園動物科学資料館　高井元館長
・6月22日 （水） 株式会社フェリシモ猫部　小木様(4名)
軽度認知症の方の就労的活動に関する企業調査　加茂様
・7月11日 （月） フリーライター　西川様(2名)
・7月29日 （金） 早稲田大学アジア太平洋研究センター 特別センター員　藤田様
・9月15日 （木） 維新の会　山本議員
・10月12日（水） 松山市職員（4名）
・10月21日（金） シルバーカレッジ学生（3名）
・12月 1日 （木） あいおい・ニッセイ同和損害保険株式会社　和田様、前田様
【令和5年】
・1 月18日 （水） あいおいニッセイ同和損害保険株式会社・あいおいニッセイ同和
神戸支店プロ会　寄附金寄贈式
Knotsアドバイザリーボードメンバー　近藤様
・2月22日 （水） 九州保健福祉大学　加藤謙介先生
・3月 1日 （水） 公益社団法人横浜市獣医師会（6名）
公益社団法人神戸市獣医師会（4名）
・3月 2日 （木） Knotsアドバイザリーボードメンバー　多田様
・3月22日 （水） 京都動物愛護センター（2名）

公益社団法人横浜市獣医師会と
公益社団法人神戸市獣医師会の皆様

②センターの管理・運営に関する業務

《取材対応》

各メディアの取材依頼に対して、所管の環境衛生課、譲渡動物の飼養管理を受託されている公益社団法人神戸市獣医師会の皆様と共に対応にあたった。休館日である火曜日のKnotsスタッフ不在時の対応は環境衛生課に対応していただいた。

令和4年	5月31日	（火）	NHK神戸放送局
	6月 3日	（金）	読売テレビ
	6月17日	（金）	朝日小学生新聞
	8月19日	（金）	サンテレビ
	9月25日	（日）	サンテレビ・朝日新聞
	9月26日	（月）	読売新聞
	11月3日	（木）	神戸新聞
	11月21日	（月）	ラジオ関西
令和5年	1月13日	（金）	サンテレビ

【取材の様子】

令和4年5月31日　NHK神戸放送局

令和4年6月3日　読売テレビ

令和4年8月19日　サンテレビ

令和5年1月13日　サンテレビ

【専用ウェブサイトで情報を発信】

お知らせ　2023.01.25

サンテレビで紹介されました

1月13日（金曜）、サンテレビが「ペットの防災対策」の取材に来られました。その様子が1月19日（木曜）17時からの「キャッチプラス」という番組の中で紹介されました。

こちらから公式YouTubeで視聴していただけます。
お時間のある方は、是非ご覧くださいね！

②センターの管理・運営に関する業務

【ふれあい室の開放】

各種プログラム等の事業で使用しないときは、来所者に対してふれあい室を開放している。室内での食事は出来ないが水分補給については可能とし、誰でも自由に利用できるようにしている。

人感センサーの設置で事務室にいても来客がわかるようにしており、利用者への対応とセキュリティーの確保を行っている。

ふれあい室の開放中がわかるように、入口に「開放中」と掲示し、利用を呼びかけている。

開放中のテーブルと椅子の配置は、講義形式ではなく、グループ毎に利用できるように工夫している。

書籍は人と動物の共生をテーマにしたものや、子ども向け絵本等350冊以上取り揃え、開放中はいつでも自由に閲覧できる。専門書等は関係者からの寄贈もあった。

共生センターに譲渡動物の見学に来られた方や、共生センター周辺を散策しておられる方など、関心を持っていただいている方々には直接ふれあい室をご案内し、利用可能であることをPRしている。

②センターの管理・運営に関する業務

【専用ウェブサイト】

共生センターの事業については、資料・報告を専用ウェブサイト上で提供し、来所できない市民への利便を図り、国内外への情報発信を行っている。

サイト内では、「こうべ動物共生センター」の事業運営に関するコンセプトの下に、譲渡動物の紹介や教育・啓発・研究に関する教室やプログラムの告知と報告を行っている。

こうべ動物共生センター　ウェブサイト　https://kobe-chai.jp

【サイトの構成】

《こうべ動物共生センターとは》
- こうべ動物共生センターとは？
- セラピー研究フィールドアドバイザー
- 適正飼養アドバイザー会議
- IAHAIOについて
- 事業報告

《一緒に暮らそう》
- わんちゃんの紹介
- ねこちゃんの紹介

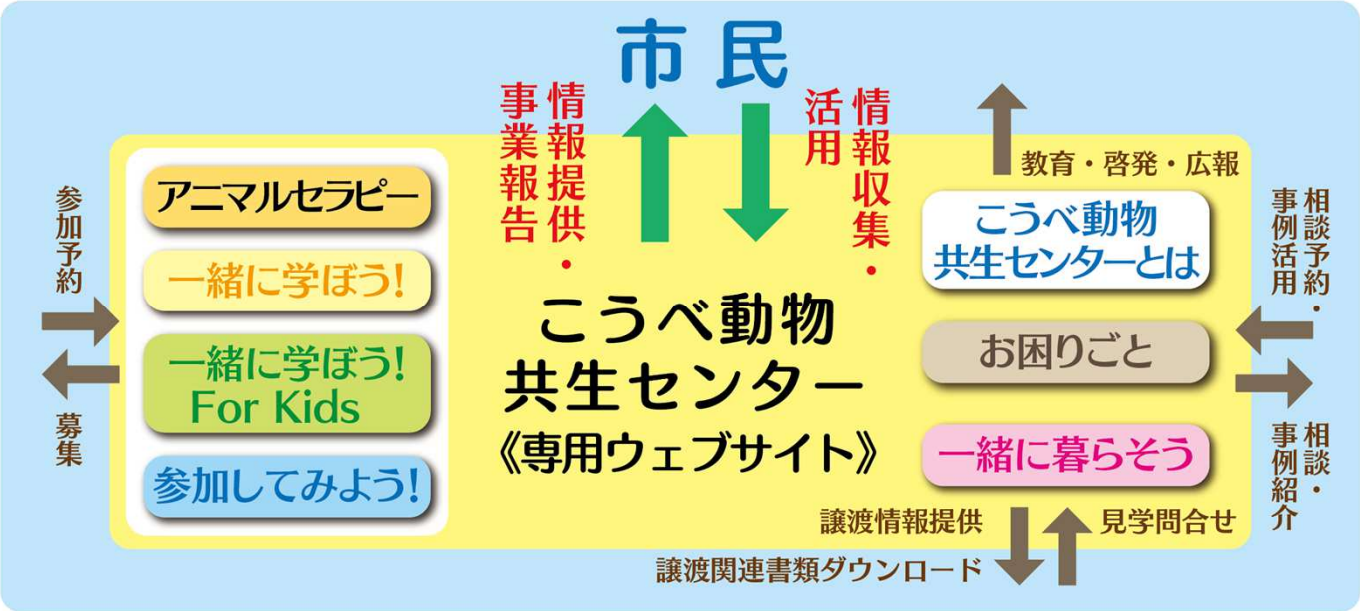
《一緒に学ぼう！》
- 和犬教室
- 老犬との暮らし方教室
- 教室実施報告
- 人と動物の共生の歴史
- 5 Freedomsとは？

《一緒に学ぼう! For Kids》
- 獣医師体験プログラム
- 犬とともだちになろう
- いきものといっしょ
- 「いのちの教育」プログラム
- 実施報告

《お困りごと》
- 来所による相談／パピーのお困りごと相談会
- 獣医師による電話相談

《参加してみよう!》
- お散歩診断
- 楽しくしつけを学ぼう～ドッグスポーツにチャレンジ！
- 介助犬と歩こう！
- 実施報告

《アニマルセラピー》
- わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）
- 研究報告



②センターの管理・運営に関する業務

令和3年10月の正式オープンより、情報発信において「こうべ動物共生センター」専用ウェブサイトは大きな役割を果たしており、神戸市内、市外に共生センターの存在意義と事業内容の認知が進んでいる。

令和4年度、年間アクセス数は109,662（1日平均300）。

ウェブサイト上には、《こうべ動物共生センターとは（市民への教育・啓発）》《一緒に暮らそう（譲渡動物の紹介）》《一緒に学ぼう！（大人・子どもが参加できるプログラム）》《お困りごと（市民の相談窓口）》《参加してみよう！（市民参加プログラム）》などワンストップサービスの窓口としての機能が掲載されている。

各事業の実施報告では、実施の様子や相談事例などをわかりやすく掲載している。

このように、専用ウェブサイトはセンターに足を運ぶことができない市民との重要なコミュニケーションツールとなっており、オンラインでの予約制度や情報発信は、行政と市民とをつなぐ「“つなぐ”場」「市民交流の場」への有用な役割を担っている。

【トップページ（部分）】

②センターの管理・運営に関する業務

【プログラムレポート】

実施した事業の報告は「プログラムレポート」として、実施後速やかにレポートを作成し、環境衛生課の確認後、専用ウェブサイトに掲載している。トップページでは、常に最新のプログラムレポートにアクセスでき、各事業のページにおいても、事業ごとにレポートを確認できるようにしたり、過去の実施報告についても、専用ウェブサイト内の複数のページからアクセスしやすいように工夫している。

各事業のプログラムレポートを市民に見ていただくことは、それぞれの事業内容について知っていただく機会となり、参加申込にもつながっているだけでなく、参加された方がレポートを楽しみに見てくださっているというお声掛けをいただくこともある。このように、事業の成果を市民にフィードバックすることで、市民ひとりひとりの課題解決につなげ、市民とのコミュニケーションの手段としても重要な役割を果たしている。

来所できない市民に対する利便を図り、開館時間内外を問わず各種プログラムの参加申込や問い合わせフォームによる相談受付が可能となっている。
事業の参加希望者が開催日程を確認できるだけでなく、実施内容のレポートの掲載を楽しみにしておられる方も多く、何ヶ月先の開催を楽しみにしているという声を数多く耳にする。また、事業の参加者だけでなく、講師や協力ボランティアなどプログラム提供側も事業の実施レポートを楽しみにして下さっており、参加者と実施者が相互に共通の情報を享受できる場を提供している。
市民に有益で正確な情報を一早くお届けできるよう、引き続き尽力していきたい。

②センターの管理・運営に関する業務

【来所相談の事例報告】

2022年4月の来所相談

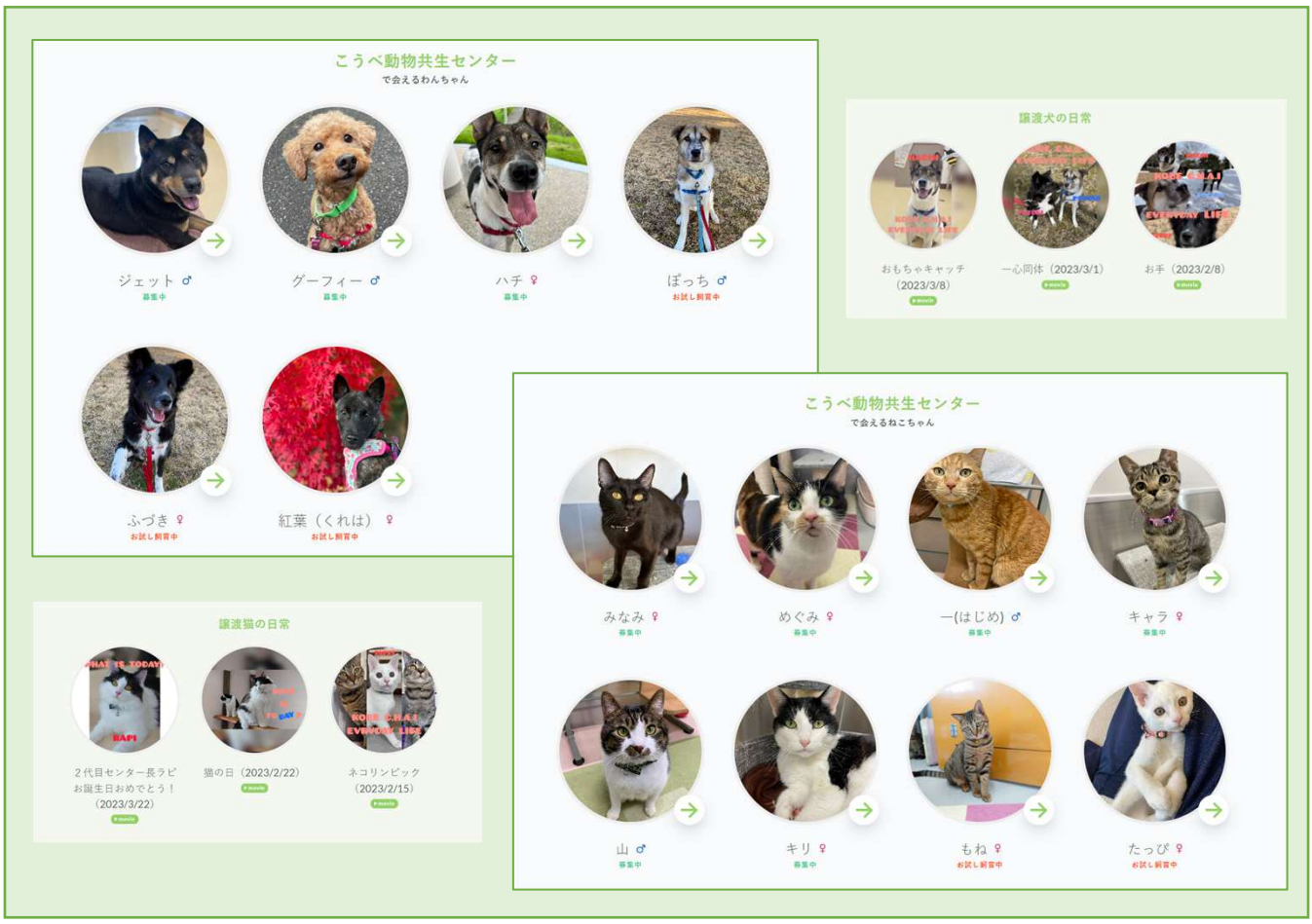
2022年5月の来所相談

その他、「教育・啓発・研究」の教室・プログラムの実施報告は、本報告書のP.27～94を参照。

毎月２回、しつけや困りごとの相談に対して専門家による来所相談を受けている。個人情報に配慮しつつ、来所相談の様子なども発信することで市民がサイトを通して同様の事例を学ぶことができる。また、来所相談日がわかるように、事務室前など複数の箇所に来所相談の案内を掲示している。
今年度は通常の来所相談に加え、4ヶ月齢までの子犬の「社会化期」の様々な経験が今後の成長に大きく影響してくることを鑑み、「パピーのお困りごと相談会」も実施した。日常的に「子犬を飼い始めたがしつけ方がわからない」「トイレトレーニングができない」という相談も入るため、令和5年度は引き続き子犬のしつけ方に関する相談会を実施し、各地域でも同じプログラムが受講できるよう、《こうべ動物共生プラットフォーム》の構築に着手し、プラットフォームに参加する事業者対象の研修として「パピー教室」を開催する予定である。

②センターの管理・運営に関する業務

【譲渡動物紹介】



譲り受けを希望する方の主な条件（令和５年１月16日から）

- 兵庫県内に在住していること。
- ペット飼育可能な家に居住していること。※
- 申請者が申請日において、18歳以上であること。※
- 犬の飼育に関して、同居家族全員の同意があること。
- 将来引越し、転勤等の可能性があり、犬が飼えなくなる恐れがある場合や単身世帯で動物の飼えなくなった場合に、その犬の飼育を任せられる人がいること。※
- 現在、犬猫合わせて3頭以上飼育していないこと。
- 譲り受ける犬の繁殖制限対策（不妊去勢手術）を行うことに同意すること。
- 現在、犬を飼育している場合は、狂犬病予防法に基づく登録及びその年度の狂犬病予防注射を受けていること。

※の項目に関しては詳細な条件がありますので、以下の案内をご覧ください。
わんにゃん譲渡制度の案内〔犬〕（PDF）

譲渡の流れ

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4	STEP 5	STEP 6
『確認シート』のチェック	申請書等の提出	訪問調査	譲渡前講習会	お見合い	譲渡
申請前に確認してください。 確認シート [PDF]	申請書等に記入し、提出してください。※ 申請書等 [PDF]	譲渡の可否判断のためご自宅の訪問調査をさせていただきます。	ペットの飼育に関する講習を受けていただきます。 講習会日程表 [PDF]	希望する譲渡対象とのお見合いをします。	2週間程度のおためし飼育後に正式譲渡となります。

※ 申請書等（申請書・確認シート・誓約書）はwebまたはこうべ動物共生センターの窓口で入手できます。必要事項を記入の上、こうべ動物共生センターに提出してください。

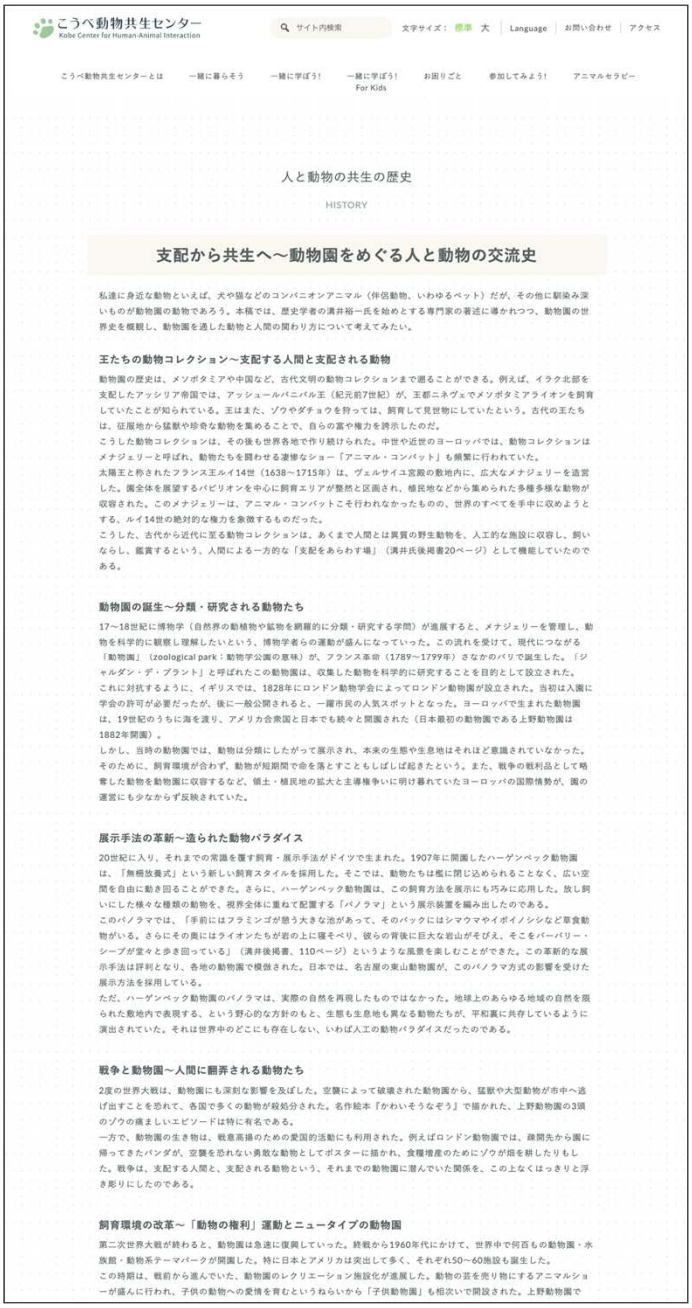
申請書等： PDF EXCEL　確認シート： PDF EXCEL　誓約書： PDF WORD

譲渡の詳細な流れにつきましては、わんにゃん譲渡制度の案内〔犬〕（PDF）をご覧ください。

譲渡犬・猫の紹介ページにおいては、種別、年齢、体重といった基本情報のほか、性格についても記載しており、譲渡動物の飼養管理を受託している（公社）神戸市獣医師会のスタッフと情報交換を行いつつ、連携して譲渡動物のPRに尽力している。
譲渡動物の状況についても、その都度、リアルタイムで正確な情報を提供しており、譲渡犬・猫の日常の様子がわかる動画もアップできるようにするなど、市民にわかりやすいサイト構築の工夫をして情報発信を行っている。

②センターの管理・運営に関する業務

【《一緒に学ぼう！》人と動物の共生の歴史のページ】



こうべ動物共生センター
Kobe Center for Human-Animal Interaction

サイト内検索　文字サイズ：標準 大　Language　お問い合わせ　アクセス

こうべ動物共生センターとは　一緒に暮らそう　一緒に学ぼう！　一緒に学ぼう！ For Kids　お困りごと　参加してみよう！　アニマルセラピー

人と動物の共生の歴史

HISTORY

支配から共生へ～動物園をめぐる人と動物の交流史

私達に身近な動物といえば、犬や猫などのコンパニオンアニマル（伴侶動物、いわゆるペット）だが、その他に馴染み深いものが動物園の動物であろう。本稿では、歴史学者の溝井裕一氏を始めとする専門家の著述に導かれつつ、動物園の世界史を概観し、動物園を通した動物と人間の関わり方について考えてみたい。

王たちの動物コレクション～支配する人間と支配される動物

動物園の歴史は、メソポタミアや中国など、古代文明の動物コレクションまで遡ることができる。例えば、イラク北部を支配したアッシリア帝国では、アッシュールバニパル王（紀元前7世紀）が、王都ニネヴェでメソポタミアライオンを飼育していたことが知られている。王はまた、ゾウやダチョウを狩っては、飼育して見世物にしていたという。古代の王たちは、征服地から猛獣や珍奇な動物を集めることで、自らの富や権力を誇示したのだ。
こうした動物コレクションは、その後も世界各地で作り続けられた。中世や近世のヨーロッパでは、動物コレクションはメナジェリーと呼ばれ、動物たちを闘わせる凄惨なショー「アニマル・コンバット」も頻繁に行われていた。
太陽王と称されたフランス王ルイ14世（1638～1715年）は、ヴェルサイユ宮殿の敷地内に、広大なメナジェリーを造営した。園全体を展望するパビリオンを中心に飼育エリアが整然と区画され、植民地などから集められた多種多様な動物が収容された。このメナジェリーは、アニマル・コンバットこそ行われなかったものの、世界のすべてを手中に収めようとする、ルイ14世の絶対的な権力を象徴するものだった。
こうした、古代から近代に至る動物コレクションは、あくまで人間とは異質の野生動物を、人工的な施設に収容し、飼いならし、鑑賞するという、人間による一方的な「支配をあらわす場」（溝井氏後掲書20ページ）として機能していたのである。

動物園の誕生～分類・研究される動物たち

17～18世紀に博物学（自然界の動植物や鉱物を網羅的に分類・研究する学問）が進展すると、メナジェリーを管理し、動物を科学的に観察し理解したいという、博物学者らの運動が盛んになっていった。この流れを受けて、現代につながる「動物園」（zoological park：動物学公園の意味）が、フランス革命（1789～1799年）さなかのパリで誕生した。『ジャルダン・デ・プラント』と呼ばれたこの動物園は、収集した動物を科学的に研究することを目的として設立された。
これに対抗するように、イギリスでは、1828年にロンドン動物学会によってロンドン動物園が設立された。当初は入園に学会の許可が必要だったが、後に一般公開されると、一躍市民の人気スポットとなった。ヨーロッパで生まれた動物園は、19世紀のうちに海を渡り、アメリカ合衆国と日本でも続々と開園された（日本最初の動物園である上野動物園は1882年開園）。
しかし、当時の動物園では、動物は分類にしたがって展示され、本来の生態や生息地はそれほど意識されていなかった。そのために、飼育環境が合わず、動物が短期間で命を落とすこともしばしば起きたという。また、戦争の戦利品として略奪した動物を動物園に収容するなど、領土・植民地の拡大と主導権争いに明け暮れていたヨーロッパの国際情勢が、園の運営にも少なからず反映されていた。

展示手法の革新～造られた動物パラダイス

20世紀に入り、それまでの常識を覆す飼育・展示手法がドイツで生まれた。1907年に開園したハーゲンベック動物園は、「無柵放飼式」という新しい飼育スタイルを採用した。そこでは、動物たちは檻に閉じ込められることなく、広い空間を自由に動き回ることができた。さらに、ハーゲンベック動物園は、この飼育方法を展示にも巧みに応用した。放し飼いにした様々な種類の動物を、視界全体に重ねて配置する「パノラマ」という展示装置を編み出したのである。
このパノラマでは、「手前にはフラミンゴが憩う大きな池があって、そのバックにはシマウマやイボイノシシなど草食動物がいる。さらにその奥にはライオンたちが岩の上に寝そべり、彼らの背後に巨大な岩山がそびえ、そこをバーバリー・シープが堂々と歩き回っている」（溝井後掲書、110ページ）というような風景を楽しむことができた。この革新的な展示手法は評判となり、各地の動物園で模倣された。日本では、名古屋の東山動物園が、このパノラマ方式の影響を受けた展示方法を採用している。
ただ、ハーゲンベック動物園のパノラマは、実際の自然を再現したものではなかった。地球上のあらゆる地域の自然を限られた敷地内で表現する、という野心的な方針のもと、生態も生息地も異なる動物たちが、平和裏に共存しているように演出されていた。それは世界中のどこにも存在しない、いわば人工の動物パラダイスだったのである。

戦争と動物園～人間に翻弄される動物たち

2度の世界大戦は、動物園にも深刻な影響を及ぼした。空襲によって破壊された動物園から、猛獣や大型動物が市中へ逃げ出すことを恐れて、各国で多くの動物が殺処分された。名作絵本『かわいそうなぞう』で描かれた、上野動物園の3頭のゾウの痛ましいエピソードは特に有名である。
一方で、動物園の生き物は、戦意高揚のための愛国的活動にも利用された。例えばロンドン動物園では、疎開先から園に帰ってきたパンダが、空襲を恐れない勇敢な動物としてポスターに描かれ、食糧増産のためにゾウが畑を耕したりもした。戦争は、支配する人間と、支配される動物という、それまでの動物園に潜んでいた関係を、この上なくはっきりと浮き彫りにしたのである。

飼育環境の改革～「動物の権利」運動とニュータイプの動物園

第二次世界大戦が終わると、動物園は急速に復興していった。終戦から1960年代にかけて、世界中で何百もの動物園・水族館・動物系テーマパークが開園した。特に日本とアメリカは突出して多く、それぞれ50～60施設も誕生した。
この時期は、戦前から進んでいた、動物園のレクリエーション施設化が進展した。動物の芸を売り物にするアニマルショーが盛んに行われ、子供の動物への愛情を育むというねらいから「子供動物園」も相次いで開設された。上野動物園で

清水 智樹先生（京都大学高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点（WPI-ASHBi）特定講師・博士（文学））による、**人と動物の共生の歴史「支配から共生へ～動物園をめぐる人と動物の交流史」**や、国際的な動物福祉の指針である**「5 Freedomsとは？」**を紹介し、「人と動物の共生」について広く市民が考えることができる内容を紹介している。

5 Freedomsについて

5 Freedoms

5 Freedoms（ファイブ・フリーダム（5つの自由））とは？

5 Freedomsとは、家畜の適切な飼育状況の指針として1960年代の英国で提唱された理念が発祥とされていますが、現在では、人間の管理下にあるすべての動物を対象として、それらの動物が「精神的、肉体的に満たされている」ことが担保されている指針のことです。
動物も人間と同様に、たったひとつの「いのち」を生きており、感情や感覚を持ち合わせています。また、それぞれの動物の種類ごとに生理面や行動面、精神面などで基本的な欲求（ニーズ）がありますが、人間の管理下ではそれらのニーズが満たされないことが多く見受けられます。そうした状況を改善し、出来る限り苦痛を軽減しつつ生活を送ってさる環境を提供するための責任を明確化することが、動物への福祉の向上につながると考えられています。
こうべ動物共生センターでは、国際的な動物福祉の指針である5 Freedomsの指針を尊重して事業を行っています。

5つの自由・動物福祉の指標　The Five Freedoms for Animal

1. 飢えと渇きからの自由　Freedom from Hunger and Thirst
・健康でいられるための十分な食事が与えられているか。
・飼育で清潔な水がいつでも飲める状態になっているか。

2. 不快からの自由　Freedom from Discomfort
・その動物に適したスペースが確保され、自由に動ける飼育環境にあるか。
・飼育環境が清潔に保たれているか。
・風雨や炎天下などにさらされていないか。
・きつすぎる首輪をしていたり、怪我をしたりする苦痛な環境にないか。

3. 痛み・傷害・病気からの自由　Freedom from Pain, Injury or Disease
・病気にならないように健康管理ができているか。
・痛みや外傷、もしくは疾病の兆候を示していないか。
・病気や外傷、疾病の兆候があれば、十分な獣医医療が受けられる環境にあるか。

4. 正常な行動を表現する自由　Freedom to behave normally
・正常な行動をするための十分な空間や適切な環境が与えられているか。
・その動物固有の習性に応じて、群れあるいは単独で飼育されているか。

5. 恐怖や抑圧からの自由　Freedom from Fear and Distress
・恐怖や精神的苦痛・不安や過度なストレスがかかっている兆候を示していないか。
・それらの兆候があれば原因を確認し、的確な対応ができているか。

参考文献：環境省（提供資料）／公益社団法人日本動物福祉協会（ウェブサイト）

今後も、国内外の専門家の知見を含めた情報やレポートなどを掲載し、市民ひとりひとりが「人と動物の共生」について考える機会を提供し、共生センターの事業への参加や《こうべ動物共生プラットフォーム》への参画などのきっかけを与えていきたい。

②センターの管理・運営に関する業務

【市主催の事業（犬猫譲渡制度等）の補助】

譲渡事業については、譲渡動物の飼養管理（公益社団法人神戸市獣医師会受託）を除く業務のうち、以下の業務を行った。譲り受けの条件については年齢制限や飼育頭数に係る譲渡要領が改正され、受付事務の対応において、希望者の方々へわかりやすい説明を心がけた。**申請に関する書類は全てウェブサイトからダウンロードできるように対応しており、譲渡希望者の利便を図っている。**

・**譲渡申請書類受付**（センター窓口、メール、郵送、FAXによる対応）
犬猫の譲渡申請希望者に対し、譲渡までの流れと申請書の書き方、添付書類（誓約書・管理規約）の有無、確認シート記入等について説明を行い、受付印の押印後に（公社）神戸市獣医師会に引き継ぎ、神戸市動物管理センターに提出した。

・**譲渡見学会受付**（センター窓口、電話、メールによる対応）
犬猫の譲渡申請希望者に対し、犬猫の見学会参加希望日を聞き取り、予約を受け付けた。参加日当日は窓口にて案内業務を行った。譲渡申請希望のない市民に対しても犬猫譲渡制度について説明を行い、確認シートの記入をしてもらい、譲渡見学会について案内した。午後の時間帯のみ、神戸市動物管理センターでの見学も実施されており、共生センターでの見学同様、予約受付を行った。

・**譲渡前講習会受付**（センター窓口、電話、メールによる対応）
犬猫の譲渡申請書類を提出後に審査を終え、譲渡可否決定通知書の届いた市民からの講習会受講希望日時を聞き取り予約を受け付けた。参加日当日は会場準備及び案内業務を行った。講習会会場であるふれあい室のテーブルセッティングやモニターの準備なども行った。

・**お試し飼育、正式譲渡等の日程調整受付**
譲渡前講習会終了後、譲渡希望者に対して当法人担当者がお試し飼育やお試し飼育開始日の相談、正式譲渡の日程について希望日時を聞き取り手続きを行い、譲渡動物の飼育管理を行っている（公社）神戸市獣医師会と日程調整を行うなどの受付業務を行った。お試し飼育中のしつけ方に関する飼養相談については、相談内容の詳細を聞き取り、（公社）神戸市獣医師会と情報を共有しつつ、共生センターで実施している相談業務（来所による相談や、電話による問題行動相談）、お散歩診断などのプログラムの利用・参加を案内し、課題解決につなげた。お試し飼育期間の延長等については当法人担当者が電話で希望をお聞きし、（公社）神戸市獣医師会とその都度情報を共有して日程調整の対応を行った。

②センターの管理・運営に関する業務

【市主催の事業（犬猫譲渡制度等）の補助】

・広報補助

譲渡制度の周知についても専用ウェブサイトは重要な役割を担っており、譲渡制度や譲渡動物の情報を掲載するだけでなく、譲渡に必要な書類のダウンロードができるなど、より市民が利用しやすい工夫を行っている。特に譲渡動物の紹介ページにおいては、動画をアップできるようになるなど、譲渡動物個々の表情や大きさなどがわかりやすく伝わる方法で情報提供を行った。

譲渡事業以外の啓発・教育事業においても、専用ウェブサイトでの開催告知・実施報告のレポート掲載などを通して、メディアからの取材や関係者も含めた市民からの視察・見学等の窓口となって対応を行った。

また、神戸市で管理するInstagram、デジタルサイネージに掲載する譲渡動物の写真等の情報提供を行った。デジタルサイネージについては、専用ウェブサイトに掲載されている譲渡動物の情報や参加可能な事業に関するチラシ画像、神戸市人と猫との共生推進協議会のPR動画等を盛り込んだ内容を掲示しており、デジタルサイネージの仕様に合わせたデータ作成も行っている。さらに、人通りが多い事務室前に譲渡動物の写真を掲示することで、時間外や休館日も情報を確認できるようにし、多くの来場者に見ていただける工夫も行った。

サイネージの譲渡動物情報

事務室前の譲渡動物情報

②センターの管理・運営に関する業務

【業務従事者関係】

《人員配置》

常勤スタッフ2名、非常勤スタッフ3名で人員配置を行った。平日は2名体制とし、会議日や各事業実施日においては必要に応じて増員し、業務時間内に欠員が生じないようにした。また、各事業実施日においては、当法人のボランティア登録制度を活用し、ボランティアの方々にも「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」「犬とともだちになろう」の事業運営にご協力いただいた。

超短時間雇用については、就労継続支援（B型）事業所の継続利用が可能であることから、当法人の障害者自立支援事業の連携先であるNPO法人おーけすとら・ぴっと就労継続支援（B型）事業所Patch との連携が認められており、令和3年度内に雇用した方の体調不良による退職後、Patchと同じ法人の就労継続支援（B型）事業所こころわの利用者である軽度の知的障害者の方を雇用することができた。事務室前トイレや共生センターふれあい室清掃の業務を担当してもらっている。業務に慣れるまでの間はPatchの管理者が同行してサポートを行った。しごとサポート中部のご担当者の方が定期的に業務に従事している様子を見に来てくださっている。

《研修の実施》

業務に従事するスタッフに対し研修を実施し、委託内容に関する技術向上に係るスキル向上に努めた。今年度実施した研修は以下のとおりである。

◎令和4年5月17日（火）スタッフ全体研修

当法人がSDGs推進で包括連携協定を締結している兵庫県多可町役場を訪問し、当法人がSDGs推進事業として受託し実施しているこうべ動物共生センターの啓発・教育事業について紹介、情報交流を行った。また、多可町内で子どもを対象とした教育プログラムとして木育を実施している施設の見学を行った。

chattanaの森（多可町余暇村公園）にて

多可町役場での情報交流

②センターの管理・運営に関する業務

◎令和4年10月28日（金）／11月11日（金）「いのちの教育」研修会参加

奈良県と当法人共催の「いのちの教育」研修会にスタッフ全員が参加した。奈良県うだ・アニマルパークで開催のこの研修には、全国の自治体職員や教育関係者が参加しており、意見交流の場では、こうべ動物共生センターで実施している「いのちの教育」プログラムについて報告を行った。

実際の授業を見学することで、職員全員が「いのちの教育」プログラムの小学生プログラムへ更なる理解を深めた。

各自治体や教育関係者がどのような取り組みを行っているか、意見交換の場で報告し合う。

◎令和5年2月21日（火）張り子作り研修会実施

「いのちの教育」プログラムの教材・張り子の作り方を学ぶ研修会を当法人職員向けに実施。自分たちで制作することで、張り子の動物たちの一体一体の手触り、表情が子どもたちの心に響き、イメージを膨らませて授業に集中する役割を担ってくれている理由を理解することができた。

《来所者に対する安全管理》

神戸市消防局が実施する応急手当定例講習会（普通救命コース）を業務に従事するスタッフが全員受講した。

＜神戸市動物管理センター開催＞

11月8日（火）2名／11月11日（金）1名

＜神戸市防災センター開催＞

2月26日（日）1名／3月11日（土）1名

事務室設置のAEDを実際に使用するケースはなかったが、周辺で散歩中の市民が転倒、後頭部からの出血があり、救急車要請を行った。引き続き年に1回は全員で講習会を受講し、胸骨圧迫やAED使用の実技等を学ぶことで、来所者に対する安全管理を怠らないように努めていきたい。

②センターの管理・運営に関する業務

【しあわせの村の他の事業との連携協力】

◎会議への出席

こうべ動物共生センターは、しあわせの村内の営業施設として、以下の4つの会議への出席が求められている。

①しあわせの村会議

しあわせの村会議とは、村内医療・福祉施設及びしあわせの村運営共同事業体（JV）の代表者により組織し、令和2年度に発足した。神戸市（しあわせの村リニューアル検討有識者会議提言）が目指すソーシャルインクルージョンを村で実現する取り組みに向けた連携と意見交換の場である。上記の委員のほか、営業施設、運営事業者がオブザーバーとして参加しており、Knots（共生センター管理者）もオブザーバーとしてオープン後の令和3年度第2回の会議より出席させていただいている。令和4年度は2回開催された。また、毎月事業開催予定や来場者数等の報告を行っている。

開催日時	議　題
第1回 令和4年7月29日（金） 15:00～17:00 （研修館ホール／オンライン併催）	1．開会 （1）新委員等紹介 （2）令和4年度しあわせの村会議 趣旨説明 2．講演とセッション テーマ：「総合福祉ゾーン、しあわせの村における高齢者福祉」 －認知症予防の可能性－ 講師：神戸市シルバーカレッジ学長　前田潔氏 神戸学院大学総合リハビリテーション学部／神戸大学名誉教授 3．連絡事項 ・こうべ脱炭素社会づくり研究会からアンケート調査の協力依頼について ・その他
第2回 令和4年10月17日（月） 15:30～17:30 （野外活動センターあおぞらミーティング室／オンライン併催）	1．講演／質疑応答 テーマ：クラウドファンディングによる社会課題の解決について （資金調達に関する新たな手法の事例紹介等） 講師：ファンズ株式会社　代表取締役　藤田雄一郎氏 2．連絡事項 ・第32回しあわせの村まつり～村の小さな夏まつり～実施報告 ・「特別講演会」ご案内 日時：12月22日（木）13:30～15:00　研修館ホール 講師：国立民族学博物館　准教授　広瀬浩二郎氏 テーマ：世界はさわらないとわからない ～今さらだけど、「しあわせ」って何だろう

②しあわせの村広報部会

しあわせの村広報部会とは、村内医療・福祉施設及びしあわせの村運営共同事業体（JV）、営業施設、運営事業者の主に広報担当者が参加し、しあわせの村全体の広報について検討、意見交換をする会議の場である。Knotsは令和3年度第1回の会議より出席。令和4年度は開催されなかった。

②センターの管理・運営に関する業務

③しあわせの村営業施設　広報担当者ミーティング

しあわせの村営業施設広報担当者ミーティングとは、村内営業施設の販売促進や集客、広報に特化した内容について、各営業施設の広報担当者が参加し、意見交換をする会議の場である。Knotsは令和3年度第1回の会議より出席。令和4年度は2回開催された。

開催日時	議　題
第1回 令和4年7月8日（金） 14:30～15:30 （本館7階展望ルーム）	1．ミーティングの趣旨 しあわせの村内のJV・営業施設、イベントを行う施設のみで構成したメンバーで気軽に参加していただく。 2．イベント等企画案 各施設の企画案について紹介（7/16（土）～9/25（日）） 3．広報ツール紹介 ・しあわせの村ホームページ ・村内デジタルサイネージ ・SNS投稿の相互シェア ・WEBサイトのイベント等情報提供ツール 神戸新聞スキップ、イベントバンク、神戸ジャーナル、KissPress ・動画の配信 ・神戸新聞イベント欄 ・学校園チラシ配信アプリ（すぐーる） 4．今年度のスケージュール 第1回　7月8日（金） 第2回　11月頃「クリスマス・年末年始に向けて」 第3回　2月頃「春の行楽シーズンに向けて」 昨年度実績：11月26日（金）「クリスマスイベント、広報ツール紹介」 2月21日（月）「花見、しあわせの村の春祭り、実現したい企画等」
第2回 令和5年3月17日（金） 13:00～14:00 （こうべ動物共生センター／ボウケンノモリ）	1.　メンバー紹介 2.　ミーティングの実施方法について （1）施設見学を通じた情報交換 （2）イベントカレンダーの活用 3.　お知らせ （1）しあわせの村情報コーナーリニューアルについて （2）おさんぽMAPの新年度4月更新について 4.　施設見学 （1）こうべ動物共生センター （2）ボウケンノモリ

しあわせの村情報コーナーリニューアルについて

第2回のミーティングにおいて、しあわせの村情報コーナーがリニューアルされた旨、振興協会ご担当者から報告があり、本館・宿泊館エントランスホールや温泉健康センターマルシェ前、屋外掲示板などの掲示サイズや掲示可能枚数について説明があった。掲示を希望する場合は運営振興課に依頼。ラミネート加工した事業の案内等を掲示していただいている。

②センターの管理・運営に関する業務

④しあわせの村まつり実行委員会

しあわせの村内の福祉施設関係団体、近隣地域、ボランティアの参加協力により、広く市民が交流する「しあわせの村まつり」を7月最終土曜日に開催しているが、新型コロナウイルスの影響で令和2年度以降中止している。公益財団法人こうべ市民福祉振興協会職員のみを中心とする実施体制及び企画内容の見直しを図るため、村内全施設の職員等で構成する「しあわせの村まつり実行委員会」が令和2年度に設置された。「しあわせの村まつり」の在り方、今後の方向性等について議論する場であり、Knotsは令和3年度第3回の会議より出席させていただいている。令和4年度は1回の開催であった。

開催日時	議　題
第1回 令和4年６月13日（月） 15:30～16:30 （研修館大会議室/オンライン併催）	1. 出席者自己紹介 2. 令和4年度活動、夏まつりについて ・令和4年度しあわせの村まつりのコンセプトについて ・令和4年度しあわせの村まつり「夏まつり」開催イメージの一部変更について ・「村の小さなお祭り」への参画について 日程：①8/28（日）　②8/29（月）　③9/11（日） ④9/19（月・祝）　⑤9/23（金・祝）　⑥9/25（日） ・実行委員会スケジュール 第1回（6/13） ・令和4年度夏まつり「村の小さなお祭り」について 第2回（11月） ・夏まつり「村の小さなお祭り」参加を踏まえた振り返り ・令和5年度しあわせの村まつりに向けた意見交換 第3回（1月） ・令和5年度しあわせの村まつり　開催方針案の策定 3. その他

◎しあわせの村の事業・イベント等への参加

しあわせの村（公益財団法人こうべ市民福祉振興協会）より御案内を頂いた事業・イベント等については、休憩時間を利用するなどして可能な限り参加、見学させていただいた。

開催日時	事業・イベント内容
令和4年12月15日（木） 13:30 ～14:00	第11回　こころのアート展　内覧会 しあわせの村本館・宿泊館エントランスホール
令和4年12月22日（木） 13:30～15:00	しあわせの村　特別講演会 「世界は　さわらないとわからない」 ー今さらだけど「しあわせ」って何だろう 広瀬 浩二郎氏（国立民族学博物館　准教授）
令和5年3月11日（土） 11:00～16:00	2023年度しあわせの村ユニバーサルフェスタ （見学）

②センターの管理・運営に関する業務

◎ローンボウルズ場の多目的利用

令和4年度も共生センターの事業では「**楽しくしつけを学ぼう～ドッグスポーツにチャレンジ！**」で、サブコート（練習場）を利用させていただいた。利用に際し、使用前後の清掃など最大限の注意をはらうと共に、人工芝のコートであるため、利用の際には参加犬たちに紙オムツやマナーベルトを着用してもらっている。

「楽しくしつけを学ぼう～ドッグスポーツにチャレンジ！」の参加犬では、初めて紙オムツ等を着用する犬が多かったが、犬たちに大きな混乱はなく、飼い主のご理解とご協力を得て実施できた。

◎温泉健康センター体育館での事業実施

4月のしあわせの村開村記念日に開催されたしあわせの村まつり「春まつり」と10月開催の「第33回こうべ福祉・健康フェア」において、同日開催の「**介助犬と歩こう！**」のプログラム実施場所として、温泉健康センター体育館を使用させていただいた。今後もしあわせの村内でのイベントとのコラボレーションをして、共生センター以外の場所での事業実施を進めていきたい。

「こうべ福祉・健康フェア」
主催：公益財団法人こうべ市民福祉振興協会運営振興課／神戸市／神戸市教育委員会／神戸市福祉協議会／ふれあいのまちKOBE・愛の輸血運動推進委員会／神戸在宅医療推進財団

広い会場でブースを用意していただき、共生センターふれあい室での開催以上に多くの方に参加していただくことができた。

広い空間ではデモンストレーションも見ていただきやすく、事前申込をされていない方でも当日見学していただくことができた。

③「アニマルセラピー」動物ふれあい事業

【セラピー研究フィールド】

人と動物相互の科学的影響を明らかにし、広く市民生活の質の向上に貢献し、国内外へ情報発信できるよう、国内外の専門家による研究フィールドを構築している。

調査・研究の成果は、個人情報に配慮した上で、当サイト上で提供し、市民の皆様への利便を図ると共に、国内外へ情報発信する。

※実施においては、事業に参加する動物にはなるべくストレスがかからないように配慮し、IAHAIO（International Association of Human-Animal Interaction Organizations）の「IAHAIO 白書（IAHAIO White Paper）」（P.5参照）に沿って行っている。

《国内アドバイザー》

中山裕之先生
東京大学名誉教授／動物医療センターPeco獣医療研究所長

柴内裕子先生
赤坂動物病院総院長／公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）相談役

土居裕和先生
長岡技術科学大学 技学研究院 情報・経営システム系 准教授（学術博士）

島村俊介先生
大阪公立大学 獣医学部 小動物臨床医学 准教授

《海外アドバイザー》

木下美也子先生
〔アメリカ〕
グリーン・チムニーズ*＆ファームサム＆マイラ・ロス研究所教育プログラム部長／神戸市出身

Prof. Andrea Beetz
〔ドイツ〕
MA心理学／博士号（心理学）／博士号特殊教育）特別・インクルーシブ教育教授 IU国際応用科学大学・ドイツ

***グリーンチムニーズ（アメリカ・ニューヨーク州）とは**
AATやAAA等を行う、情緒障害・学習障害等を持つ子どもを治療するための長期療養型施設。自宅から通学する子どももいるが、半数は寄宿舎で暮らし、生活も共にしている。自然や動物たちに囲まれた環境の中で、その自然や動物との関わりを通して命あるものを大切にする心を育み、自己肯定感につながる教育を行っている。子どもたちは、専門家によるサポートを受けながら、社会復帰を目指す。

アニマルセラピーの一環として「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」を実施するにあたり、アドバイザーの先生方にはメールやオンラインミーティングを通して、プログラムの取り組み方や研究の手法について様々なアドバイスを頂いた（実施内容・研究手法については「アニマルセラピー 動物ふれあい事業」（P.28～36）に記載）。次年度も、今年度の研究経過もふまえ、オンラインミーティングをはじめ、国内では対面でのアドバイザーの先生方からアドバイスを頂く機会を設けていく。

③「アニマルセラピー」動物ふれあい事業

【わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）】

R.E.A.D.プログラムとは、Reading Education Assistance Dogsの略で、アメリカではAAT（動物介在療法）*の一環として行われている。人間相手ではなく、子どもが犬に本の読み聞かせを行うことで音読が苦手な子どもが自信を失うことなく意欲を育み、読書力の向上等の効果が期待できると共に自己肯定感を持てるようになり、犬との関わりを通して心の成長をうながすことを目的としたプログラムである。

こうべ動物共生センターでは、セラピー研究フィールドを設置して、科学的影響の調査を行いながら「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」を行っている。

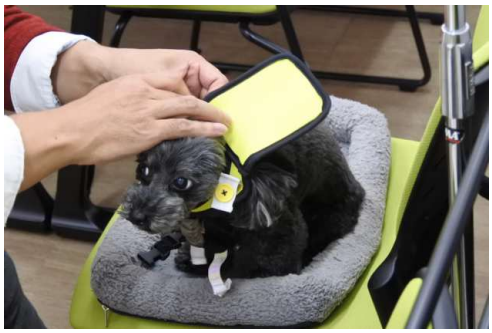
令和4年7月28日付で、神戸市保健事業に係る研究倫理審査委員会の承認を受け、正式に神戸市の研究事業として認められた。

こうべ動物共生センターでは、市民及び参加する子どもたちに分かりやすくするため、「わんちゃん読書会」という名称を使用している。

* AATとは
Animal Assisted Therapyの略で、目標をもって計画、構築された治療的介入で、医療、教育、人的サービスの専門家（心理学者やソーシャルワーカー等を含む）によって監督、実行される心理療法のこと。

「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」には、JAHA（公益社団法人日本動物病院協会）の訪問活動にボランティア参加をしている飼い主様とわんちゃんたちにご協力をいただいている。

このプログラムでは、「ひとりで読む」「犬に対して読む」「人に対して読む」の3パターンで音読しているお子さんの様子を動画で撮影させていただき、株式会社シーエーシー様が技術提供をしてくださっている感情分析ソフト「心 sensor」を使ったデータ分析やアンケート調査などを用いて、認知機能・精神状態に与える影響の実証的検証行っている。



また、わんちゃんたちに対してはウェアラブルデバイスのペットバイタルセンサー装着による心拍計測、および唾液採取による自律神経活動指標の評価と、参加中の様子のビデオ撮影を行い、行動からストレス反応の評価を行う。

このように人の側からと犬の側からの研究を同時に行い、人と犬相互の科学的影響を調査・研究している。

③「アニマルセラピー」動物ふれあい事業

【長岡技術科学大学 技学研究院 情報・経営システム系 准教授 土居 裕和先生（国士舘大学（前任校）理工学部倫理委員会承認）による研究】

研究課題名：「動物介在療法R.E.A.D. が学童の認知機能・精神状態に与える影響の実証的検証」

■ 研究の手法について

お子様には、対動物条件、対人条件、統制条件の3条件での計測に参加していただく。計測に参加する前のタイミングで、背景情報（年齢、性別など）に関する質問紙に回答していただく。各条件での実施内容は以下のとおり。

絵本の読み聞かせを「ひとりで読む」「犬に対して読む」「人に対して読む」各10分ずつ行っていただく。その間の顔動画を撮影させていただく。また、読み聞かせ中の朗読音声を収録させていただく。また簡易なアンケート調査* により、読み聞かせ後の気分を評価させていただく。

〔対動物条件・犬に対して読む〕

マットや毛布を敷いてスペースを作り、そこに研究対象者は犬と一緒に座って本を読んでいただく。

〔対人条件・人に対して読む〕

こうべ動物共生センターのスタッフ１名に対して、絵本の読み聞かせを行ってもらう。

〔統制条件・ひとりで読む〕

一人で、音読を行っていただく。

*** アンケート調査内容：SCAS スペンス児童用不安尺度**

SCASスペンス児童用不安尺度はDSM-IV-TRに基づいて作成された子どもの不安症を６つの下位尺度で評価できる検査である。

① SCASは子どもの不安症を測定する目的で開発された自己記入式の質問紙である。子どもの不安症は、児童の心理的問題の中で最もよく見られるものとされていて、6～12ヵ月の有病率は10％前後もあると考えられている。

② DSM-IV-TRに基づいて作成されており、不安障害全体の程度に加えて、分離不安障害、社交不安障害、強迫性障害、パニック障害、全般性不安障害、外傷恐怖（限局性恐怖症）の６つの下位尺度を備えている。

③ 回答は「いつもそうだ」から「ぜんぜんない」までの４段階評価である。質問項目は児童にもわかるように平易であり、難しい漢字には振り仮名がつけられている。

④ 標準化が行われ、小学３年生から中学３年生を対象に使用できることが確認されている。

SCAS 回答用紙

【やり方】

あなたは、ふだんの生活で、そこに書かれていることがどれくらいありますか。それぞれについて、「いつもそうだと思う」「ときどきそうだと思う」「たまにそうだと思う」「ぜんぜんないと思う」のどれにあてはまるか、○をつけてください。では、1番から38番まで答えてください。

	いつもそうだ	ときどきそうだ	たまにそうだ	ぜんぜんない
1. 何か心配なことがあります				
2. 暗いところがこわいと思います				
3. こまったことがあったとき、おなかの調子が悪くなります				
4. なんとなくこわい				
5. 家で一人でいると、こわいと思います				
6. テストを受けるとき、こわいと思います				
7. 公衆トイレを使うとき、こわいと思います				

③「アニマルセラピー」動物ふれあい事業

【大阪公立大学 獣医学部 小動物臨床医学 准教授 島村 俊介先生による研究】

■ 研究の内容

生体は外的刺激、いわゆるストレスを受けると恒常性を維持するための反応が見られる。R.E.A.D.プログラムに参加するイヌにおいても、「本の読み聞かせ」以外の様々なストレスが加わることになるため、外的刺激の最小化、あるいは標準化を行い、目的の「本の読み聞かせ」に対する反応を抽出することが重要となる。

今回の研究では、参加するイヌにかかるストレスの評価を目的として、そのストレス反応の基準設定、及び新奇環境刺激への馴化の評価を行った上で、 R.E.A.D.プログラムがイヌに与える影響について検証していく。

〔評価指標〕

今回、プログラムが実施される中で、参加するイヌたちに協力してもらい、以下の指標を評価する。

〔自律神経活動指標〕

参加するイヌの心電情報から自律神経活動指標の推移を評価する。

収集方法：イヌにウェアラブルデバイスを装着してもらう。

収集期間：プロブラム参加前から参加後まで継続して心電情報を収集する。

解析方法：収集した心電情報から解析アルゴリズムを用いて指標を算出する。

〔生理的指標〕

プログラム参加前後の唾液中のオキシトシンとバソプレッシン濃度を測定する。

収集方法：唾液サンプルは専用の唾液回収用キットを使用する。

測定方法：ELISA 法により測定する。

〔行動的指標〕

参加するイヌの行動からストレス反応を評価する。

収集方法：参加中のイヌの様子をビデオ録画する。

撮影期間：R.E.A.D.プログラム実施中

解析方法：撮影動画からイヌの表情や行動を検証し、ストレス反応をスコア化する。

イヌの行動をスマホの録画機能で記録

スポンジに含ませた唾液を、遠心分離機を使用して抽出後、成分濃度を計測

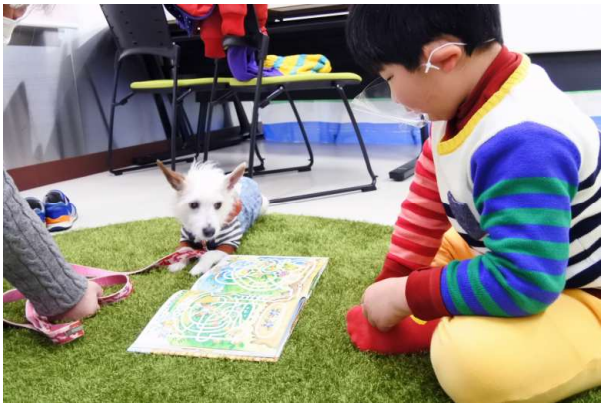
③「アニマルセラピー」動物ふれあい事業

子どもたちから、「ひとりで読むのは緊張したけど、わんちゃんに読んであげたのがうれしくて楽しかった」「わんちゃんが、自分が読んでいる絵本をきいてくれるのが、うれしかった」「自分と同じ7歳のわんちゃんに本を読んであげられて楽しかった」などの感想が寄せられた。

寄り添って耳を傾けてくれるわんちゃんたちが、子どもたちに安心感と自己肯定感を与えてくれているように見受けられる。

保護者の方からも、「今日初めて犬に触れるので心配していたが、穏やかなわんちゃんで、子どもも全く怖がっておらず参加できてよかった」との感想があった。

読書終了後には、わんちゃんと交流する時間を設け、付き添いの方々も一緒にくつろぐ時間を過ごしていただくことができた。



土居裕和先生考察
現在収集された動画による表情分析結果のデータ、音声データ、アンケート内容から「緊張状態が高まっている時に出現しやすい感情の指標が対犬条件下で低下しており、これを考慮すると、犬の存在が子どもの心理的緊張を和らげる働きをしていたのかもしれません」
島村俊介先生考察
「現在データの解析では、R.E.A.D.に参加することによる犬へのストレスは見受けられないが、さらなるデータの積み重ねでより詳細な分析研究を進めていきたい」

引き続き令和5年度では12回のプログラムを行い、アニマルセラピーとしての人と動物の相互作用の分析を進めたい。

動物介在療法 R.E.A.D. 実施中の児の心理状態に関する報告書

土居　裕和（長岡技術科学大学/国士舘大学）
高橋　幸雄（国士舘大学）
小野寺　楓凛（国士舘大学）

1. はじめに

Reading Education Assistance Dogs（以下、R.E.A.D.）は、子どもの識字能力の改善を目的にアメリカの図書館で始まった活動で、子どもが動物（主に犬）に本の読み聞かせを行うものです。犬は子どもの読み方に対して評価を下さないため、音読が苦手な子どもであっても自信を失うことなく取り組めるプログラムであり、子どもの読む意欲を育み、読書力の向上等の効果が期待できるとされています。

しかし、R.E.A.D.の効用に関する報告の大半は逸話的なものであるため、R.E.A.D.の効果が、科学的に確かめられたとは言い難い状況にあります。そこで、本調査では、R.E.A.D.を模して、犬に読み聞かせを行っている最中の子ども達の心理状態を、表情分析により評価することで、R.E.A.D.の実施が、児に精神的な負担をかけることがないかどうかを調べました。

2. 方法

2-1. 研究参加者

公益社団法人Knots が実施する「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」に参加した児童のうち、保護者のインフォームド・コンセントと、本人のインフォームド・アセントが得られた児18名（年齢：平均 ＝ 8.11，標準偏差 ＝ 1.88；女児12名 男児6名）

2-2. 方法

研究対象者に絵本の読み聞かせを約20分間行ってもらい、その最中の顔動画像を、研究対象者の前に設置されたビデオカメラで撮影しました。絵本の読み聞かせは、以下の3つの条件で行いました。

〔条件①：対犬条件〕

公益社団法人日本動物病院協会（ＪＡＨＡ）のＣＡＰＰ（訪問活動）チームに所属する犬を前にして絵本の読み聞かせを行ってもらいました。

〔条件②：対人条件〕

こうべ動物共生センターのスタッフ１名を前にして、絵本の読み聞かせを行ってもらいました。

〔条件③：統制条件〕

研究対象者に一人で、音読を行ってもらいました。

2-3. 分析

収録した顔動画像は、株式会社シーエーシーの心sensor を利用して分析しました。心sensor は、Affective 社の感情認識人工知能によって、顔動画像から時々刻々と変化する表情を分析できるソフトウェアです。

3. 結果

心sensor では、表情を作り出すAction Unitの動きのパターンに基いて、動画の各フレームごとに、13種類の感情の強度が数値化されます。心sensor の分析結果の一例を図1に示します。

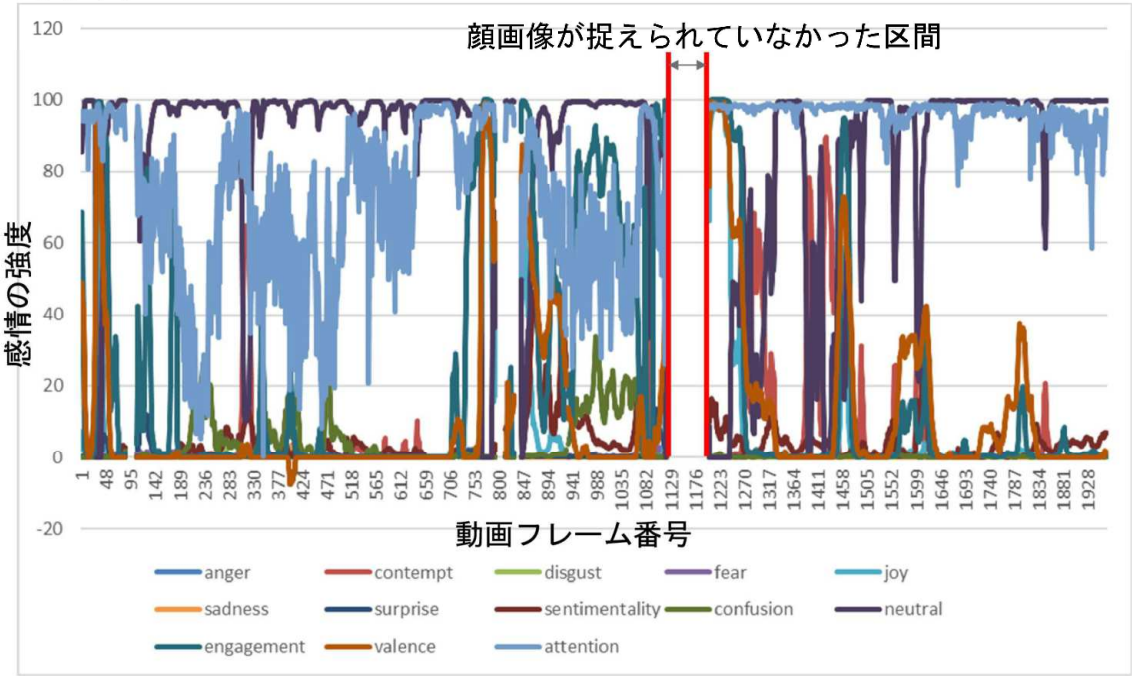


図1. 心sensor による感情強度の時系列変化の分析例

心sensor で評価した10種類の感情の平均を、各条件ごとに計算しました。分析を行った感情は「Anger（怒り）」「Contempt（軽蔑）」「Disgust（嫌悪）」「Fear（恐怖）」「Joy（喜び）」「Sadness（悲しみ）」「Surprise（驚き）」「Neutral（無感情）」の8つの感情と「Engagement（注意・集中）」「Valence（肯定的表情・否定的表情）」の2つの特殊指数の計10種類です。なお、感情強度の平均を計算する際には、動画に児の顔が捉えられておらず、感情強度を評価できていない区間は除外しました。各感情の感情強度を、一要因分散分析で統計分析しました。

その結果、「Anger（怒り）」「Contempt（軽蔑）」「Disgust（嫌悪）」「Fear（恐怖）」「Sadness（悲しみ）」「Joy（喜び）」「Neutral（無感情）」「Valence（肯定的表情・否定的表情）」の8つの感情では、有意差はみられませんでした。

その一方で、「Surprise（驚き）」には有意傾向が、「Engagement（注意・集中）」には5%水準で有意差がみられました。「Surprise（驚き）」と「Engagement（注意・集中）」の各条件における感情強度のグラフを、図2と図3に示します。

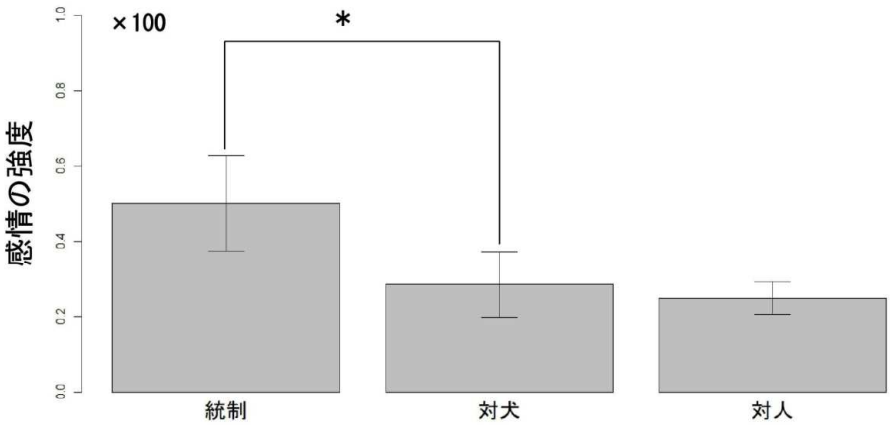


図2. 各条件における「Surprise（驚き）」の感情強度. エラーバーは標準誤差. *p <.05

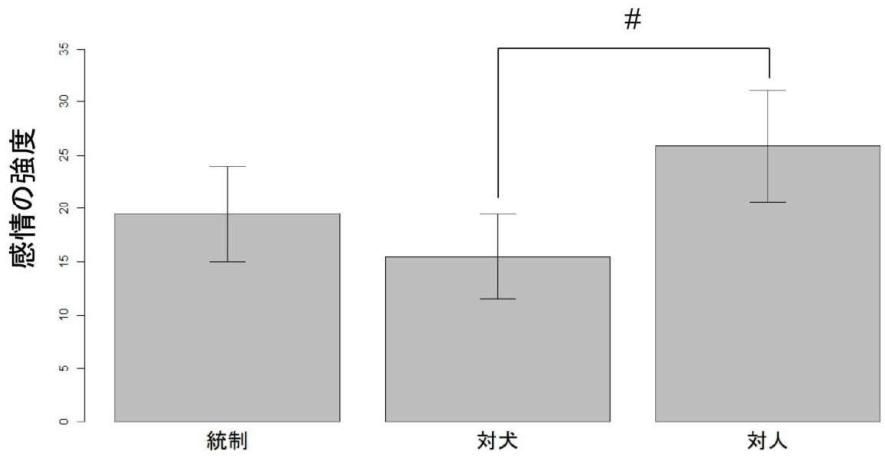


図3. 各条件における「Engagement（注意・集中）」の感情強度. エラーバーは標準誤差.#p <.10

下位検定の結果、「Surprise（驚き）」の感情強度は、統制条件に比べ対犬条件で有意に低くなっていました。その他の対比較で、有意差はみられませんでした。

「Engagement（注意・集中）」の感情強度の違いは、対人条件と対犬条件との間で有意傾向にありました。その他の対比較で有意差はみられませんでした。

4. 考察

本調査では、犬に絵本を読み聞かせるという体験が、児に精神的な負荷を与えるか否かを検証することを目的に、対犬・対人・統制条件の3条件で、読み聞かせ中の児の表情を分析しました。

分析した感情のうち、「Anger（怒り）」「Contempt（軽蔑）」「Disgust（嫌悪）」「Fear（恐怖）」「Sadness（悲しみ）」が不快感情に相当しますが、これらの感情において、条件間で差はみられませんでした。統計的な有意差がないことをもって、直ちに効果がないとは言い切れません。しかし、今回調査した範囲では、動物を前にした読み聞かせが、児に負担を与えるという兆候は認められませんでした。

一方、効果は非常に弱いものの、「Surprise（驚き）」と「Engagement（注意・集中）」には、対犬条件とその他の条件とで差がみられました。

このうち「Engagement（注意・集中）」は、絵本読みの最中の集中度を反映したものと考えられます。対犬条件で、対人条件にくらべ「Engagement（注意・集中）」が低下したという結果は、犬の存在に注意をひかれ、読書に集中しにくくなった可能性を示唆しています。

統制条件に比べ、対犬条件で「Surprise（驚き）」が低下した原因ははっきりしません。「Surprise（驚き）」は快/不快の分類が難しい感情ですが、緊張状態が高まっている時に出現しやすい感情です。これを考慮すると、犬の存在が、児の心理的緊張を和らげる働きをしていたのかもしれません。

わんちゃん読書会（R.E.A.Dプログラム）に参加するイヌのストレス検証研究

1年を終えての経過報告

獣医学部　小動物臨床医学
島村俊介
大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

研究の目的

近年、「ペット」に代表される動物との関わりによる肯定的な効果が現代社会に生きる人への新たな処方箋として注目され、動物介在活動や動物介在療法を包括する、いわゆるアニマル・セラピーが様々な場所で盛んにおこなわれています。 一方で、アニマル・セラピーに参加するイヌをはじめとする多くの動物への影響について配慮するべきとの指摘がなされるようになってきました。

「動物介在療法・活動が動物に影響を及ぼさないように
予防的措置・配慮をすること」

人と動物との相互作用に関する国際学会（IAHAIO）における提言　1998

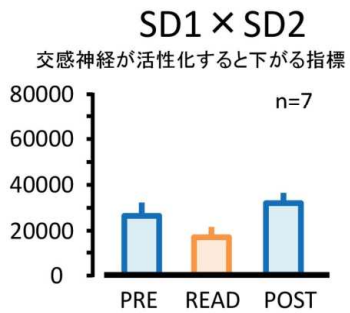
これは単に動物福祉の面からだけでなく、ストレスを感じた動物がヒトに対して対抗しようとして咬んだり引っ掻いたりするといった事故の防止という面からも重要と考えられています。しかしながら、アニマル・セラピーに参加する動物のストレスについての報告は少ないのが現状です。そこで、私たちはR.E.A.Dプログラムに参加するイヌのストレスを検証することに挑戦することとしました。

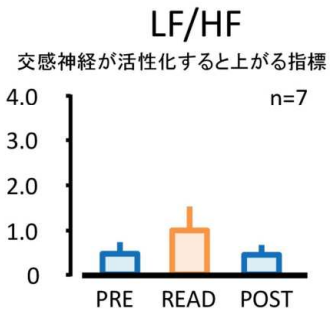
イヌたちはウェアラブルデバイスを装着してR.E.A.Dに参加します

研究スケジュール

READ参加前（PRE）と後（POST）に別室（控室）で飼い主と共に安静条件にイヌをおき、READ中のイヌの変化をその前後と比較することとしました。

結果





心拍リズムと自律神経

心臓の拍動リズムは、外環境に適応するため、自律神経による調節を受けて変動しています。この自律神経にはアクセルに例えられる交感神経とブレーキに例えられる副交感神経のバランスで調節を行っていて、ストレスがかかると交感神経が活性化し、心拍が早くなります。

イヌには予めREAD参加前にウェアラブルデバイスを装着することで、実験期間を通じた心電情報を取得しました。心拍間隔の変動から自律神経活動を指標化する心拍変動解析を用いて、取得した心電情報からイヌたちのストレスを検証しました。R.E.A.D参加前後の安静状態（青色）と比較してR.E.A.D中（橙色）の指標（SD1×SD2、LF/HF）は、交感神経の活性化を示す傾向が見られましたが、明らかな（統計学的に有意な）変化は見られませんでした。

まとめ

・R.E.A.Dプログラム参加を通じて、イヌの自律神経活動に明らかな変化はみられなかった
　→イヌはプログラムへの参加をストレスと感じていない

・イヌがストレスと感じなかった理由
　・イヌの適性が高い（当施設で参加しているイヌは専門家による訓練を受けています）
　・R.E.A.Dのプログラム内容はイヌにとって低ストレス

課題

今回の結果は７例での途中経過です。より正確に検証するためにはサンプル数を増やす必要があります。引き続きご協力のほど、よろしくお願いします。

③「アニマルセラピー」動物ふれあい事業

令和4年度 わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）実施状況					
日　　程			参加人数・頭数		
			子ども	付添	犬
第1回	令和4年	7月30日（土）①	2	3	3
第2回		7月30日（土）②	3	4	
第3回		7月30日（土）③	1	1	
第4回		8月11日（木・祝）①	3	2	3
第5回		8月11日（木・祝）②	3	4	
第6回		8月11日（木・祝）③	3	5	
第7回		9月11日（日）	3	6	2
第8回		9月24日（土）	3	3	2
第9回		10月22日（土）	3	2	3
第10回		11月6日（日）	2	4	2
第11回		11月27日（日）	2	2	2
第12回		12月25日（日）	2	3	2
第13回	令和5年	1月29日（日）	2	2	2
第14回		2月23日（木・祝）	3	5	2
合　　計			**35人**	**46人**	**23頭**

7月、8月の開催は神戸市の倫理審査委員会の承認を待ったため、4月からの開催分を繰り下げ、1日に3回ずつ実施した。

《参加犬種》
トイプードル／オーストラリアン・ラブラドゥードル／ポーチュギーズ・ウォーター・ドッグ／ジャック・ラッセル・テリア／MIX（トイプードル・ミニチュアダックスフンド）／MIX（トイプードル・ヨークシャーテリア）

【獣医師体験プログラム】

獣医師の職域は広く、ペットの暮らしや産業動物の飼育、野生動物の保護、感染症や食品衛生、環境問題など、人が生活していく上で必要な多岐の分野に関わっている。そうした幅広い獣医師の世界を体験して学びを深めることにより、「人と動物の共生」が人の生活に深く関わるものであることへの気付きを促し、様々な「人と動物の共生」の在り方についての理解を深める。なお、「獣医師体験プログラム」の監修は、獣医師・獣医学博士で当法人監事である堀尾政博先生にお願いしている。

【監修】

堀尾　政博先生（獣医師／獣医学博士）
産業医科大学医学部講師を経て、長崎大学熱帯医学研究所 教授（平成29年退職）。
長崎大学では、高度安全実験施設　（BSL4）の設置準備副室長としても活躍した。
学校法人ヤマザキ学園（動物看護・ケア教育）で副校長を務めた経験も持つ。

令和4年度は下記の通り「獣医師体験プログラム」を開催した。 毎回、現場で働いておられる専門分野に長けた獣医師の先生方を講師としてお迎えし、現場の話を聞かせていただきながら、 スライド、標本なども見せていただくことで、子どもたちが普段経験することのないような貴重な学びの場を提供することができた。

令和4年度：13回実施（複数実施含む）

開催日	タイトル	分　野	協力依頼・講師	参加者	保護者
令和4年 5月22日 （日）	お肉はどこから来るの？	食品衛生	神戸市 食肉衛生検査所・ 南優姫 先生	8	8
6月25日 （土） 低・高学年 ２回開催	水族園動物のお医者さん	水族園	神戸市立 須磨海浜水族園・ 毛塚千穂 先生	24 低学年 12 高学年 12	23
7月29日 （金）	多様な動物が生きる「地球」という環境	動物園	神戸市立 王子動物園・ 馬場琢也 先生	8	6
8月4日 （木）	感染症って何？	公衆衛生	大阪公立大学 獣医学研究科・ 笹井和美 先生	5	5

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

8月22日 （月）	公務員としての獣医さんの仕事	公務員	神戸市動物管理センター・ 大隈真矢 先生	8	6
9月4日 （土） 低学年	野生動物との共生	野生動物	株式会社野生動物保護管理事務所・ 箕浦千咲 先生	6	9
9月23 （金・祝） 高学年				16	16
10月15日 （土） 低・高学年 ２回開催	いちばん身近な存在「ペット」の健康と幸せを守るには	小動物	大阪公立大学 獣医学研究科・ 酒居幸生 先生	16 低学年 6 高学年 10	18
12月10日 （土）	身近な大動物・牛	大動物	芝崎牛の診療所・ 芝崎繁樹 先生	8	8
令和5年 2月5日 （日）	人と共に生きてきた馬について	大動物	大阪公立大学 獣医学研究科・ 石川真悟 先生／ 公益社団法人神戸乗馬倶楽部	14	4
2月26日 （日）	私たちの暮らしと動物との関わり	産業動物	兵庫県農業共済組合（神戸市立 六甲山牧場）・ 畠中みどり先生	9	11
合　計	**13回実施**			**122人**	**114人**

令和4年度においても、幅広い獣医師の世界を体験して学びを深めることにより、「人と動物の共生」が人の生活に深く関わるものであることへの気付きを促し、様々な「人と動物の共生」の在り方についての理解を深めることができた。
人格の発達や、自律心、判断力、責任感等の人間性を育み、他者との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識することで「関わり」や「つながり」を尊重できる個人を育むという観点から、今後も持続可能な社会の創り手の育成に貢献できることを目指したプログラムとしたい。
来年度においては、子どもたちのアンケートから希望の多かった、エキゾチックアニマルについて神戸市獣医師会のご協力を仰ぎ、獣医師会所属の先生に講師をお願いする予定になっている。子どもたちの興味・関心を引き出し、学ぶ意欲を持てる内容になるよう工夫している。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【お肉はどこからくるの？】

人間は、動物の「いのち」をいただくことによって生きていくことができる。適切な環境で家畜を飼育して家畜に対する福祉を担保しつつ、安心・安全な食肉を提供するために必要なことを学ぶ。

開催日時：令和4年5月22日（日）14:00～15:00
開催場所：共生センター　ふれあい室
講　　師：神戸市 健康局 食品衛生課 食肉衛生検査所・南優姫先生
参加人数：子ども8名　保護者8名　計16名

今回のお話の主な内容
①いのちがお肉になるところ
②お肉の安全と危険
③獣医師のお仕事

人の健康を守るために動物や生態系の健康を守る、そして、家畜や野生動物の健康を守ることが人の健康を守ることにつながる＝ワンヘルス

「うちは精肉店」の本の読み聞かせ。生きもののいのちをいただいて、いのちを生かす。「生きるということはいのちをつなぐということ」そして、「いのちをいただいているということを忘れず、感謝して食べてほしい」と子どもたちに伝えていただいた。

スライドを見ながらクイズを出題。生野菜のサラダの上に生肉が一緒にある写真の「どこがおかしいかな？」子どもたちも真剣に考えて答えていた。

行政獣医師の仕事の大切な役割として、食肉市場でのと畜検査員のとしての仕事についても教えていただいた。「病気をもっていないか」「衛生的に解体できているか」「有害な物質が残っていないか」ということを検査している。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

《先生より頂いた配布資料》

《参加者の感想より一部抜粋》

- 家畜が出荷されるまでの話は、本でみたりテレビで見たりしてうっすらと知ってはいましたが、今回のお話ではっきりと分かりました。
- じゅう医は動物の病気を治すだけだと思っていたけど、とちく場でも働いているというところが初めてしっておもしろかったです。
- お肉にはいろいろなきんがあるというのをしてれよかったです。

食肉は、普段の私たちの生活の中でも、切り離せないものとなっているが、なかなかその加工や流通の過程を知る機会がない。
獣医師の仕事には、食品衛生に関わる部門もあり、自分たちの知らない間に、獣医師の仕事が食生活にも関わっているということを知り、あらためて獣医師の仕事内容が動物の診療だけではく、幅広く自分たちの生活に関わっていると感じた様子だった。食肉の話などは、普段あまり聞く機会のない内容ではあるが、日頃から食べているお肉はどのように加工され市場で販売されているのか、ということを知ることで、食への感謝の気持ちが育まれ、獣医師を希望している子どもにとっては、選択肢の一つとしてこのような仕事内容も獣医師としての重要な仕事であるということがわかったようだった。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【水族園動物のお医者さん】

水族園には多様な生きものが暮らしている。その健康を守るには、本来の生育環境や生態を背景とした生きものの特徴を知ることが大切である。水族園で暮らす動物たちの病気や治療について楽しく学ぶ。

開催日時：令和4年6月25日（土）低学年：13:00～14:00／高学年：14:30～15:30
開催場所：共生センター　ふれあい室
講　　師：神戸市立須磨海浜水族園・毛塚千穂先生
参加人数：子ども24名　保護者23名　計47名

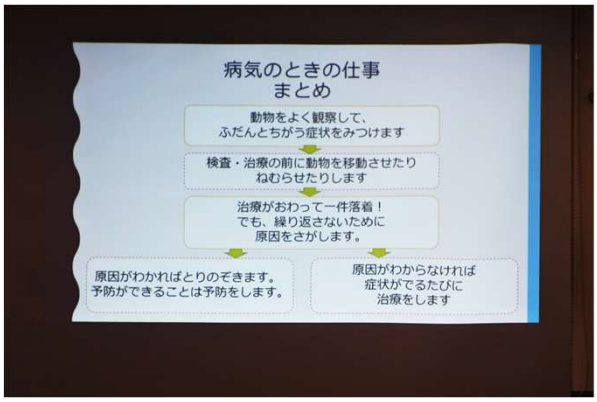
ペンギン、カピバラ、イルカの本物の頭蓋骨を持って来ていただいた。標本に触れることもできるので、水族園の動物のことをより身近に感じてもらうことができる。

「みなさん、スマスイに来たことありますか？」毛塚先生の問いかけにはほぼ全員の手が元気に挙がった。

魚をまる飲みにしてしまうイルカの口は大きく開くと説明がある。イルカは好奇心旺盛なので、水に浮かんだ葉っぱなども食べてしまうが、消化できないため胃にたまり病気になったり死んでしまったりすることがある。そんな場合、獣医師が内視鏡を使って胃の中の葉っぱを除去することもあるとのこと。

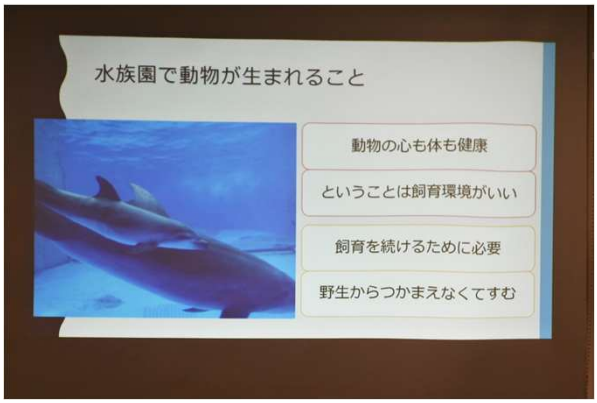
須磨海浜水族園にいるカピバラの歯の治療の様子。イルカにくらべるとあまり大きく口が開かないため、治療には１時間程度かかる。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

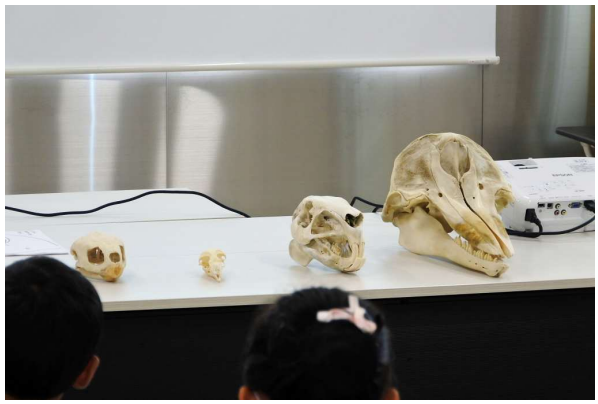


水族園の動物が病気になったときにはどのようにしているのか、対応について説明していただいた。

イルカやカピバラなど、それぞれの食生活の違いから歯や口の開き方などの状態もかわってくるとの説明。



須磨水族園のイルカが出産した際の珍しい出産シーン。イルカは水中で出産をし、頭からではなく尻尾から出てくる。



イルカ、ペンギンなどの骨の標本。それぞれの大きさの違いなどがよくわかる。

《参加者の感想より一部抜粋》

＊低学年
・カピバラの歯のお話がおもしろかったです。
・イルカが生まれるときの動画、イルカの赤ちゃんが私と同じ体重だった。他の動物が生まれるときのことも聞いてみたい。

＊高学年
・しゅっさんの時の動画がおもしろかったです。
・イルカの出産のお話を聞けたことと、出産の映像も初めて見たので、おもしろかったです。
・獣医の仕事がくわしく分かったし、カピバラについてくわしく知れたことがおもしろかったです。

子どもたちがよく訪れている水族園の先生からの具体的な治療や飼育の話、実際に貴重な標本に触れることで楽しく学ぶことができた。また、現場の先生の話を直接聞くことにより子どもたちのイメージも広がり、海に生きる動物への興味も深まったのではないかと感じる。特にイルカの出産シーンは低学年の子どもも高学年の子どももとても印象深かったようである。また、低学年と高学年に分け、伝え方についても工夫していただくことで、理解度も深まったと思われる。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【多様な動物が生きる「地球」という環境】

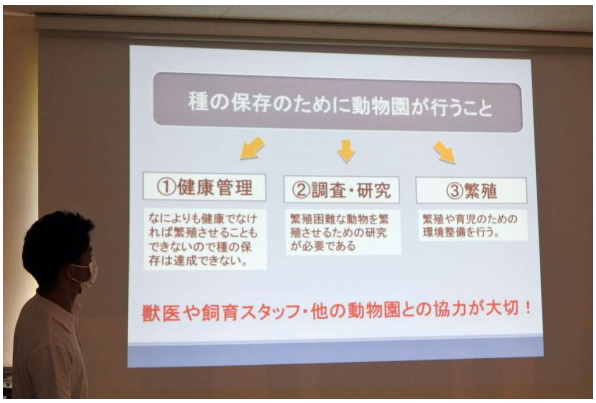
地球（動物園）には様々な種類の動物が生活しているが、それぞれ生きていくために必要な食べ物や環境などが違う。そうした多様な生物が生きていくことができる地球を持続可能な環境として保持するために必要なことを学ぶ。

開催日時：令和4年7月29日（金）14：00～15：00
開催場所：共生センター　ふれあい室
講　　師：神戸市立王子動物園・馬場琢也先生
参加人数：子ども8名　保護者6名　計14名

スライドを見ながら、動物園の動物たちの話から、地球環境の話まで幅広い内容をお話ししてくださる。また、多様性についての説明もあり、全てがつながっているということがわかる。

パンダの検査の方法について教えていただいた。パンダはリンゴが好きだということで、検査後はご褒美にリンゴを与えている映像を見せていただき、パンダが人間並みの検査を受けていることに、子どもたちも驚いていた。

野生動物を取り巻く環境は厳しく、象の生活する森も、人間が利用するパーム油のとれるアブラヤシに変えられたことで、熱帯雨林が減少し、それにより多様性が奪われ、動物が生存するのが厳しくなってきている映像を見せていただいた。子どもたちは真剣に聞き入っていた。



動物園の役割についての説明。ただ、動物を見て楽しむだけではなく、種の保存についても大きな役目があると説明していただいた。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

先生が持ってきてくださった動物園の動物の様々な標本。象の牙のレプリカと象の尻尾の毛、クジャクの羽、ダチョウの卵、ヤマアラシの棘、カメの甲羅等。

様々な標本を実際に触らせていただき、感触や重さなどを感じていた。標本の詳しい説明もしていただきながら、子どもたちは興味津々な様子。

《参加者の感想より一部抜粋》

・絶めつきぐ種や、今の問題についての対策。
・動物園の役割が分かったこと。
・人間の都合で森林破壊されていた話（が印象にのこった）
・うさぎのみみからさいけつしていてびっくりしました。
・どうぶつのちりょうがそういうかんじなんだなとおもいました。
・文章や説明だけではなく、映像も結構多かったので面白かったです。

子どもたちにも馴染みの深い動物園の動物ということで、子どもたちも興味深く先生のお話を聞いていた。また、動物を取り巻く環境が破壊されてきている現実を目の当たりにし、子どもたちなりに真剣に考えていた様子だった。愛嬌のあるパンダなど動物園のいろいろな動物たちの生態や飼育方法を知ることや、普段見ることが無い動物園のバックヤードも映像で見ることができ、子どもたちがこれまで知らなかったことを学べる機会となった。動物の生態のみではなく、動物を取り巻く地球環境の話まで幅広く獣医師が関わっているということも理解できた様子だった。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【感染症って何？】

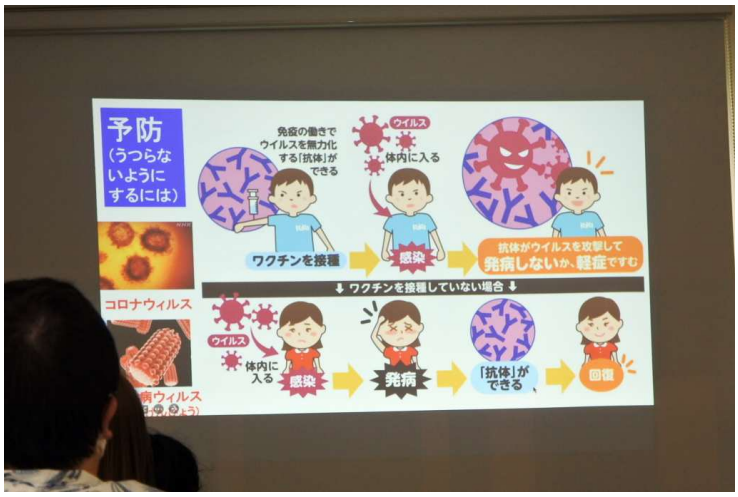
新型コロナウイルスの感染症拡大の只中である現在、動物由来の感染症についての正しい知識を学習し、日常生活における感染症対策の重要性を知る。

開催日時：令和4年8月4日（木）13:30～14:30
開催場所：共生センター　ふれあい室
講　　師：大阪公立大学 獣医学研究科 獣医内科学研究グループ
教授 笹井和美先生
参加人数：子ども5名　保護者5名　計10名

感染症とは？

最初に、感染症とは何かについて説明していただいた。感染症とは、病原体（ウイルス／細菌／真菌（カビ）／寄生虫等、病気を起こす小さな生物）が体に侵入して症状が出る病気のこと。

インフルエンザ、麻疹のように「人から人へ感染する病気」や、犬のフィラリア症のように「動物から動物へ感染する病気」「動物から人、あるいは人から動物へ感染する病気（人と動物の共通感染症）」についても、狂犬病を例に出して教えてくださった。



予防（うつらないようにするには）

日本は、その他の国と比べて感染症対策がしっかりできている国らしく、「予防の基本と言われている《手洗い・うがい・消毒・マスク着用》といった対策を、これからも続けていってください」とお話があり、正しいうがいの方法についても紹介していただいた。

感染しないためには予防が大切であるとのこと。
病原体が体内に侵入したら、すぐに症状が出るわけではなく、症状が出ない潜伏期間を経て病原体が体内で増殖することによって感染となり、下痢等の症状がでる。病原体が体内に侵入したときに、たまたま体調が悪かったりすると、抵抗力が落ちているために病原体が増えやすいそうだ。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

免疫の３つの主な仕組み

- **病原体を食べる（好中球・マクロファージ）**
- **抗体を作る（B細胞）**
- **感染細胞を殺す（キラーT細胞）**

ワクチンや薬もあるが「薬の力だけでなく、自分で治そうとする力も病気に勝つためには必要です」とお話していただき、体から病原体を減らすことで病気が治っていくという仕組みについても詳しく説明していただいた。

参加者全員が真剣に話を聞いている。子どもたちの集中力の高さがうかがえた。自分たちでメモを取り、1時間を有意義なものにしていた。

《参加者の感想より一部抜粋》

- 色々な病気のことを詳しく教えてもらえてよかった。
- 狂犬病が動物から人にうつってしまったり、新型コロナがたまに人から猫や他の動物にうつってしまうことをはじめてしった。
- 獣医師になるために子どものうちに何をすればいいか聞いてみたい。

盛りだくさんのお話の中で、新型コロナウイルスについても「日本は世界と比べて感染症対策が行き届いている国で、コロナウイルスの場合でも、「手洗い」「うがい」「消毒」「マスク」といった感染対策をしっかりできている国なので、感染する人が比較的少ない。しかし日本と違って感染対策を徹底するのが難しい国もある」という話を聞き、日頃の感染対策の重要性を保護者と共に学んでもらうことができた。獣医師が様々な分野で活躍されていることも詳しく教えてくださり、獣医師という仕事の幅広さに具体的なイメージを持てたようで、「もっとお話を聞きたかった」という感想も多かった。実施前は難しいテーマのように感じたが参加希望者も幅広い年齢層となり、令和5年度も継続して開催し、鳥インフルエンザについても取り上げていただく予定である。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【公務員としての獣医さんの仕事】

公務員獣医師の仕事は、食の安全の確保、人畜共通感染症対策、動物愛護や福祉の増進、野生動物保護党自然環境保全対策等の広範な分野にわたるが、その中の動物愛護や福祉について学び人と動物の幸せな共生について考える。

開催日時：令和4年8月22日（月）14:00～15:00
開催場所：共生センター　ふれあい室
講　　師：神戸市 健康局 環境衛生課 神戸市動物管理センター・大隈真矢先生
参加人数：子ども8名　保護者6名　計14名

公務員としての獣医師の仕事は、「ペットショップのような動物を取り扱っている店の立ち入り」「レストランや食品工場などへの立ち入り」など、店がきちんと衛生的に営業されているかをチェックし、指導したりする仕事も含まれているため、獣医療にはとどまらず多種多様な業務内容となっている。今回は、主に神戸市動物管理センターでの仕事内容について大隈先生に詳しく話を聞かせていただいた。

大隈先生より神戸市動物管理センターとはどのような施設なのかを紹介していただいた。

「一年間でどのくらいの犬が来たと思いますか？」と先生からの質問。実際には約210頭の犬が収容された。

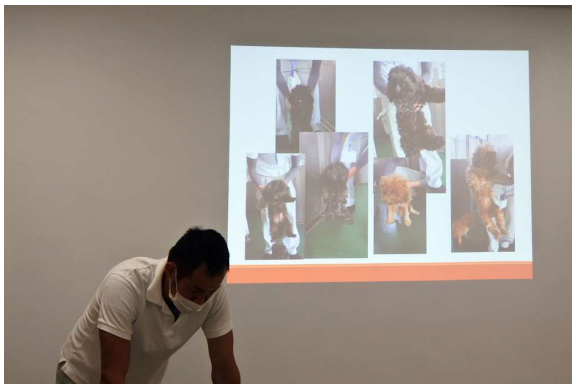
犬や猫が収容された場合に、必ず行う獣医療はどのような内容なのか、また、何故それを行うのかについて教えていただく。

動物たちに使用している薬の中で、ノミダニ予防薬や、フィラリア症予防薬を見せていただいた。病気の治療だけでなく、病気にならないための予防が大切である。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

神戸市動物管理センターでは、「迷子の犬猫の引取り、返還」「飼えなくなった犬猫の引取り」「負傷した動物の保護」などを行っている。

昨年、動物管理センターには209頭の犬猫が保護された。そのうち犬は38頭、猫は171頭、猫については110頭ほどがまだ小さな子猫だったとのこと。209頭保護されたうちの7頭が飼い主のもとに帰り、133頭が新しい飼い主に譲渡された。



実際に保護された犬の様子を紹介していただく。保護された後、血液検査などの健康チェックを行い、けがや病気で治療が必要な場合は治療を行う。並行して、譲渡に向けた人に慣れる訓練も開始される。保護されてまもなく、血尿が出てすぐに亡くなってしまった犬がいたという現実にも触れていただいた。

犬のフィラリア症について説明していただいた。センターに保護されいる犬の中には、フィラリア症にかかっている犬も多いとのこと。フィラリア症の犬には薬を飲ませて治療を行っている。

回虫やマンソン裂頭条虫、コクシジウムなどの寄生虫がお腹の中にいる犬や猫も多いとのこと。そのような場合には駆虫薬を飲ませて駆虫を行う。実際に投与している薬の実物を見せていただいた。

《参加者の感想より一部抜粋》

・いろいろな病気や何頭来ているかがきょうみぶかかったです。

・膀胱に石があるワンちゃんがいたと聞いて、何が原因で石ができるのか不思議に思いました。

今回は、公務員獣医師の仕事の中でも、特に共生センターと関係の深い神戸市動物管理センターの主な業務についての話を聞かせていただいた。
センターに保護される犬や猫はどんな病気を持っているのかなど情報が無いままでやってくる場合がほとんどであり、それに対しての治療や譲渡までの流れなど、関わっている職員の思いを知ることで、これから犬や猫を家族に迎えるにあたって、共生センターから譲渡してもらうことも視野に入れてもらえた様子だった。子どもたちは保護された犬や猫の話に熱心に耳を傾けていた。

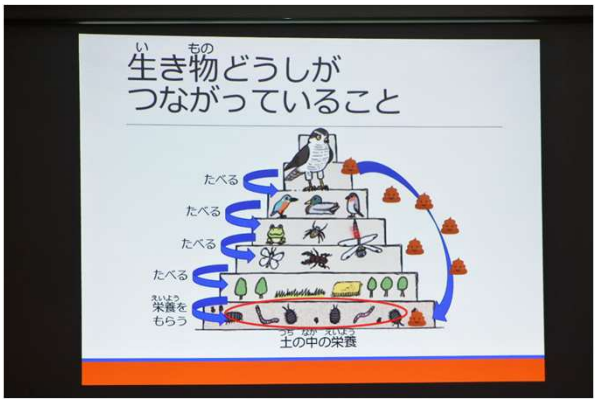
④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【野生動物との共生】

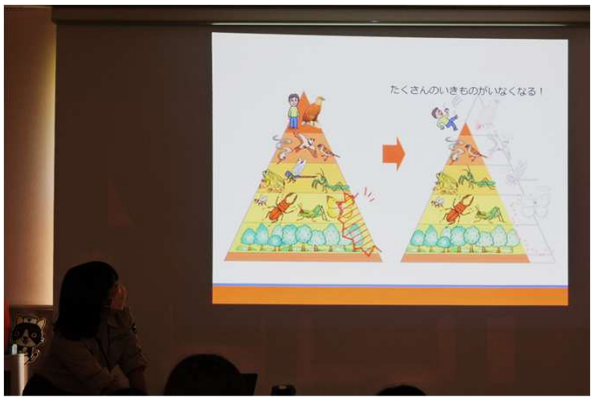
里山では野生動物による農作物の被害が多発しているが、なぜそういったことが起こるのかを学ぶ。地球は人間だけのものではなく、多くの野生動物や昆虫などの生き物が共に生きる場所であることを知り、どうすれば野生動物と共存できるのかを考える。

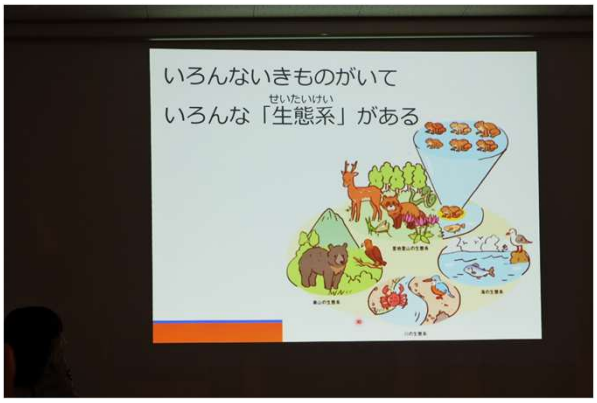
開催日時：低学年：令和4年9月4日（土）／高学年： 9月23日（金・祝）
14:00～15:00
開催場所：共生センター　ふれあい室
講　　師：株式会社野生動物保護管理事務所 関西支社 研究員・箕浦千咲先生
参加人数：９月4日：子ども6名 保護者9名／9月23日：子ども16名 保護者16名 計47名

野生動物とはどんな動物のことなのか、野生動物の獣医師とはどんな仕事をしているのか等の説明をしていただいた。



生き物同士は全て繋がっていて、どこが多くなっても少なくなっても、すべてのバランスが崩れてしまう。





「生態系」を守る５つのルール

1. 近づかない（近づきすぎると人を怖がらなくなる）
2. エサをあげない（人間の美味しい食べ物の味を覚えると人の住処に出てきてしまう）
3. むやみに触らない（動物が見られたり、触られたりすることでストレスを感じたり、動物から病気が感染することもある）
4. 逃がさない（犬や猫だけでなく、一度飼った動物は最後まで責任を持って飼う）
5. ゴミはきちんと捨てる（人間の捨てたゴミのせいで、動物が苦しむことになる）

野生動物と人間が幸せに暮らせるよう、この５つを守ることで、私たちも「地球のお医者さん」になれると教えていただく。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

スライドを見ながら、野生動物たちの足あとやフンについて説明していただいた。この後、実際にフンを見たり、標本に触れながら感触を確かめる。

熊の毛皮やモグラの手にも触れてみる。熊は兵庫県にて捕獲された熊。

イノシシの頭蓋骨。大きな口の中には沢山の歯が並んでいるのがわかる。

動物のフンや骨など、普段目にすることがない標本にも、子どもたちは臆することなく興味津々で触っていた。

《参加者の感想より一部抜粋》

＊低学年
・動物のピラミッドの話がおもしろかった。
・がいらいしゅのきけんないみがわかった。

＊高学年
・生物たようせいの話がおもしろかった。ふえすぎたら、ころすというのはかなしかった。
・野生動物を守ることについてえ、獣医さんが色々な思いで野生動物を守ったり、色々な方法・対策をして守っていることが印象に残って感動しました。

山や海に囲まれた神戸では、山の中や街中でイノシシなど野生動物と遭遇することもある。なぜ、野生動物が街中に出てきてしまうのか、人間と野生動物とはどのように共生していけばよいのか等、野生動物の生態や生態系を守る方法などを学ぶことで、ペットとは違う関わり方、距離の保ち方についても考えるきっかけとなったようだった。また、先生の持って来られた動物の骨や毛皮など、実際に触れることでより身近に野生動物を感じることができていた様子だった。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

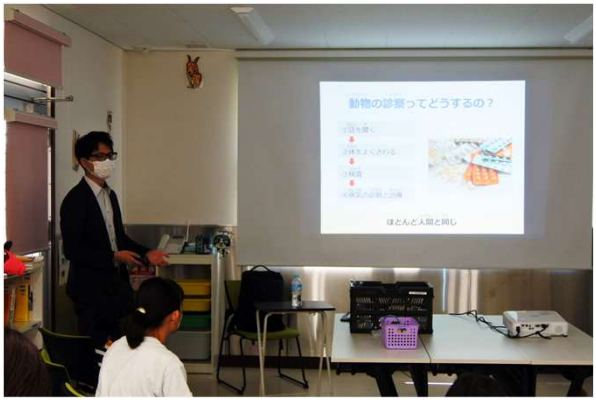
【いちばん身近な存在「ペット」の健康と幸せを守るには】

人間にとっていちばん身近に存在する動物「ペット」の健康と幸せ（福祉）を守るためには、どういったケアが必要なのかを学び、飼い主が日常的に健康状態を観察して獣医師と連携してペットの健康を守ることの大切さを学ぶ。

開催日時：令和4年10月15日（土）低学年：13:00～14:00／高学年：14:30～15:30
開催場所：共生センター　ふれあい室
講　　師：大阪公立大学 獣医学研究科 小動物臨床教室 ・酒居幸生先生
参加人数：子ども16名　保護者18名　計34名

大学の病院には９つの診察室があり、それぞれ獣医師と動物看護師がペアになって診療にあたっている。病状によっては、レントゲン検査、超音波検査やCT検査なども行っている。

口の中が真っ白な犬の画像。考えられることは、この犬は貧血であるということ。そして、貧血の原因は何なのかを診断していく。動物たちの体の様子をくまなくチェックし、診断していく様子について教えていただいた。



動物の診察はどうのような手順で行うのか。まず、飼い主さんから詳しく話を聞くことが重要であり、その後触診や検査などを行い、診断をした後、病気に合わせた薬の処方や治療などを行うと説明していただいた。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

先生から、注射の仕方を教えてもらい、ぬいぐるみの犬を使って子どもたちも注射の模擬体験を行った。ぬいぐるみだと分かっていても、みんな恐る恐る注射していた（針の無いシリンジを使用している）。

心音を聞く際には、拡張心音計（心臓の音を拡大してスピーカーから聞くことができる機械）を使用し、自分の心音だけでなく、他の子の心音も聞くことで、音の大小や速さ、リズムの違いにも気づいた様子。その後、それぞれ、聴診器を使って自分の心拍数が何回か数えてみた。

獣医師になった気持ちで、猫に聴診器をあて診察をしてみる。

先生の説明を身を乗り出して、みんな熱心に聞いている。

《参加者の感想より一部抜粋》

＊低学年

・獣医さんの仕事の体験のがおもしろかったです。

・ちりょうのお話がおもしろかったです。

＊高学年

・自分が実際に考えている小動物の獣医師さんの話を聞けたので、全て面白かったです。

・自分のしんぞうの音がきけておもしろかったです。

犬や猫は模型を使用するが、薬や聴診器などについては実際に使用されている物を使用し、獣医師と同じように白衣を着用することで、子どもたちも神妙な面持ちで模型の動物に接していた。ペットと暮らしている子ども、ペットと暮らしたいと思っている子どもにとって、日常のケアや、自分たちがどんなことに気をつけたら良いのか等を考える機会にもなり、ペットと人間との違いや、逆に同じように犬も人間も心臓が動いていることなど新たな発見につながった。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【身近な大動物・牛】

小型のペットとは違い、人間よりも大きな動物にはとくべつな世話や医療が必要であることを学ぶと同時に、牛が私たちの生活のあらゆる場面で関わりを持っていることを理解する。

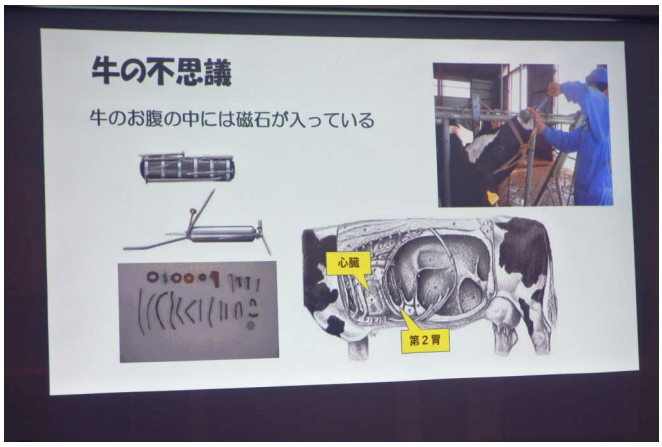
開催日時：令和4年12月10日（土）14:00～15:00
開催場所：共生センター　ふれあい室
講　　師：芝崎牛の診療所・芝崎繁樹先生
参加人数：子ども8名　保護者8名　計16名

兵庫県職員としてのご経歴をお持ちの芝崎先生に、退職後はご自身の大好きな牛を診療する獣医師としての仕事に従事されていることなど、自己紹介をしていただいたあと、牛とはどんな動物なのかを子どもたちに語っていただいた。

牛にはいろいろな種類があり、畜産の分野で分けると肉になる肉牛と牛乳を搾る乳牛に分けられる。またその中にも赤毛、黒毛、ホルスタイン、ジャージーなど様々な種類があると説明していただいた。
オスの牛は乳牛にはならないため、去勢したあと20ヶ月くらいで「国産牛」として肉牛になり出荷されるとのこと。

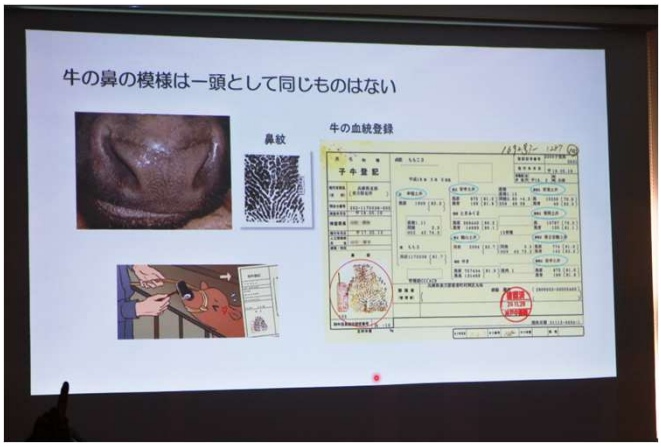
病気になった場合の診察については、牛は犬や猫のように飼い主が病院に連れて行くことが難しいため、往診となる。世話をされている農家の方から病状等を詳しく聞き取って診察を行う。写真は牛の直腸検査の様子。牛の肛門から腕を入れて、直接検査を行う。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業



牛の不思議の一つ、牛の胃の中には間違って飲み込んでしまった鉄（釘など）が胃を傷つけるのを防ぐために細長い磁石を飲み込ませていると説明していただき、実物を見せていただいた。
その磁石は、しばらく留置したあと胃から取り出し交換するとのこと。

牛の鼻紋については、人間の指紋のように一つとして同じものは無いと教わる。鼻紋を登録することで、それぞれの個体が識別できる。
また、耳にはイヤータグという、個体識別番号が記入された黄色いタグもつけている。ウェブサイトから購入した国産牛の情報（飼育場所や移動の履歴等）を検索することができる。



《参加者の感想より一部抜粋》
・乳用牛の出産回数が5～6回だということを知って驚きました。
・ウシはさいしゅうてきに、お肉になったり、ウシに、たいおんけいがあったり、マイナンバーをもっているところが、おもしろかった。
・ウシにもいろいろな病気があったり、死んでしまうウシもいるんだなと思いました。
・人工授精の技術が、現実に活かされて乳牛、肉牛になっていることを知り驚きました。
・牛の不思議で、おなかの中にじしゃくを入れているのがすごいと思いました。
・もっと大事にお肉を頂こうと思った。

普段、何気なく食べている牛肉が肉になるまでどのように飼育されているのか、また、どのように加工されているのか。そして、牛の不思議の一つ、胃の中に磁石を飲み込んでいることなど、興味深い話を聞くことができた。
また、牛が病気をして薬剤を使用した場合、肉への残留を防ぐために、使用する薬によっては食肉用の牛に投与してはいけない期間が決められており、獣医師がこの判断を誤ると農家に大きな損害を与えてしまうことにもつながり、食の安全を守ることも、獣医師には大切な仕事であると教えていただいた。
牛の「トレーサビリティ」（食を安心して届ける）制度についても話をしていただき、最後に、先生から「お肉を食べるときには、命をいただいているという感謝の気持ちを忘れずに食べてもらいたい」と子どもたちに伝えていただき、子どもたちも、牛について、食についての理解が深まった様子だった。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【人と共に生きてきた馬について】

小型のペットとは違い、人間よりも大きな動物には特別な世話や医療が必要であることを学ぶと同時に、人が馬と共に生きてきた歴史を知ることで胸声という概念を理解する。

開催日時：令和5年2月5日（日）14：00～15:00（当初の日程から変更）
開催場所：しあわせの村 馬事公苑 会議室（公益社団法人神戸乗馬倶楽部）
講　　師：大阪公立大学 獣医学研究科・石川真悟先生
参加人数：子ども14名　保護者4名　計18名（部屋の都合上、保護者の入室無し）

獣医師体験プログラムは、生体に触れる内容ではないが、馬についてはしあわせの村内に馬事公苑があることから、馬事公苑の運営を受託されている公益社団法人神戸乗馬倶楽部様のご協力を得て、馬事公苑内で実施、厩舎の見学まで体験させていただいた。

会場の都合上、室内でのプログラムは、保護者の方に見学していただくことはできなかったが、子どもたちだけでもとても熱心に先生をお話を聞いていた。
馬とヒトとの違いについてスライドを見ながら話を進めていただいた。

馬や牛などを診る獣医師のことを産業動物獣医師といい、石川先生の所属されている病院では、チーム医療で複数の先生で担当して診ているとのことだった。

馬は草だけを食べる草食動物のため、大きな盲腸がお腹の中のほとんどを占めているという話を聞かせていただいた。スライドを見た子どもたちは、馬の大きな盲腸に驚いていた。盲腸の中にいる多くの菌が草を馬のエネルギーに変えており、そのおかげで馬は草だけを食べて生きていけると教わる。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

馬の歯のケアも人間と同じでとても大切だと教えていただく。馬は歯が伸び続け、野生の馬は自然に生えている草を食べるので大丈夫だが、飼われている馬は歯が歪になってしまうと説明していただいた。

馬の歯を治療するときに使用する開口機と歯ブラシも見せていただく。実際に持ってみた子どもたちからは、「思ったより重たい」と感想があった。

馬に使用するハミの発明により、ヒトが馬をコントロール出来るようになったことで、ヒトが馬に乗ることが出来るようになった。そのことから、馬とヒトとの共生に繋がっていった。また、馬とヒトとの歴史についてもお話をしていただく。

先生のお話終了後、馬事公苑のスタッフの方に案内をしていただきながら、厩舎の見学を行った。23歳になる馬の大人しく、穏やかな瞳、そして、柔らかな馬の毛並みに、子どもたちも馬の温もりを感じた様子だった。

≪参加者の感想より一部抜粋≫

・馬にもうちょうがあるということはしっていましたが、もうちょうがとても大きいことは、しりませんでした。
・馬と人間のちがいがわかって、おもしろかったです。
・馬と人の歯ならびがそれぞれちがうことがおもしろかったです。

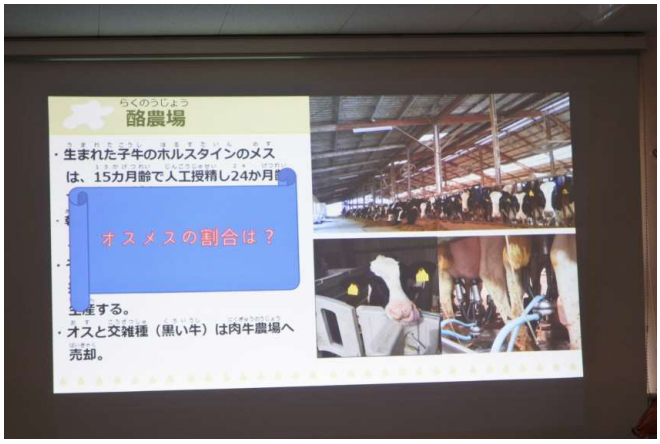
（公社）神戸乗馬倶楽部様にご協力いただき、共生センターのふれあい室以外の場所でも実施することができた。馬が大好きでどうしても参加をしたかったという子どもの参加もあり、どの子どもたちも熱心に先生のお話に耳を傾けていた。
また、最後に経済動物として経済性がなくなれば処分されてしまう馬を一頭でも救おうとしている活動についてもお話をしていただき、子どもたちも印象に残ったようだった。厩舎の見学もできたことで、改めて、馬について興味を持った子どもも多かった。次年度も（公社）神戸乗馬倶楽部様と連携させていただき、馬事公苑において実施する予定である。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【私たちの暮らしと動物との関わり】

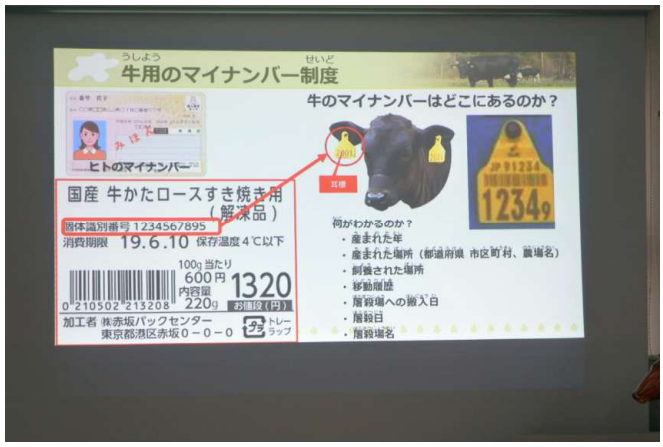
人間は様々な動物との関わりの中で恩恵を受けて生きていることに気づき、それらの恩恵に感謝する気持ちを学ぶ。

開催日時：令和5年2月26日（日）14：00～15：00
開催場所：共生センター　ふれあい室
講　　師：兵庫県農業共済組合 家畜部 部長・畠中みどり先生
参加人数：子ども9名　保護者5名　計14 名

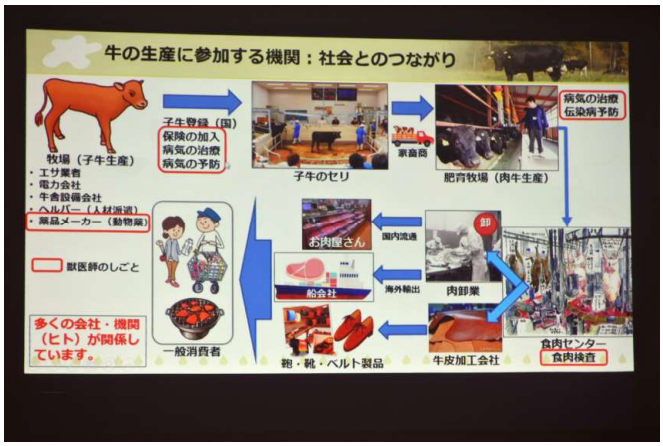


「酪農場にいる牛は、オスとメスがどれくらいいるかわかりますか？」という先生の質問に、子どもたちはどれくらいの割合でオスとメスがいるのか想像しているようだったが、すぐには見当がつかなかった。「ヒトと同じでお乳が出るのはメスだけです。だから酪農場にいる牛は全頭メスなんですよ」と先生に説明していただいて、「なるほど！」と気がついた。

牛用のマイナンバー制度である牛の個体識別番号のお話も聞かせていただいた。生年月日や生まれた場所、飼養場所など移動履歴までわかるようになっている。子どもからは「牛のマイナンバーは同じ番号にならないのですか？」という質問があったが、日本国内全ての牛たちの10桁の個体識別番号は、独立行政法人家畜改良センターで管理されているため、同じ番号にはならないとのこと。



実際に購入した牛肉のシールに記載の個体識別番号を入力して検索してみると、その牛は熊本県の牧場で生まれ、長崎県の牧場で育てられ、鹿児島県の食肉流通センターで食肉になったことがわかった。牛が生まれてから私たちの家庭に届くまでの間に、実に多くの方々が関わっていることが理解できる。



畠中先生が産業動物獣医師として大切にされていることは、**「生産者と消費者の橋渡しをすること」「科学的視点で両者に接すること」「法令遵守」**であるとのこと。使命感を持ってお仕事をされている畠中先生の熱意が子どもたちにも伝わった様子だった。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

子どもたちも模型に釘付け、牛の４つの胃の働き

第1胃　食べたエサをためておく大きな胃で、たくさんの微生物がエサを分解する。
第2胃　収縮を繰り返し、第1胃のエサを口に戻したり、エサを混ぜて移動させる。
第3胃　エサをよくすりつぶし、まだ固いものは第1胃へ戻す。
第4胃　エサがドロドロの液になるまで消化する。

診療は往診、出産等の緊急事態に備え夜間待機もある産業動物獣医師

牛の病気には、風邪、下痢などの内科的なものや、蹄（ひづめ）の病気のような外科的なもののほか、中耳炎などの耳鼻科的なものなど様々あるが、現在ではレントゲン検査の機材を持ち運べるようになったため、往診の際に現場で撮影し、モニターで確認できるようになった。

妊娠鑑定はエコーを使用して農家の方と一緒に確認されるとのことで、牛の赤ちゃんが口を開けて呼吸していることがわかる動画も見せていただいた。いよいよ出産となると、夜間に獣医師に呼び出しが入って駆けつけることもある。

≪参加者の感想より一部抜粋≫
・一年ごとの出産などの管理は難しそうだと思った。
・一頭の牛だけでも様々な人が関わって食卓まで運ばれていることがわかった。

「安心・安全な食品を生産する手助けをしたい」という使命感を持って産業獣医師の仕事をしておられる畠中先生は、子どもたちに対して「『いただきます』という言葉は命をいただくという意味です。日本ではお弁当も含め、1日一人あたりおにぎり1個分の食べ物が捨てられているのが現状なので、『命をいただいている』ことを考えて食べ物は大切に残さず食べましょう」と話してくださった。産業動物と私たち人間との関わりについて考えることは、「食育」にもつながる。神戸での診療頭数は圧倒的に牛が多いとのことであるが、令和5年度の「産業動物」の分野では牛だけでなく、豚など他の産業動物についても盛り込んでいただく予定である。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【犬とともだちになろう】

犬のイラストボードや実際の犬に接しながら、クイズや心臓の音を聞くなどを通して「いのち」を実感し、犬のきもちについて学ぶプログラムである。

犬との接し方を学ぶことで、思いもかけない咬傷事故を予防するだけでなく、犬（他者）のきもちを想像したり、寄り添うきもちの大切さを考えるきっかけを与え、心臓の音を聞く拡張心音計（心臓の音を拡大してスピーカーから聞くことができる機械）を用い、犬や子どもたちそれぞれの心音を聞くことで、音の違い、速さの違いといった違いに気付き、自分や自分以外の「いのち」の大切さ、「いのち」への共感ができる子どもを育てることを目的としている。

このプログラムには、JAHA（公益社団法人日本動物病院協会）の訪問活動で経験豊富なボランティアの方々と、そのご家族である犬たちに毎回ご協力いただいている。

犬のイラストを見ながら、犬がどんな気持ちかを考え、犬にも人間と同じように感情があることを学ぶ。

犬との挨拶の仕方を教えていただき、実際にボランティアで参加してくれている犬と、それぞれが挨拶をする。

拡張心音計を用いて、犬と子どもそれぞれの心音を聞き比べることで、違いを実感できる。

プログラム終了後の交流時間。子どもたちの緊張もほぐれ、とても楽しそうな様子。

【犬の気持ちをあらわすイラストボード】

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【顔の表情のイラストボード】

犬の気持ちを考える際、顔のイラストボードを見せることで、犬がどんな気持ちなのかを、各々子どもたちなりに想像できるように、シンプルな顔の表情になっている。

＜各回参加人数＞

実施日	参加者	付き添い	ボランティア	参加犬
令和4年 4月17日（日）	12	9	3	3
6月4日（土）	13	13	3	3
10月9日（日）	7	5	3	3
10月30日（日）	9	8	3	3
12月17日（土）	7	7	3	2
令和5年 3月11日　（土）	9	9	2	2
合　計	**57人**	**51人**	**17人**	**16頭**

≪参加者の感想より一部抜粋≫
・犬といっしょにあいさつをしたり、心ぞうの音をきいたことが楽しかった。
・かわいい犬とふれあえてこわかったけどかわいかったです。
・犬とふれあって、はじめて肉きゅうとか体にさわれて楽しかったです。そして、他の人が犬をさんぽしているときにいかせることを教えてくれたのでよかったです。
・いろいろな犬をさわれたりふれあい方を知れたり、体であらわすひょうげんをしれて、よかったです。

このプログラムを通し、子どもたちは犬との正しい接し方を学ぶことで、日常において安全に犬と接する方法を知ることができた。イラストを通して、犬にも感情があり身体のいろいろな部分を使って気持ちを表しているということを学んだり、犬や自分たちの心音を聞くことで、犬も自分たちも同じように生きていることを理解し、自分や自分以外の「いのち」についても考えるきっかけが持てる場となった。犬を飼っていない子どもの参加が多く普段接する機会が少ないため、どのように犬に接したら良いのか戸惑う子どもは、ボランティアの方々から犬の触り方を教えてもらい、触ることができたことでそれぞれ自信にもつながった様子。実際に犬と接することで、より身近に犬を感じることができたと思われる。
また、今年度においては就学前の幼児も安全に参加することが出来た。安全管理に配慮し、未就学児の受け入れも継続していきたい。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【いきものといっしょ】（毎週土曜日10:30～11:30）

センターに来所した子どもたちに対し、神戸市副読本「いきものといっしょ～みぢかなどうぶつに目をむけてみよう～」を活用し、動物たちのきもちについて考えるプログラムを実施する。他者に対する共感や思いやりといった情操や、動物や自然に対する理解や責任といった態度の醸成を図る。

神戸市副読本「いきものといっしょ～みぢかなどうぶつに目をむけてみよう～

家で飼っている犬や猫、家の周りにいるカラスやスズメ、学校で飼っているカメやウサギ、山にいるイノシシなど、自分の経験から書き込んでいく。自分たちの家庭の中にいるペットは家族で世話をし、学校で飼育している動物はみんなで世話をして人間と関わっているが、自然の中で生きている野生動物は自分の力で生きているということに気づいていく。

「神戸にくらす人と動物たち」のイラストマップの中では、様々な人と動物の関わりを探す。「車内にいる犬」「一部屋に詰め込まれている猫」「捨てられている猫」「鳩に餌をやっている人」「公園に放置されたままの犬のフン」等の関わり方に対して、自分たちは何が出来るのか、どうしたらより良くなるのか等の正しい関わり方について意見を出し合う。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

ペット、学校飼育動物や家畜、野生動物それぞれの気持ちを考え、どんなことに気をつけたら良いのか、自分の考えを書き込み、発表してもらった。

家族で一緒に相談したり、考えながら記入している。子どもたちだけでなく、保護者も一緒に改めて動物との関わりを考えることで家庭に帰ってからも話題にしたり、振り返ることができる。

＜各回参加人数＞

実施日	参加者	保護者	合計
令和4年 4月30日（土）	1	2	3
5月14日（土）	3	1	4
5月21日（土）	2	1	3
6月11日（土）	1	1	2
7月 9日（土）	5	2	7
8月 6日（土）	4	3	7
8月13日（土）	3	2	5
8月19日（金） （サマースクール）	20	25	45
8月20日（土）	1	1	2
9月10日（土）	2	1	3
9月24日（土）	1	1	2
10月29日（土）	2	1	3
令和5年 1月7日（土）	3	2	5
合　計	**48人**	**43人**	**91人**

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

≪参加者の感想より一部抜粋≫
・ペットなどの動物はともに人間と生きるということがわかった
・どうぶつのいのちがどれだけだいじかしれて楽しかった。
・みぢかにいるどうぶつについて考えることがあまりなかったからそれができた。
・街の絵の中からどんな風に生き物がすごしているのかを考えたりすことができた。

神戸市副読本の内容を通して、人と動物の正しい関わり方について学び、動物に対する責任についても考えてもらうことができており、家族で参加するケースが定着している。家族で参加することで学んだ内容を家庭に帰ってからも話題にする機会が提供できている。週に1回開催日を設けているが、集客面では、なかなか参加者が増えないことが課題となっている。引き続きふれあい室開放時や子ども向けのプログラム開催時に参加を呼び掛け、学びの場を広めていけるよう工夫したい。
また、これまでは毎週土曜日に固定して開催してきたが、来年度は、犬猫の譲渡前講習の開催日に合わせ、毎週土曜日または日曜日の開催とし、曜日を固定せずに参加を促したい。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【「いのちの教育」プログラム】

「いのちの教育」プログラムは、2012年に奈良県で開発された主に小学生を対象としたプログラムであり、公益社団法人Knotsは同年6月より「いのちの教育」普及展開について奈良県と連携協定を結び、10年以上にわたってプログラムの普及展開や内容のブラッシュなどに関わっている。

管理運営業務を受託しているこうべ動物共生センターにおいても、動物共生教育事業として「いのちの教育」プログラムを導入している。このプログラムは、人間が一方的に動物をかわいがるという「愛護」から、**人と動物の関係性を知り、お互いを尊重する「共生」に重点**を置いた内容になっており、子どもたちが自ら参加するアクティブラーニングの手法で3つのプログラムを通して**「気づき」「共感」「責任」**というステップを通し、相手の立場を想像しながら互いの「いのち」の大切さを学ぶ。他者への理解を深め、共感・思いやりの心を育て、規範意識を醸成し、心豊かな市民の育成に貢献する。

令和4年度は、神戸市立泉台小学校より実施依頼があり、2年生2クラスで実施した。

実施日時：令和4年6月9日（木）／7月14日（木）／9月8日（木）2限目・3限目
実施場所：神戸市立泉台小学校　多目的室
講　　師：公益社団法人Knots
事務局長 北村美代子／企画教育部 企画教育係 金藏江津子
参加人数：児童61名（2クラス）　教員3名　クラスごとに授業を行った

【プログラムⅠ「私たちと動物との関わり」】6月9日（木）

プログラムⅠでは、子どもたちが大型の張り子を**「街」「牧場」「自然」**の３つのすみかに運ぶ。「街」で暮らし人間が最後まで世話をする《**ペット**》、「牧場」で暮らし人間の役に立つために育てられている動物で、人間が管理し、世話をしている《**家畜**》、「自然」の中で暮らし、人間が世話をせず自分の力で生きている《**野生動物**》が、それぞれの環境や人間とどのようにつながっているのかということに、子どもたちが**自ら気づいていく**。

張り子の動物たちを３つのすみかに運び、人間と動物がどのようにつながっているのかを一緒に考えつつ、「街」で暮らし人間が最後まで世話をする《**ペット**》、「牧場」で暮らし人間の役に立つために育てられている動物で、人間が管理し、世話をしている《**家畜**》、「自然」の中で暮らし、人間が世話をせず自分の力で生きている《**野生動物**》という動物とそれぞれの関わり方があることに気づく。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【プログラムⅡ「動物と私たちのいのちは同じ」】 7月14日（木）

プログラムⅡでは、動物にも人間と同じように感情があり、それぞれの動物には、私たちと同じように「**生きるために必要なもの（ニーズ）」があり、気持ちがあることを学ぶ。「生きている証拠**」を探し、「いのち」を実感できるものとして拡張心音計を用いて子どもたちひとりひとりの心臓の音を聞き比べ、同じ人間でもひとりひとりの心音に違いがあることを理解していく。こうした体験を通して、**人間と動物が同じたったひとつの「いのち」を持っていて、「こんなふうに暮らしたい」というニーズを持っている存在**であるという「**共感**」を生む。

全員の心臓の音を聞き終わった後に、なぜ一人ひとりの心臓の「音の大きさ」「速さ」「リズム」が違うかを子どもたちにたずね、**ひとりひとり違う人間だから、心臓の音＝「いのちの音」もひとりひとり違う**のだと気づく。自分の持っている「いのち」は世界でたったひとつのもの。そのたったひとつの「いのち」は、私たち人間だけが持っているものではなく、動物も同じように持っていることを理解する。

拡張心音計（心臓の音を拡大してスピーカーから聞くことができる機械）

人間と同じように、動物にも「こんなふうに暮らしたい」というニーズがあることを2枚のパネルの絵を見ながら、それぞれの動物の気持ちを考えた。

左上のパネルでは、挙手で意見を出してもらい、「早く散歩に行きたい」「早く走りたいよ」など、現在の犬の気持ちを想像して意見を出してもらった。

右上のパネルについては、ミニホワイトボードを使って思いつく限りの犬の気持ちを記述してもらった。「家族だけ楽しそう」「自分はひとりぼっちでさびしい」「もっとかまってほしい」「自分だけ暗いところにいるのは嫌だ」「体もマットもきれいにしてほしい」など、多くの意見が出た。

相手の気持ちを想像することで、動物にも「こんなふうに暮らしたい」というニーズを持っている存在であり、「動物にもこころがある」ことを知る。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

【プログラムⅢ「動物のために私たちができること」】 9月8日（木）

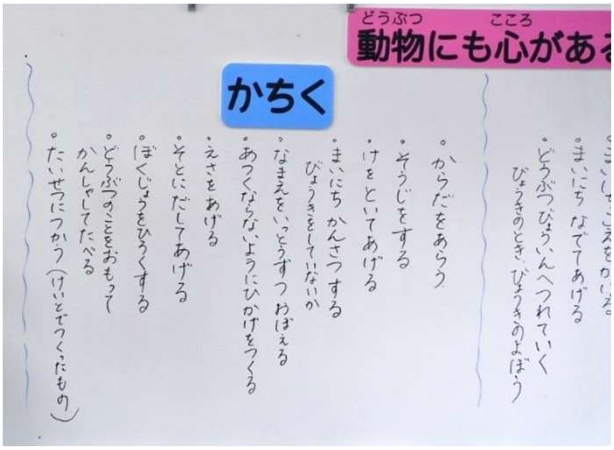
オープンスクールにて実施

プログラムⅢでは、私たちの周りにいる動物たちが幸せに暮らすためにどんなことができるのか、何をしなければならないか、**私たち人間が果たすべき「責任」**について考える。**自分たちが動物の「いのち」のために果たすことができる「責任」を「私たちと動物とのやくそく」として認識**させ、身近なところから自分たちができることを考える。

「ペット」「家畜」「野生動物」が幸せに暮らすために、自分たちにできることを考えた。ここでもホワイトボードを活用し、みんなの前で意見を述べるのが恥ずかしい子どもも、自分の意見を書き込んで記録に残すことで、授業に参加したという一体感を生む工夫がされている。

《**家畜**》と同様に人間が世話をする《**ペット**》にも共通して考えられる「毎日エサをあげる」「体を洗う」「病気をしていないか毎日観察する」というような意見だけでなく、「牧場を広くする」「暑くならないように日陰をつくる」「掃除をする」というような《**家畜**》が暮らす環境についての意見もあった。

また、人間の役に立つものを与えてくれる《**家畜**》に対して、「動物のことを思って感謝して食べる」「大切に使う（毛糸で作ったもの）」といったことにも思いを馳せることができるため、食育や給食指導にもつながっている。

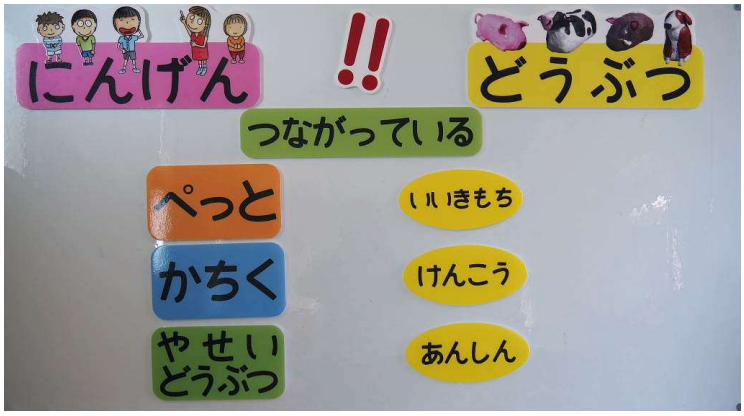


《**野生動物**》は人間が世話をせず自分の力で生きている動物であるため、《**ペット**》や《**家畜**》のようにエサを与えたり体を洗って清潔にしたりしない。《**野生動物**》のすみかである「**自然**」に対してできることを考える。

「ごみのポイ捨てをしない」「動物を驚かさないように大声を出さない」「森を破壊しない」「木を植える」など、小学校低学年の学校教育では、まだ「環境」という概念を授業の中では指導していないが、人間や動物を取り巻く環境の大切さを自ら感じ取ってくれるようになる。

④「一緒に学ぼう！For Kids」子どもを対象にした動物共生教育事業

各プログラム実施の前に、前回の「ふりかえり」に十分な時間を費やしている。この「ふりかえり」の重要性については、奈良県「いのちの教育」研究協議会においても指摘されており、**「ふりかえり」を行うことによって長期的に子どもたちの記憶の中に学習効果が定着**すると言われている。



プログラムの要所要所で、パネルを見ながら全員で**声に出して読み上げ**ている。**キーワードとなる言葉**に対しては、次回のプログラムの導入部分につなげるため、**記憶の固定化**を促す工夫がされている。

《子どもたちの感想より一部抜粋》
- どうぶつの気持ちがよくわかった。
- ペットだけでなく、自然のいきもののことも教えてくれてありがとう。いきものについてよくわかりました。
- いのちは人間にもどうぶつにもあるとわかりました。
- どうぶつには心がないと思っていたけど、心があると知ってもっとくわしく知りたいです。
- 人間と動物がつながっていると初めて知りました。
- 知らないことがまだいっぱいあるから、また授業をしに来てください。
- 学校に来てくれてありがとう。今度はこうべ動物共生センターに行きます。
- 動物たちがもっと元気に暮らせるようにします。
- 色々教えてくれたから、少し動物に興味をもちました。人間と動物は共存して生きるべきだと思いました。

こうべ動物共生センターの事業として、神戸市立小学校で初の「いのちの教育」プログラムを実施できた。プログラムⅢについては、オープンスクールの日に設定していただき、希望する保護者にも授業を見学していただけるよう、校長先生、教頭先生、担任の先生方にご配慮いただいた。保護者の方の感想を直接お聞きすることはできなかったが、家庭でも、親子の会話の中で「ふりかえり」をしていただけたなら幸いである。挙手では決まった子どもの発言が多い中、ホワイトボードを活用して自分の意見を書いて発表する場面では、全員が発表できたクラスもあった。また、自分が発表しようと思っていたときに同じ意見が先に出た場合、自分が書いた他の意見を発表するなど、積極的に授業に参加する姿も見られた。
張り子の動物を使ったこの「いのちの教育」プログラムは、動物アレルギーや動物が苦手な子どもも参加が可能であり、生体を使用しないため動物のストレスがなく、実施者も「動物に負担をかけている」というプレッシャーから解放されるというメリットがあり、子どもたちが心を開きやすくイメージしやすい動物を入り口とした汎用性の高い教育プログラムである。動物からの学びは、自分以外の他の存在に気づくこと、他者の心を知り、共感したり、感情移入することで、関わる他者に対して果たすべき責任がひとりひとりにあることなどを学ぶことができる。自分のできることから実行し、他者や社会全体の課題を自分の課題として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こすことができる「持続可能な社会の創り手」の育成にも貢献できる。令和5年度についても、泉台小学校からは継続実施の依頼があり、すでに実施日を調整済である。継続実施の依頼に応えつつ、実施校を増やしていくために今後も環境衛生課や教育委員会等と相談・調整を行っていく。

⑤「一緒に学ぼう！」飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

【犬のしつけ方教室】

犬猫の飼育者が、動物の習性・生理やしつけ方等を習得することにより、適正な飼育方法の啓発を図り、他人に迷惑をかけず人と動物が共生できる快適な生活環境の確保を図る。また、当センターのみで飼い方相談事業を実施するだけでは、すべての神戸市民のニーズに応じることはできないため、その成果が広く市民に行き渡る仕組みづくりに取り組む。

【今年度開催の教室】

①老犬との暮らし方教室　　②和犬教室
令和3年度に実施したパピー教室は、「パピーのお困りごと相談会」として来所相談の枠内で開催

【適正飼養アドバイザー会議】

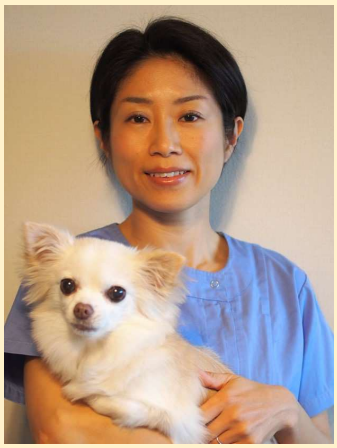
令和3年度より有識者・経験者で「適正飼養アドバイザー会議」を設置し、共生センターで開催するプログラムについて協議を行い、しつけ相談の対応についても適宜アドバイスを行う。「適正飼養アドバイザー会議」の機能は以下のとおり。

①共生センターのしつけ方教室・しつけ相談のプログラム構成
②上記プログラム実施に向けてのアドバイス
③各区での教室・相談に対応できる体制づくり
④プラットフォームの研修体制の整備
※③④については、令和4年度より取り組む予定であったが、新型コロナウイルスの影響により整備できなかったため、令和5年度に着手する。

適正飼養アドバイザーの先生方

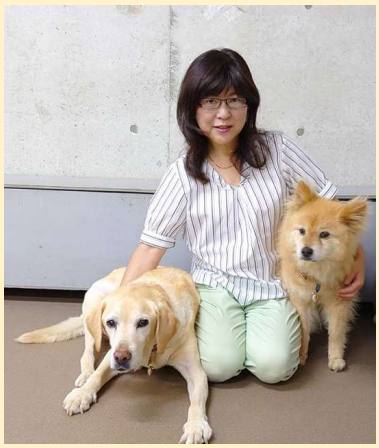
座長　村田香織先生〔獣医師〕

もみの木動物病院（神戸市）副院長／（株）イン・クローバー・代表取締役／公益社団法人日本動物病院協会（インストラクター養成講座委員会アドバイザー／こいぬこねこの教育アドバイザー養成講座メイン講師）／VeterinaryMedical Network行動学コンサルタント／動物ボランティアグループ・メイブリーズ代表／カフェ「ここっと」代表



近藤悦子先生〔獣医師〕

獣医師／「神戸いぬ・ねこ問題行動診療」代表／獣医行動診療科認定医／JAHA認定家庭犬しつけインストラクター



中塚圭子先生

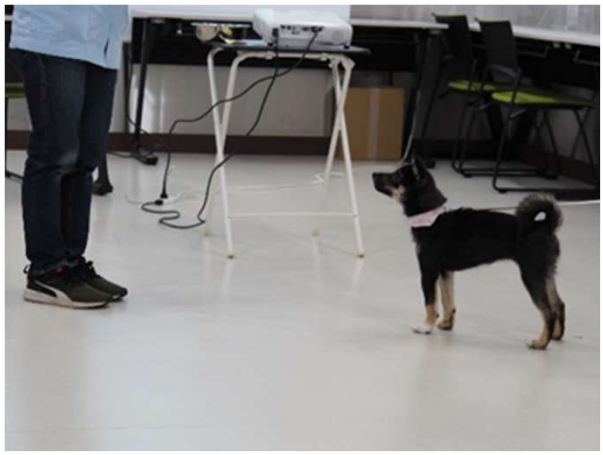
宮崎大学客員教授／環境人間学博士／人とペットの共生環境研究所所長／JAHA認定家庭犬しつけインストラクター／人と犬との共生教室「ドルチェカーネ・中塚」主催／JKC公認訓練士

⑤「一緒に学ぼう！」飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

各教室の参加人数と参加犬数は以下のとおりである。

開催日	教室名	講師	参加人数（付き添い含む）	参加犬数
11月3日（木・祝）	老犬との暮らし方教室	JAHA認定家庭犬しつけインストラクター 中塚圭子先生	11	9
12月11日（日）	和犬教室	「神戸いぬ・ねこ問題行動診療」代表／獣医行動診療科認定医／JAHA認定家庭犬しつけインストラクター 近藤悦子先生	5	2
合計	**2回実施**		**16人**	**11頭**

【老犬との暮らし方教室】の様子



【和犬教室】の様子

2つの教室の開催を通して、市民のニーズにいかに応えていくかという課題に直面した。問題が解消しない飼い主や、継続して学ぶ意欲のある飼い主に対して、共生センターで可能な支援を行うだけでなく、地域の動物病院や教室等につないでフォローする体制の必要性を痛感した。
こうべ動物共生プラットフォームを構築することで、地域でのフォローを可能にしていきたい。

⑤「一緒に学ぼう！」飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

各教室のプログラム開始時に、動物管理センターより内容を踏襲した以下の資料を配布し、共生センタースタッフより「飼い主の責務」について講義を行った（10分程度）。

犬と暮らすうえで知っておく必要のある法令

◎狂犬病予防法

・登録と狂犬病予防注射について（狂犬病予防法で定められた「飼主の義務」です）

〇登録：犬の生涯に一回

〇狂犬病予防注射：生後９０日を超えたら注射をしましょう。それ以降は毎年４月から６月の間にうけましょう。（３月下旬に（公社）神戸市獣医師会から「狂犬病予防注射のお知らせ」が郵送で届きます。）

〇鑑札と注射済票は首輪等につけておきましょう。無くした場合は（公社）神戸市獣医師会で再発行します。

〇住所変更、犬の死亡の場合等は、届出が必要になります。（公社）神戸市獣医師会に届けを出してください。

◎動物の愛護及び管理に関する法律・兵庫県動物の愛護及び管理に関する条例

・犬の飼い主として守るべきルール

〇放し飼いはやめましょう。散歩中に公園等でリードを放すのもやめましょう。

〇ウンチは必ず持って帰りましょう。

〇鳴き声、臭いなどでまわりに迷惑をかけないようにしましょう。

・不妊手術をしましょう

飼えない子犬をふやさないために、必ず不妊手術（雄は去勢手術、雌は避妊手術）をして下さい。生後６か月を過ぎたら具体的に手術の日取りを考えて下さい。料金等は病院によって違います。

・しつけをしましょう

犬との信頼関係を築いたうえで犬に、人間社会で暮らしていくための、ルールをやさしく教えてあげましょう。しつけの基本は「しかるよりほめる」です。

・万一、犬が迷子になってしまったら

姿が見えなくなったらすぐに「動物管理センター（動物愛護センター）」及び「警察署の会計課」に電話して下さい。見付かった時の取り消しの電話もお忘れなく。

※迷子にさせないことが一番大事です！

※マイクロチップの装着について

直径２mm・長さ 10mm 程度のマイクロチップを首の後ろの皮下埋め込みます。これには特有の番号が記録されており、登録しておくと機械で読み取り連絡先等が分かる仕組みです。

・咬傷等の事故が起きたら

最寄りの保健所（衛生監視事務所）に飼い犬事故届を提出して下さい。人を咬んだ場合狂犬病の有無について獣医師の健診を受けて下さい。

こうべ動物共生センター

各教室の報告は、次ページ以降のとおりである。

【老犬との暮らし方教室】

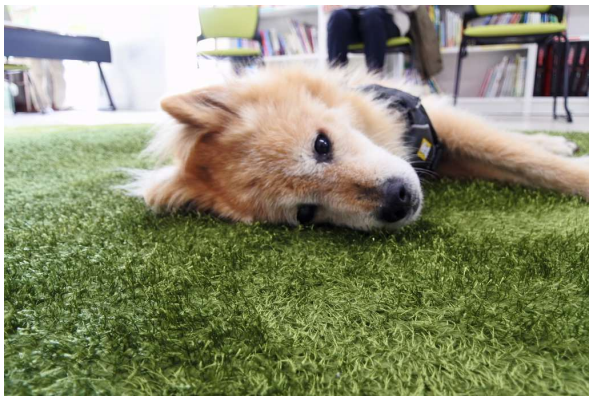
対象：老犬とその飼い主　　参加費：無料

希望者は犬を連れて参加で可能とし、老犬との暮らし方において悩みごとを共有しつつ、老犬用グッズ・介護グッズ等を体験して、生活の中で工夫できることを学ぶ。

開催日程：令和4年11月3日（木・祝） 13:30～15:30
開催場所：共生センター　ふれあい室
講　　師：JAHA認定家庭犬しつけインストラクター　中塚圭子先生
参加人数：飼い主11名（付き添い含む）　犬9頭

介護用の犬具、寝床、生活におけるサポートの工夫などを詳しくわかりやすく教えていただいた。中塚先生の愛犬で18歳になるジー太君もモデル犬として参加。この1ヶ月半後に、天国へと旅立ったが、教室に参加することで多くの飼い主さんを励ましてくれた存在だった。

「シニアペットと暮らすには自信をもって見守り、犬も人も仲間と楽しく過ごすことも大切です。仲間とは相談し合える利点があるので、仲間同士で愛犬を見守りましょう」と先生が飼い主さんたちに語りかけてくださった。

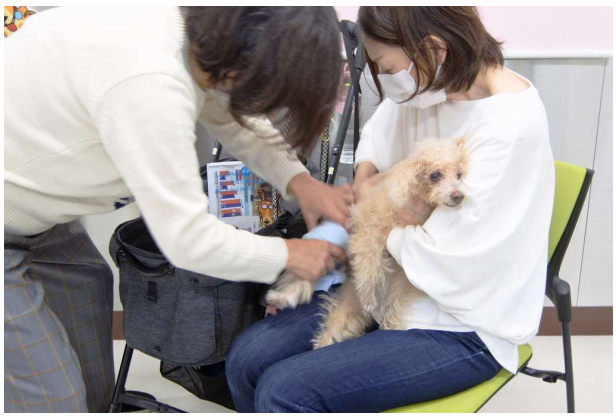


ジー太君は寝てばかりかと思えば、自ら合図を送り起き上がらせてもらって歩行を。参加者の皆様も温かい目で見守っておられた。

皆さん熱心に話を聞かれており、質問も多い。ひとつひとつ丁寧に答えていただけることで、悩みごとの解消にもつながっている。

⑤「一緒に学ぼう！」飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

料理用のクエン酸、重曹、片栗粉、水を使ってバスボム作り。ジー太君をモデルに清拭の実践もあり、わかりやすく、各自に清拭のコツを伝授していただいた。



立ち上がりが困難気味になってきたと相談された飼い主さん。マッサージ方法もアドバイスをいただいた。

介護用品や実際の使い方も実践つきで、わかりやすいとの声が多い。どのような、ものが自分の犬に合っているのか確かめることもできる。

≪参加者の感想より一部抜粋≫

・悩むことが多く、わからないことだらけなのでとても勉強になった。
　もっとこのような機会を増やして欲しい。
・知っておくことでものすごく安心できると思った。
・まだまだ先と思って暮らしていたが、人間よりも3倍の速さで歳を取るこの子のために食事、介助器具などとても参考になった。
・老犬との生活の不安が少しなくなった。また参加したい。

最近はペットも長生きできるようになり、喜ばしいことではあるが世話をする人間にも負担が大きくなっている現状がある。参加する方々がお散歩や食事等、同様の悩みを抱えているのがよくわかり、その気持ちに寄り添いながら指導、助言をいただけることで、「また参加したい」「次はいつですか」という声を常にいただいている。このような老犬に対してのプログラムが少ないため、「回数を増やして欲しい」といった声も聞かれ、大型犬は共生センターに連れてくるのが難しいケースもある。こうべ動物共生プラットホームの構築に着手し、専用ウェブサイト上での情報提供コーナーを設け、各地域でも実施するなど、市民の要望に応えるため、さらなる支援の場を広げていきたい。

⑤「一緒に学ぼう！」飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

【和犬教室】

対象：生後6ヶ月齢までの和犬（和犬系の雑種犬を含む）とその飼い主　参加費：無料

「自立心旺盛」「頑固」「警戒心が強い」という性格の特性を持った柴犬等の和犬の特性について理解を深めながら、犬を飼うことの基礎知識だけでなく、日常生活の中で必要な基本的なしつけ方、接し方等を学ぶ。

開催日程：令和4年12月11日（日） 10：30～12：30
開催場所：共生センター　ふれあい室・センター前広場
講　　師：獣医師／JAHA認定家庭犬しつけインストラクター　近藤悦子先生
参加人数：飼い主5名（付き添い含む）　犬2頭

子犬が様々なことを経験・学習する「社会化期」と呼ばれる時期は、一般的に生後3週齢から16週齢（4ヶ月齢）と言われている。「社会化期」は、家の中だけでなく外に出て色々な人に出会ったり、散歩で他の犬とにおいを嗅ぎ合って挨拶したり、様々な刺激を受けて社会性を身に付ける大切な時期である。今回参加した犬たちは性格面で「やや怖がり」で「警戒心が強い」一面があったため、時間をかけて少しずつ刺激に慣れるように先生が進行してくださった。

初めて顔を合わせた人からおやつをもらう場面。出会った人からおやつをもらうことで、「人の手はおいしいものを与えてくれる」「人の手は怖くない」「人に会うといいことがある」と学習し、人に対する警戒心を無くしていく。

⑤「一緒に学ぼう！」飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

屋外での散歩・遊び

初めて外を散歩する練習。少し歩くと「遊ぼっ！」と遊びに誘う行動も出てきた。興奮しすぎないように先生が見守り。

室内での講義

犬のしつけにおいては、罰（体罰）を用いるのではなく、好ましい行動をほめてその行動が増えるように導いたり、人にとって嫌な行動（甘噛み等）は遊びを止めて無視する等して、その行動が減るように導くというやり方について詳しく説明していただいた。

「愛情ホルモン」「幸せホルモン」と呼ばれる「オキシトシン」が、飼い主（人）と犬の相互のやりとり（見つめ合い・ふれあい）において双方に分泌が促進されることがわかり、幸せを感じることで絆が深まることが明らかになったことも教えていただいた。

≪参加者の感想より一部抜粋≫
・飼い主と犬との関係が、親子関係に例えられることが印象に残った。
・甘噛みの対応や、リードの持ち方など、大変勉強になった。

和犬らしい特性を持った犬が参加し、「社会化」の重要性の理解が深まったように見受けられた。とても大切に飼育してもらっていても、様々な刺激に慣れておく時期の経験が少ないと、警戒心を発端に様々な問題行動へ発展する可能性がある。
今年度は初めての「和犬教室」の開催で、適正飼養アドバイザー会議での協議の上、対象を6ヶ月齢までに限定したが、令和5年度は1歳未満までに引き上げ、子犬から成犬に成長していく時期のフォローを行う。

【飼い主相談】

犬猫等を飼育する前や飼育した後のしつけ・飼育等に関する飼い主等の各種相談に応じることにより、飼い主のライフスタイルに合った動物との生活の提案や、飼育継続が困難な状況等の相談への早期介入を行い、動物の終生飼養の支援や福祉部署との連携等による問題解消を図る。

ひとりひとりの市民の課題に寄り添い、ひとつひとつの「市民の幸せ」を実現することで、「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸市」を実現する。

◎飼い方相談・犬猫のしつけ相談　相談料：無料

犬のしつけや問題行動の解消に関する専門家が、電話や来所による面接により相談を受け付けアドバイスを行う。愛玩動物飼養管理士である専任職員が対応する。

相談内容により、市による対応が必要であると判断された事案について、市に対し情報提供を行う。

●電話、メールによる相談

開所時間内は随時対応した。犬猫等の健康に関する相談については、毎月第一水曜日の獣医師による健康相談（電話）を案内。しつけや問題行動の解消に関する相談については、毎月第一金曜日の獣医師による問題行動相談（電話）や、来所による相談についても案内。

また、飼育継続困難となった等の引き取り希望の相談については、神戸市の指示により生活衛生ダイヤルを案内している。

●来所による相談（事前予約制）

愛玩動物飼養管理士である専任職員だけでなく、相談内容により訓練士、インストラクター等の有資格者が相談者に助言・指導を行う体制を整えた。本橋孝志訓練士に依頼し、相談日時は月に2回×3組/1回、1組45分とし、事前予約制でマンツーマンで対応した。

また、令和3年度に実施した「パピー教室」が好評であったことから、令和4年度は、来所による相談の枠の中で**「パピーのお困りごと相談会」**を実施した。

市民相談室にて詳しく聞き取りを行った後、必要に応じて屋外での指導・助言等を行う。一頭一頭に合わせたきめ細かい対応を行っている。

⑥「お困りごと」犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

電話による健康相談・問題行動相談の対応について

相談電話専用ダイヤルにて市民からの相談を無料で受け付けた。健康相談、問題行動相談共に、神戸市の事業として公益社団法人神戸市獣医師会所属の獣医師が市民相談室にて電話による相談に対応した。令和4年度からは水曜日の健康相談が第一水曜日のみとなっている。

相談専用ダイヤル：078-747-3063（直通）
◎健康相談：毎月第一水曜日　13:00～16:00
◎問題行動相談：毎月第一金曜日　13:00～16:00

当法人職員は、当番の獣医師に相談ファイル一式の受け渡し、獣医師が離席中の電話対応等を行った。また、問題行動相談については、電話だけで問題が解消できない場合について獣医師の判断で飼い主に来所してもらい相談を受け付けるケースがあり、その場合の予約管理のサポートも行った。

令和4年4月～令和5年3月までの来所による相談件数

年／月	相談実施日	相談件数	参加人数	参加頭数
令和4年4月	9日（土）	2	2	2
5月	7日（土）／27日（金）	2	3	2
6月	11日（土）	2	3	2
8月	12日（金）	1	1	2
9月	17日（土）	1	1	1
10月	1日（土）	1	1	1
11月	11日（金）／19日（土）	4	7	4
12月	3日（土）	1	1	1
令和5年1月	14日（土）	1	1	1
2月	11日（土／祝）	3	6	5
3月	18日（土）	2	4	2
合　計	**13日実施**	**20件**	**30人**	**23頭**

【パピーのお困りごと相談会】

対象：生後4ヶ月齢までの子犬とその飼い主　　参加費：無料
成長して問題が起こってから対処するのではなく、社会化期に様々な経験を積むことで問題行動を予防し、人間社会で楽しく幸せに暮らせるようにする。

開催日時：令和4年11月11日（金）14:00～16:00
開催場所：共生センター　ふれあい室
講　　師：獣医師／JAHA認定家庭犬しつけインストラクター・村田香織先生
参加人数：受講者3名　犬3頭

共生センターの子犬たち３頭が参加

先生から、概ね4ヶ月くらいまでの子犬はとても頭が柔軟で、この時期、は様々な刺激に慣れることで多くのことを学んでいく「社会化期」とも言い、親犬や兄弟犬との関わりの中で犬のルールも学び、人間と触れ合うことで人に対しての社会性も身に着けていくと教えていただく。

先生からのプレゼント

引っ張りっこの遊びに使うロープ、人との社会化に使うおやつを入れるケース、普段のトレーニングに使うご褒美をいれておく小さなケース。ロープは子犬が遊びの中でルールを学ぶだけでなく、噛みたいという要求を満たすことで「甘噛みへの対応」にも活用できる。 社会化に使うおやつは、外で初めて出会う人から与えてもらうことで、「おいしいものを与えてくれる人」「人の手はこわくない」と子犬が学習できるツールとなる。

ハンドリングクッキーでトレーニング

ご褒美を上手に使いながら、足の間を通してフセの練習。繰り返し行うことでどの子もみんな「フセ」を覚えることができた。

今年度は来所相談の枠の中で実施したが、参加希望はあったものの、平日開催であったため、調整がつかずに一般からの参加がない結果となった。子犬を飼育している家庭には、家族揃って「社会化」について学んでいただくため、令和5年度は休日の日程で開催すると同時に、こうべ動物共生プラットフォームの構築に着手し、各区単位などで、より市民に近い場所での開催を目指して、動物取扱業事業者向けの研修として「パピー教室」を実施したいと考えている。

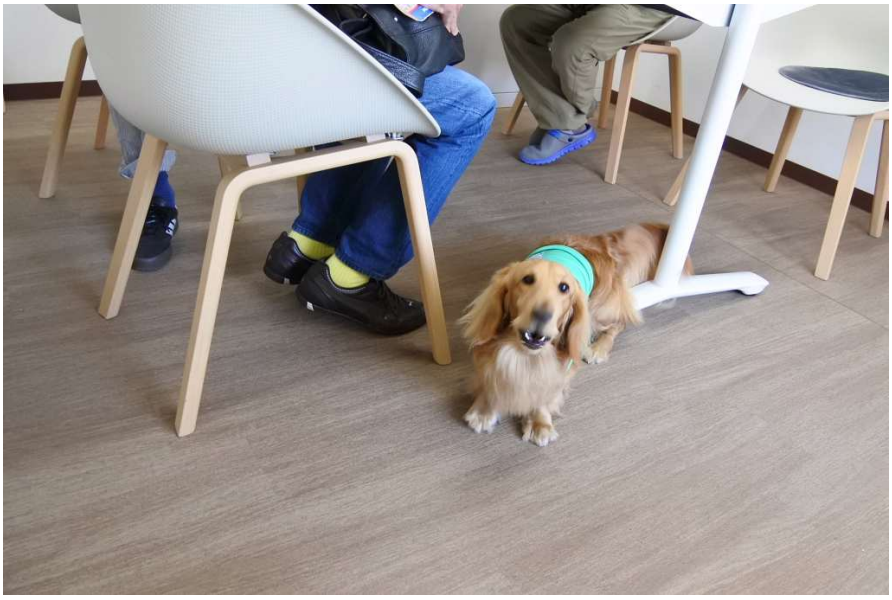
令和4年4月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/4/9	ミニチュアピンシャー	1 歳 7 ヶ月	オス	済
相談内容				
給餌のとき、待っている間に唸り、咬みつきそうになり（一人のときはまだまし）、複数の人がいると狂暴になる。餌の量が多いときも狂暴になる。立ちながら食べる。家を出る前に吠える。中 3 の娘さんに唸ることが多い。				
対応について				
フードを与えるときは一度に一回量を与えず、取り分けたフードを少しずつ与える。唸るなど好ましくない行動が出た場合は、いったんフードを与えることを止めて落ち着いてから次を与えるようにする。飼い主にとって好ましくない行動をした場合は、いったん部屋から出て落ち着くまで待って戻るということを繰り返し、普段からの基礎的なしつけを行うようにアドバイス。手入れのときにご褒美をあげながら気をそらして少しずつ触らせることに慣れさせる練習をすることも伝えた。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/4/9	柴犬	3 歳 11 ヶ月	オス	済
相談内容				
飼い主を咬む。散歩中に寄ってきた人を咬んだ。しつけ方が分からない。				
対応について				
食事中に手を出すと威嚇したり、咬みつくとのことだったので、一度にフードの一回量を与えず、少量ずつ与える方法を伝授した。リードで犬の動ける範囲をコントロールし、歯が届かない距離を保ちながら食器に少量ずつフードを与え、飼い主の手からフードをもらうことに慣れさせるものである。同時にクレートなど犬が安心できる場所を確保して、落ちついて過ごせる環境づくりや、基礎的なしつけを普段から行うようにアドバイスした。				
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/4/22	コーギー	6 歳 1 ヶ月	オス	未
相談内容				
他の犬に対する噛みつき（主にオス犬に対して）。				
対応について				
散歩友だちの犬（ボーダーコリー）と喧嘩して鼻先に咬みつき出血をさせたことがあり、それ以来その犬には近づけないようにしており、他の犬に近づけると咬む場合があるとのこと。散歩中に犬を見かけたときは飼い主が先に他犬の存在に気づくよう心がけ、他の方向へ行くなど歩くコースを変えるか、間に合わない場合は近づけ過ぎないようにリードをコントロールして咬む機会を与えないようにするよう助言した。並行して基礎的なしつけを普段から心掛けるようにアドバイスを行った。				

令和4年5月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/5/7	ミニチュアダックスフンド	5 歳 6 ヶ月	メス	済
相談内容				
今年 2 月に迎えた繁殖引退犬、普段は大人しく無駄吠えもほとんどないが、夫がいるときはソワソワして姿が見えるとずっと吠える。トレーニングをして夫が座っていると手からおやつを食べられるようになり、抱っこすると顔をなめてくるが、少しでも動いたり、立ち上がると咬む。サークルに入ってもらいたいが、夫がいるときは夫のそばを離れずサークルに入ってくれない。				
対応について				
どんな状況下でも、「オスワリ」「フセ」「マテ」等の基本的な指示を聞くことが出来るように、普段からトレーニングすることをアドバイス。吠えるなどの好ましくない行動が見られたときはその場から離れ、「吠えているとかまってもらえない」という状況を作り、犬が落ち着いてから戻ることを繰り返すことで、好ましくない行動が減っていくことを説明。さらにケージ等の中で過ごす時間を作り、飼い主の指示でケージに入れるように練習することも併せて助言を行った。				

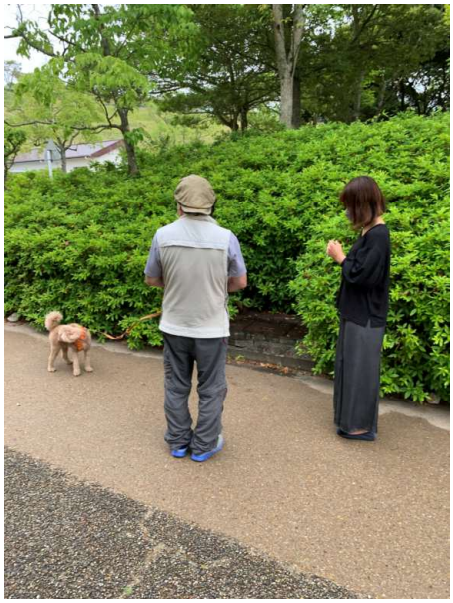
相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/5/27	ミニチュアダックスフンド	1 歳	オス	未
相談内容				
他人、他犬に対して激しく吠える。家庭での要求吠えも激しい。				
対応について				
吠える行動をコントロールする方法（吠えているときに「吠えろ」という指示で吠える、止めたタイミングを逃さず「止め」「静かに」という指示で吠えるのを止めさせる）について、ご褒美のおやつの使い方、与えるタイミングをお伝えした。散歩中の行動についても継続した指導助言を要するため、6 月 16 日のお散歩診断を案内した（申し込んで参加され「大変勉強になった。また参加したい」とのこと）。 要求吠えに関しては、サークル、ケージ等を活用して一頭で落ち着いて過ごす練習方法について助言を行った。				



令和4年6月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/6/11	トイプードル	2 歳 5 ヶ月	オス	済
相談内容				
吠え癖と引っ張り癖。				
対応について				
吠えているときに「吠えろ」、吠えるのを止めたときに「止めろ」と声掛けをして吠える行動をコントロールする方法について、スタッフの犬で実演しながら助言を行った。並行して「オスワリ」「フセ」「マテ」等の基本的な指示を、どんな状況下でもできるように練習するようアドバイス。 引っ張り癖に関しては、リードの使い方と犬のコントロールの方法を実際に体験して学んでいただいた。伸縮タイプのリードとハーネスを使っていたため、トレーニング時には伸縮タイプではないリードとカラーを利用することをすすめる。また、1 日 2 回の散歩において、1 回の散歩時間が 5～10 分とのことだったので、時間や運動量を増やして十分に遊ばせ、エネルギーを発散させることの必要性を伝えた。 飼い主様帰宅後、「丁寧にわかりやすくマンツーマンで教えていただき、救われた気持ちで帰宅できた。がんばって向き合いたい」というお礼のメールが届いた。				

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/6/11	チワワ	2 歳 6 ヶ月	オス	済
相談内容				
他人の誰でも吠える。家族にも吠える。音にも吠える。				
対応について				
過敏に反応する様子が見られたので、クレートなど家の中で犬だけで落ち着ける場所を用意し、一定時間過ごさせる練習を勧めた。興奮して吠え始めたら飼い主は退室し、ドア等を閉めて犬を残し、落ち着いたら戻るよう助言を行った。並行して「オスワリ」「フセ」「マテ」等の基本的な指示をどんな状況下でもできるように普段から練習するようアドバイス。特に「マテ」については、飼い主が離れてもその場に留まれるように練習する方法を伝えた。また散歩の回数が 1 日 1 回で費やす時間が 10 分であったため、1 回の時間を増やしたり運動量を増やして十分に遊ばせることで、エネルギーが発散できることを伝えた。				



令和4年8月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/8/12	チワワ	5歳	メス	未済
相談内容				
先住犬に攻撃的になるときがある。他人に咬みにいくことに困っている。				
対応について				
ペットショップの売れ残りを引き取ったが、子犬時代を長期にわたって他犬と接することもなく過ごし社会化期を逃してしまったため、犬同士の関係が作りにくい様子だった。まずは飼い主の指示に従えるように「オスワリ」「フセ」「マテ」等がどんな状況下でもできるように普段からトレーニングするようアドバイスを行った。トレーニング時のリードの使い方についても説明を行った。また、ストレスがたまらないよう、エネルギーを発散させるために、散歩の回数や時間を増やすことの助言も行った。				

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/8/27	柴	4歳7ヶ月	オス	済
相談内容				
同じ柴犬や、同じくらいの大きさの犬に対して飛びつく、唸ることが多い。兵庫県動物愛護センター（三木支所）の職員からしつけ教室に通うことを勧められたが本当に必要か分からない。				
対応について				
通常時は特に問題が無い様子。 まずは、唸る対象となりそうな犬と出くわした場合には進行方向を変える等して、接触を避けるようにアドバイスした。また、どんな状況下でも飼い主の指示に従えるように「オスワリ」「フセ」「マテ」等の基本的な練習を繰り返すことの必要性についても助言を行った。飼い主の指示での「マテ」の練習をしっかりすることで、様々な場面で犬の衝動的な行動を抑える効果が期待できるため、静かな部屋の中、散歩中、周りに他の犬がいるとき等色々な状況のもとで繰り返し練習することがとても大切であり、繰り返し練習を行うことで、突発的な状況が起こったときにも飼い主の指示である程度コントロールすることができるようになることを伝えた。				

令和4年9月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/9/17	柴	3歳（推定）	オス	未済
相談内容				
九州の保護施設から迎え入れて1ヶ月ほど経つが、散歩のときに大型車等大きな音がすると怯えて逃げようとする。散歩を怖がる。長男にだけ吠える。北海道旅行（飛行機）へ連れて行きたい。				
対応について				
散歩中の様子をお伺いしたところ、他の犬や人に対しては友好的。大型車等の大きな音を聞くと逃げようとすることに対しては、普段のしつけの中で飼い主の指示に従い、待つことを習慣づけ、犬が対象物に気づく前に指示を与えてじっと待つように教える方法について伝え、実際に散歩をしながら実践した。長男に吠えることについては、家族全員で基本的なしつけを教えつつ、長男の手からおやつ等を与えてまずは長男に慣れるようにすることをアドバイスした。飛行機に乗せて旅行したいとのことだったため、移動の際に安全確保できる素材のクレート等に普段から慣れさせることや、ラジオ等を使用して様々な音を聞かせ、少しずつ大きな音に慣れさせ、音に驚かないようにする方法を伝えた。				

令和4年10月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/10/1	パピヨン	1歳1ヶ月	オス	済

相談内容

散歩中に拾い食いするので取ろうとすると本気で咬む。これまでに2回咬まれた。服のボタンを咬みちぎったときに取ろうとして咬まれた。おもちゃはこちらから取り上げようとしないので大丈夫だが、咬む行動にどう対応したら良いか。また、庭や部屋の片隅で排泄したときに便を食べるので、食べさせないためにはどうしたら良いか。

対応について

散歩時の拾い食いについて詳しくお聞きしたところ、木の枝などを見つけると咥えて離さず、取り上げようとすると抵抗するなど、お気に入りの物を飼い主さんに渡さない様子がみられた。散歩中は犬が見つけて取ろうとするのを、先に制止し取らないようにすることと、先に取られたとしても直ぐに取り上げられるように代わりに与えられるご褒美やおもちゃなどを利用して、直ぐに出させる（ご褒美やおもちゃと交換する）ことを習慣づけるよう伝えた。そのためには土台となる基本的なしつけも必要となるため、飼い主の指示に従えるように「オスワリ」「フセ」「マテ」等の基本的な指示をどんな状況下でも行えるように日常からトレーニングすることについても助言を行った。
食糞については、「食後」「寝起き」「クレートやケージ等から出したとき」等に排便することが多いため、様子をよく観察して排便した場合は直ぐに片付けるようにし、食べようと口を近づける前に制止の指示に従えるようにトレーニングする方法をアドバイスした。

令和4年11月来所による相談の対応事例①

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/11/11	柴	10ヶ月	オス	済

相談内容

散歩中や外で過ごしている時にトラックや自転車、通行人、音に対して怖がり吠える。散歩中は対象物から逃げるようとして引っ張ったり通り過ぎるまで動かない。散歩中の拾い食いも含めコンクリートのかけらや、小石、毛布など異食行動がある。「待て」からの「よし」で飛びつく。ハーネスを着ける時に逃げる（首が敏感）。

対応について

飼い主は在宅しているが日中は庭で放し飼い、夜間や雨の日は部屋に入れているがほぼ屋外飼育の状態。家庭に迎えてから2ヶ月間ドッグトレーナーに訪問してもらい基本的なトレーニングを受けたとのことだが、飼い主の指示に従って行えるようにすることが重要である点を伝えた。「吠える」「飛びつく」といった行動への対応については、まずは基本的なしつけが土台となるため、引き続き飼い主が「オスワリ」「マテ」などトレーニングを行うようアドバイスした。特に吠えることについては、吠える気配を感じたり、吠え始めたら指示を与えて飼い主に注目するように誘導し、対象物から気を逸らしながら部屋の中やクレートなど刺激の少ない場所で吠え続けさせないようにする方法についても助言を行った。異食については、犬が見つける前に阻止したり、飼い主の目の届かない場合は近くに置かないように気をつけるよう伝えた。犬具の着脱については、日頃から体のどの部分でも触れることができるように、ご褒美を与えながら嫌がる部位を無くしていくようにトレーニングする方法のアドバイスを行った。

令和4年11月来所による相談の対応事例②

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/11/19	雑種	1 歳	オス	済

相談内容

こうべ動物共生センターからの譲渡犬であり、他犬との関係は良好で犬連れの人には近づくことができるが、街中で出会う見知らぬ人や登下校時の子どもを特に怖がり、リードを引っ張ってその場から離れようとする。

対応について

見知らぬ人が苦手になった原因の一つとして、子犬の時期にたくさんの経験をして社会性を身に付ける「社会化期」に、様々な人と関わる経験が少なかったのではないかということが考えられたため、怖がっている状態のまま登下校時等の人が多い時間帯に人の多い場所を散歩するのではなく、人通りの少ないところで見知らぬ人と出会ったときに「オスワリ」「フセ」等の指示を与えて、その場から動かず落ち着いてやり過ごすようアドバイスした。うまくやり過ごせたらご褒美を与えるなど褒めることを繰り返すことで、犬が少しずつ自信を持って歩けるようになることも伝えた。散歩中のリードの取り扱い方についても伝授した。

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/11/19	トイプードル	2 歳	メス	未済

相談内容

分離不安で怖がり、自己主張も強い。人が好きすぎて、他犬への嫉妬が目立つようになってきた。飼い主に甘えにくる他の犬に激怒する。飼い主に近づこうとする犬がいると唸り声を上げたり、牙をみせて威嚇する。相談者の夫が特に好きで傍らにいるときに他の犬が近づくと威嚇する。

対応について

日常時は部屋で自由に過ごさせているという飼育状況のため、クレートで静かに過ごす時間を作るなど環境整備を見直し、同時に飼い主の指示に従えるように「オスワリ」「フセ」「マテ」等の基本的なトレーニングの方法について助言を行った。いつでも自由に動き回るのではなく、特に指定した場所でじっと待つなど、落ち着いて過ごすことから問題の解消へつなげていくことをアドバイスした。

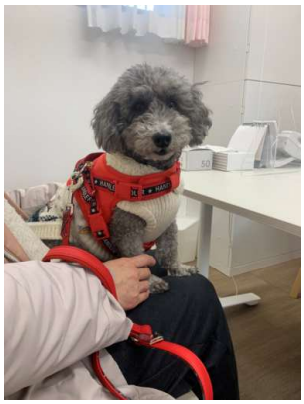
⑥「お困りごと」犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

令和4年12月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2022/12/3	トイプードル	7歳6ヶ月	オス	済
相談内容				
無駄吠え、家の中での拾い食いで床に落ちている髪の毛を見つけると口に入れたり食べてしまう。散歩のときに歩かない。相談者に依存してしまう。配達の人などがくると玄関まで吠えながら出てきて吠える。				
対応について				
まずは飼い主の指示に従えるように「オスワリ」「フセ」「マテ」等の基本的なトレーニングの大切さについて伝え、来訪者があった場合はクレートやサークルの中、クッション等の場所に飼い主の指示で移動させ、そこで待たせることを目標にした日常のトレーニング方法をアドバイスした。「オスワリ」「フセ」「マテ」などの合図で待たせるトレーニングは、犬を特定の場所で待たせるだけでなく、対象物に向かっていく行動を抑制することにも役立つことも併せて伝えた。 拾い食いで髪の毛を口にすることに関しては、口に入れる物を犬の目に触れないように片付けることや、飼い主の制止の指示に従えるようにしっかりとトレーニングを行うことを助言した。散歩については、抱き上げて離れたところに連れて行き、降ろしてから家まで歩いて帰るようにしたり、次の電柱まで歩くといった達成しやすい目標を決め、その間は飼い主と一緒に歩くなどの練習方法について伝えた。				

令和5年1月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/1/14	ミニチュアダックスフント	2歳1ヶ月	オス	未済
相談内容				
「お散歩診断」で教えてもらったことを守りつつ、しつけを 1 年続けてきたつもりだったが、近頃朝起きてケージから「出して」、夫が帰って来たときの「お帰り、撫でて」などの吠え方がひどくなってきたので再度しつけについて教えて欲しい。				
対応について				
「オスワリ」「フセ」「マテ」等の基本的なトレーニングがうまくいかず少し困難なように見受けられたため、基本的なトレーニングの大切さを伝え、トレーニング方法を示して再度学んでいただいた。犬が何かを要求している場合は直ぐに応じるのではなく、飼い主が何か簡単な指示を出しそれに従った結果、要求が通るということを習慣づけるようにアドバイスを行った。また、「フセ」「マテ」などの犬を少しの間じっと待たせて落ち着かせるトレーニングを重点的に行うことも勧めた。				



令和5年2月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/2/11	MIX （トイプードル×ビーグル）	2 歳 3 ヶ月	オス	済

相談内容

3 頭の多頭飼育（トイプードル 3 歳オス、MIX トイプードル×ビーグル 2 歳オス、ビションフリーゼ 7 ヶ月オス） で、2 歳 3 ヶ月の MIX がおもちゃに執着が強く他の犬が取ろうとすると威嚇や攻撃をする。おもちゃを咥えているときに他の犬が近くに来るだけで唸る。おもちゃを複数与えても自分のおもちゃを取られそうになると攻撃する。同居犬同士は問題なく暮らせていておもちゃも他の同居犬に譲ることもあるが、ドッグランなど家の外で他の犬に対しては、おもちゃを咥えているときに威嚇や攻撃をするとのこと。

対応について

基本的な「オスワリ」「フセ」「マテ」などのトレーニングの重要性について伝え、少しの間じっと待たせるトレーニングとドッグランでは特に必要となる呼び戻しのトレーニングの方法について助言を行った。
基本的なトレーニングを続けたうえで、飼い主の指示があったら必ず口から出す練習（ご褒美のおやつや他のおもちゃと交換するなど）の方法についても伝えた。

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/2/11	トイプードル	3 歳	オス	済

相談内容

咬まれることが多く悩んでいる。夜、同じベッドで寝ているが犬が先にベッドに行き、後から寝室に入ろうとすると激しく鳴きわめいて飛びかかり足を咬まれ、足はあざだらけ。普段はリビングルームで自由にさせているが、出かけるときはサークルの中で過ごしている。出かける様子を察し「バイバイ」しようとすると激しく吠える。また、他の犬が近づくと逃げようとする。

対応について

基本的なトレーニングはたまにしかしていないとのことだったので、毎回の食事の際になどに「オスワリ」「フセ」「マテ」などのトレーニングを習慣づけることをお勧めし、普段の生活の中で犬の要求に直ぐに応じるのではなく飼い主から「オスワリ」等の指示を出し、それに従ってから要求に応えるようにするようアドバイスした。犬が先にベッドにいる場合はおもちゃなどを使っていったんベッドから出し、「オスワリ」などの指示を出して従ってから呼び寄せるなど、今までと違う方法を試すよう助言を行った。
また、出かける前には留守番を連想させないように、出かけることを予想させるような動きや声掛けは避けるように伝えた。

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/2/11	柴犬	1 歳 7 ヶ月	メス	済

相談内容

散歩中の拾い食い（プラスチック類）や一度咥えたものに対する執着心が強く、取り上げようとすると激しく咬みつくことがあり、頻繁にプラスチック類等を食べてしまう。
以前ドッグランで大型犬に追い回されたことがあり、それ以来、散歩中に大型犬に限らず犬が近づいてきただけで吠えだすなど攻撃的になることが多くなった。

対応について

基本的なトレーニングを日常から行い、飼い主の指示に従うように普段からトレーニングすることを勧め、散歩中に拾い食いをしそうな物があった場合は、犬が見つけて口に入れる前に制止するように注意しつつ、日常から飼い主の指示で口に入れたものを出せるようにトレーニングすることを併せてアドバイスした。
また、他の犬を散歩中に見かけた場合は、犬が吠える前に方向を変えるなどして視界に入らないように避け、吠える状況を作らないようにし、吠える前に「オスワリ」「フセ」などの指示を先に出して飼い主が犬を制御できるように日頃からのトレーニングを心がけるように伝えた。

⑥「お困りごと」犬猫飼育者支援事業（飼育に関する個別相談）

令和5年3月来所による相談の対応事例

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/3/18	MIX	2 歳 8 ヶ月	オス	済

相談内容

毎朝唸る。家族以外が家に入ってくると吠える。生後 1 ヶ月過ぎぐらいで民間の保護施設から引き取り、免疫がつくまで外に連れ出さないようにと保護施設の指導があったため、半年ほど外の散歩や他の犬や人との接触を避けてきた。8 ヶ月ぐらいの頃フードをあげる際にリードが絡まったので外そうとしたところ突発的に本気で咬まれたことがある。飛びつきなどで困っていたので 1 歳ぐらいの頃月に 1 回のトレーニングに通うが、10 回程通った後こちらではみることができないとトレーニングの終了を告げられる。部屋の広範囲を自由にさせていて玄関先にクレートがある。朝の散歩のときにクレートから出てこないので出そうとすると唸る。身体を触ることを嫌がるのであまり触らないないようにしてきた。

対応について

社会化期に人や犬との関係や色々なことを体験し、順応することを学ぶ十分な体験をすることができず社会体験が不足して、その結果警戒心が強くなってしまったと考えられたため、まず犬が飼い主に慣れてもらうことと、犬を扱いやすくするために「オスワリ」「フセ」「マテ」などの基礎的なトレーニングをごほうびを使いながら行うことをアドバイスした。さらに、ごほうびを与えながら犬の嫌がる所を避けて体に触れることを繰り返し、人の手が心地よいものであることを徐々に体験させる方法についても助言を行った。また、玄関先など外界の刺激を受けやすい場所はリラックスできないため、出来れば家の中の落ち着ける場所にクレートを置いてみることを勧めた。並行して基本的なトレーニングの方法についてアドバイスを行い、散歩の際のコントロールの仕方について、センターの周辺を散歩しながら助言を行った。

相談日	犬種	年齢	性別	去勢・避妊手術
2023/3/18	トイプードル	2 歳 5 ヶ月	オス	済

相談内容

マンションの住人より犬の鳴き声についての苦情がコンシェルジュに入り、東部衛生監視事務所から電話による調査が入り、来所による相談を紹介された。
夜に帰宅して家で一緒にいるとボールで遊べとしつこいので相手をするが相手をしないと吠えて催促する。
また、通路で人の気配があると吠える。
昼間は不在のため、犬の専門学校（トレーニング）に預けて犬をみてもらっている。

対応について

家庭での基礎的なトレーニングは特にしていないとのことだったので、「オスワリ」「フセ」「マテ」などのトレーニングを習慣づけることを勧め、おもちゃは与えっぱなしにせず飼い主の管理の元に遊ぶときだけ出して終われば片づけるように伝えた。ボールで遊べと催促した場合は、必ず飼い主が「オスワリ」等の指示を出しそれに従ってから遊ぶようにして犬が要求するまま遊ばないように気をつけるように伝えた。
また、通路を通る人の気配に気づきにくくなるように、通路には近づけないようにフェンスなどで自由に動ける範囲を制限し、奥の部屋で過ごさせるよう、環境整備についてもアドバイスを行った。

電話やメールでは充分に状況を把握できない場合もあり、犬を連れて来てもらうことで、飼い主が日頃どのように犬とコミュニケーションをとっているか、実際の様子を見ながらより具体的なアドバイスを行った。中には、電車とバスでは犬を連れて行くのが困難という市民の声もあり、「出没・こうべ動物共生センター」のような地域における相談窓口創出の必要性も感じた。
また、今年度においては子犬のころの社会化期の必要性を、成犬の相談内容から鑑み、「パピーのお困りごと相談会」を開催した。
次年度においては広報の仕方を工夫したい。

⑦「参加してみよう！」飼い方相談事業

【お散歩診断】

散歩が苦手、落ち着ついて歩けない等、日常の散歩で困っている飼い主対象に専門家から困りごとへの適切なアドバイスをもらいながら、犬も人も安全で楽しく散策する。雨天時は、飼い主のみの参加で座学の講習を実施。

開催日程：第3木曜日　13:00～14:30
開催場所：共生センター・しあわせの村内いやしの小径等
講　　師：JAHA認定家庭犬しつけインストラクター　渡辺ひろこ先生

開　催　日	参加人数	参加犬
第1回　令和4年6月16日（木）	11	10
第2回　座学　9月10日（土）	5	0
第3回　10月20日（木）	10	8
第4回　11月10日（木）	8	6
第5回　11月19日（木）	6	9
第6回　12月15日（木）	10	8
第7回　令和5年 3月 9日（木）	9	6
合　　計	**59人**	**47頭**

お散歩前の安全確認

首輪が緩すぎないか、散歩時のリードの長さ等の確認を行ってから散歩へ。「距離を取って離れて歩く」等毎回テーマを設けて安全に楽しくお散歩ができるよう丁寧にお声掛けいただいている。歩調も全体のペースを見ながら調整していただいている。

散歩中は先生がリードを持ってハンドリングのお手本を示してくださることもある。

⑦「参加してみよう！」飼い方相談事業

休憩タイムのゲームが好評　これもトレーニング

「あっちむいてホイ！」や「呼び戻し」等のゲームを通して、愛犬がサインを送っているのをどう読み取るか、どうやって危険を回避するか等を楽しく学べるように工夫していただいている。

散歩後の質問タイムではお悩みごとも相談も

散歩後は参加者からのお悩みごと相談コーナー。それぞれの飼い主さんのお悩みごとに共感され、他者へのアドバイスも他人事のように思えず、飼い主の皆さんは毎回、真剣に聞かれていた。

雨天時の振替で座学講座を開催

「犬のボディランゲージ」の理解を深めることで、更に飼い主と犬のコミュニケーションがスムーズに図れるようになることを目的に座学を開催。犬が発するサインを読み取ることで散歩時だけではなく、日常生活においても、意思の疎通を図ることができ、飼い主と犬との絆が深まる。

⑦「参加してみよう！」飼い方相談事業

家族での参加が増えており、熱心に先生の指導を聞く姿がみられる。

≪参加者の感想より一部抜粋≫

・とても参考になった。今日から早速実践したい。
・リードの持ち方、体の位置などの指導がとても参考になった。
・犬同士の距離の注意、飼い主として犬を全力で守る、周囲の様子に気を配るなど普通の教室とは違う環境、初めて会う犬たちと受講できてとても良かった。

（座学）

・犬が居なかったのでじっくりと受けることができ、よく内容を理解できた。
・犬のボディランゲージを知って、是非愛犬を見てみようと思う。
・早くお散歩に行きたくなった。
・先生に各自の質問にコメントいただけてとても嬉しかった。

毎回、事故防止のために、首輪の調整、散歩時のリードの長さなどの確認と解説がある。これがどういうことにつながるかという説明を個々に丁寧にお伝えしてくださっているが、毎回「知らなかった」「今まで適当だった」というほぼ同じ反応が飼い主から返ってくる。基本的なことを丁寧に伝え続けることが大きな事故を防止することにつながるのだと実感している。実際に散歩をしながら個々に困っていることに対して直接指導していただけるというプログラムであるため、「教わったことを早速実践したい」「これからの散歩が楽しくなりそうです」という感想をいただくことが多い。散歩をするだけではなく、飼い主と犬が一緒にゲームを楽しみながら、アイコンタクト、基本的なしつけ、呼び戻しなど学べるように工夫していただいている。できることが増えることで飼い主にも犬にも自信がつく。受講後、「まだ困っている」という相談はほとんどなく、散歩時の困りごとの解消につながっていると考えられる。今後においては、犬のボディランゲージの理解を深めることで飼い主と犬のコミュニケーションがスムーズに図れるようになることを目指し、散歩時だけでなく日常生活全体で活かせるよう、座学を雨天時の代替内容とするだけでなく、座学の受講日を設定する。散歩の実践を受講された方には座学を勧め、座学受講者には、散歩の実践の受講を勧めていく。

⑦「参加してみよう！」飼い方相談事業

【楽しくしつけを学ぼう～ドッグスポーツにチャレンジ！】

犬と共に楽しむ活動のひとつであり、基本のしつけをベースに様々な動きを組み合わせて犬と一緒にダンスにチャレンジしてもらう。楽しみ方を専門家の先生が丁寧にアドバイスをもらいながら、しつけができていないと感じる飼い主も愛犬と楽しい時間を共有することができるプログラムである。施設内のローンボウルズ場をメイン会場とし、雨天や気候により「ふれあい室」で実施。

開催日程：第3金曜日　10:30～12:00
開催場所：ローンボウルズ場（マナーウェア着用）・共生センターふれあい室
講　　師：JAHA認定家庭犬しつけインストラクター　高山美佐先生

開　催　日	参加人数	参加犬
第1回　令和4年4月15日（金）	8	7
第2回　5 月20日（金）	7	7
第3回　10月14日（金）	8	7
第4回　11月18日（金）	8	8
合　　計	**31人**	**29頭**

ローンボウルズ場での様子

マナーパンツ、マナーベルトを必ず着用。広い空間で愛犬と共に楽しい時間を共有する。
基本のしつけができているか先生が確認され、参加犬に無理のない動きから取り組む。

動きがわからなくて困っても先生がすぐに駆け付けて指導くださり、先生のハンドリングから学んだ飼い主さんが改めて挑戦すると、最後には音楽に合わせてほとんどの参加者が動けるようになる。

⑦「参加してみよう！」飼い方相談事業

ふれあい室での様子

雨天時や暑すぎるとき、寒すぎるときなど気温によっては、ふれあい室において実施している。屋外と違い、他犬との距離は近くなるが、先生の声が届きやすいというメリットがある。お互いの距離に気をつけながら、基本的なしつけのおさらいをして、様々な動きに発展させていく。

犬は飼い主の顔を見てアイコンタクトでもコミュニケーションを取りながら、課題に取り組む。一緒にできることが増えてくると、しつけを通して共に楽しい時間を過ごせることが実感でき、飼い主のモチベーションも上がっていく。

今までで最高齢17歳での参加犬。外ではしっかり足も地面についていたが、室内に移ると床で滑り、立つことが困難になった。先生よりアドバイスをいただき、マットを敷くことで滑り止めになり、最後まで無事に参加できた。無理のない動きで一緒に楽しめる時間を持てたことに飼い主の方も喜んでおられ、周りの参加者の方々からも「一緒にできて良かったですね」「普段はどの辺りをお散歩されているんですか？」など温かい声が掛かり、飼い主同士のコミュニケーションにもつながった。

⑦「参加してみよう！」飼い方相談事業

仕上げは音楽に合わせて♪

音楽に合わせて踊るといっても、いきなりどの飼い主も愛犬と一緒に踊れないので、基本のしつけの「オスワリ」「マテ」「オイデ」などが土台となり、様々な動きを組み合わせてダンスへとつながっていく。終わった後はひとつのことを愛犬と共にやり遂げたという達成感も感じることができ、自然と拍手が起こる。

≪参加者の感想より一部抜粋≫

・できるか不安だったが、やさしく丁寧に教えていただけて嬉しかった。
・最初は吠えていたが、少しずつ落ち着いていき、そばのわんちゃんなどと近づいても合図についてきてくれてとても嬉しかった。
・楽しかったし、わかりやすく、新しい発見もあり有意義だったのでまた参加したい。
・犬と一緒になにかをすることは、とても楽しいことなんだと改めて感じた。犬もいつもよりイキイキとしていて楽しそうで嬉しかった。

このプログラムで取り入れているドッグダンスは、ケーナイン（K9）フリースタイルと呼ばれ、ドッグスポーツの一種。様々な動きを組み合わせて、音楽に合わせて犬が人と一緒にダンスをするものだが、世界大会が開催されるほど国際的にも人気の高い競技である。普段のしつけが様々な動きを組み合わせる土台になり、飼い主と犬とのコミュニケーションも重要である。日常生活の様々な場面で役に立つしつけを通じて、単なるしつけだけにとどまらず、愛犬と共に楽しい時間を過ごすことができるという喜びを感じていただいている。しつけに自信がなくても、楽しくしつけを学びながら、コミュニケーションを図ることで飼い主と愛犬の絆も深まる。ほとんどの飼い主がドッグスポーツは初めてという方々であるが、参加者からは「楽しかった」「また参加したい」「犬と一緒に楽しみたいと参加したが、コミュニケーションの取り方に新たな発見があった」など多くの前向きな感想をいただいている。基本的なしつけを学びながら愛犬との絆を深めていくことができ、しつけを学ぶことでこれまで経験したことのない新しいことにもチャレンジできる場があることを引き続き発信していきたい。

⑦「参加してみよう！」身体障害者補助犬の普及啓発事業

【介助犬と歩こう！】

身体障害者補助犬法に基づく身体障害者補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）に対する社会的理解を進める。 基本的な取り組みの方針として、障害のある人もない人も、共に幸せに暮らすことが できる「誰も取り残さない」社会の実現を目指しつつ事業運営の応援を行い、身体障害者補助犬の普及啓発に貢献する。

開催日程：土・日・月曜日　14:00～15:00
開催場所：共生センターふれあい室・しあわせの村温泉健康センター体育館
協　　力：認定特定非営利活動法人兵庫介助犬協会

開　催　日	参加人数
第1回　令和4年 4月23日（土） （しあわせの村まつり「春まつり」同日開催）	27
第2回　5月30日（月）	5
第3回　6月27日（月）	3
第4回　10月2日（日） （第33回こうべ福祉・健康フェア同日開催）	20
第5回　11月21日（月）	9
第6回　令和5年 3月13日（日）	7
合　　計	**71人**

介助犬は身体障害者補助犬の中でもまだまだ認知度は低い。

介助犬と書かれたマントを着たらお仕事モードにスイッチ。「これを着ているときはお仕事中なので話しかけたり触れたりしないようにしてください」と理事長の北澤さん。

⑦「参加してみよう！」身体障害者補助犬の普及啓発事業

身体障害者補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）について、パネルを使って丁寧に解説してくださっている。子どもたちが参加しても理解しやすい工夫をしていただいている。現在日本で活躍している介助犬は53頭で兵庫県では2頭だそうである。

訓練は厳しいのではという質問が多いが、「ルールのある遊びが基本」と説明していただいた上で、例としてボール遊びを紹介し、これが介助動作にどうつながっていくのかを示してくださった。

温泉健康センター体育館での様子

しあわせの村内でのイベントと同日開催（P.24参照）の際には、温泉健康センター体育館をお借りして、共生センターの事業として実施できた。

参加者の方に、実際に車椅子に乗って、介助動作の指示を出す体験をしていただいた。また、プログラムの最後には交流タイムを設け、介助犬（PR犬）とふれあう機会も提供している。

≪参加者の感想より一部抜粋≫
- デモンストレーションが多くわかりやすかった。
- 介助犬を見たのは初めてだったので、もっと県内に増えたらと思った。
- 介助犬のトレーニングや仕事について話を聞いて、生活のパートナーとして、将来私が必要になったときは一緒に暮らしたいと思った。

身体障害者補助犬の種類、それぞれの補助犬が果たす役割なども丁寧に解説していただき、参加された方からは補助犬に対しての理解が深まったと感想があり、休日開催時には家族で参加される方も多い。現状ではプログラムの開催がほとんど平日開催ということで参加者が参加しにくいということがあったため、次年度は参加しやすい曜日と時間帯を設定することで参加者の増加につなげる。
また、パピーウォーカーや補助犬をリタイアした犬を引き取った飼い主の話を聞く機会なども設け、さらなる補助犬への理解を深めるための普及啓発に取り組んでいく。

⑧受託者企画事業の展開

SDGsのゴールに貢献する「しあわせの村」将来像を共有し、「動物の愛護及び管理に関する施策を総合的に推進するための基本的な指針」に求められる取り組みの推進に向け、「国内外の動物との共生に係るあらゆるステークホルダーが、神戸市のあたたかな共生社会構築に尽力できる」「こうべ動物共生センターで質の高い成果を上げ、その成果が広く神戸市民に行き渡り、情報発信される」仕組み創りを提案。以下の4つの事業を行い、先進的なセンター事業推進環境を整備し、PDCAサイクル（計画→実施→評価→改善）による高品質な「こうべ動物共生センター」運営を目指す。

【セラピー研究フィールド】（P.27～36参照）

・国内外の研究者の参画による「試み・開発の場」としてだけではなく、学生や企業等による「人材育成の場」として研究フィールドを構築してきた。
・しあわせの村における新たな取り組みの中で課題となっている「パラ・スポーツの振興」「認知症予防」「あらゆる子どもの成長支援」「アニマルセラピー」の全てにAAI（動物介在介入）が関わることができ、また、その研究手法については、様々なセラピーにも活用できるものであることから、将来的には「しあわせの村」と連携して、しあわせの村全体での「セラピー研究フィールド」として整備を進める。
・セラピー研究フィールドアドバイザーの先生方については、P.27に記載。

◎令和4年度の取り組み

・アニマルセラピーの一環として「わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）」を実施した。プログラム、研究内容等の詳細については、「アニマルセラピー」動物ふれあい事業の章（P.27～36）に記載。
・本事業においては、株式会社シーエーシー様のご協力により、犬に読み聞かせを行った子どもの動画撮影データについて、表情認識のAIを活用して分析を行った。

令和5年度はマウスシールドを着けずに実施し、読み聞かせの様子を撮影して、音声の録音を行う。

令和4年度に収集したデータを基に、人と動物の相互の影響を科学的に明らかにし、人に対する研究、犬に対する研究とも、さらに研究精度を上げるために引き続きデータの収集を行っていく。

⑧受託者企画事業の展開

【こうべ動物共生プラットフォームの構築】

「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸」を実現する、神戸市の「幸せな動物との共生」を支えるプラットフォームを構築する。

市民はサービスの受け手でもあり、送り手でもある。主体的に市民が関わることができ、神戸の市民力を向上させられるような仕組み創りを目指す。

神戸市民に向けて「質の高い動物と共生する暮らし」を実現していくには、動物取扱業登録事業者、関連事業事業者、関連団体、ボランティア等の連携とスキルアップが肝要である。動物との共生に直接関わる者だけでなく、賛同する企業・団体・個人の参加も促し、神戸市の「市民を幸せにする動物共生チーム」を構築する。

また、神戸市以外の参加も促し、多様なサポーターを集積させていく。研修・情報提供も積極的に行い、神戸市の動物との幸せな共生を支える「人材育成の場」としても活用する。

《こうべ動物共生プラットフォーム》

「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸」を実現する、神戸市の「幸せな動物との共生」を支えるプラットフォームを構築

「試み・開発の場」「人材育成の場」

動物取扱業登録事業者、関連事業事業者、関連団体、ボランティア等の連携とスキルアップのため、賛同する企業、団体、個人の参加を促し、神戸市の**「市民を幸せにする動物共生チーム」**を構築。

※神戸市以外の参加も促し、多様なサポーターを集積させていく。

※各地域：地域包括支援センター／社会福祉協議会／自治会／病院／学校とも連携・協働

将来的な展望

P.4の事業概念図で示したとおり、将来的にはプラットフォームに係る情報を市民に提供しつつ、新たなビジネス活性の機会を創出することも検討する。

《こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー》

プラットフォームに係る情報を市民に提供し、交流の場を構築し、事業者にビジネス活性の機会を提供。

→ **《専用ウェブサイト》** → **内外への情報発信収集**

◎令和4年度の取り組み

動物取扱業登録事業者の方々を中心に関連する方々に呼びかけ、プラットフォーム構築の合意を得るまでを目指したが、令和5年度に持ち越しとなった。新型コロナウイルス感染拡大の状況を見つつ、令和5年度には事業者向け研修としてのパピー教室開催等準備を進めていく。

⑧受託者企画事業の展開

【市民へのセンター成果のフィードバック及び課題収集】

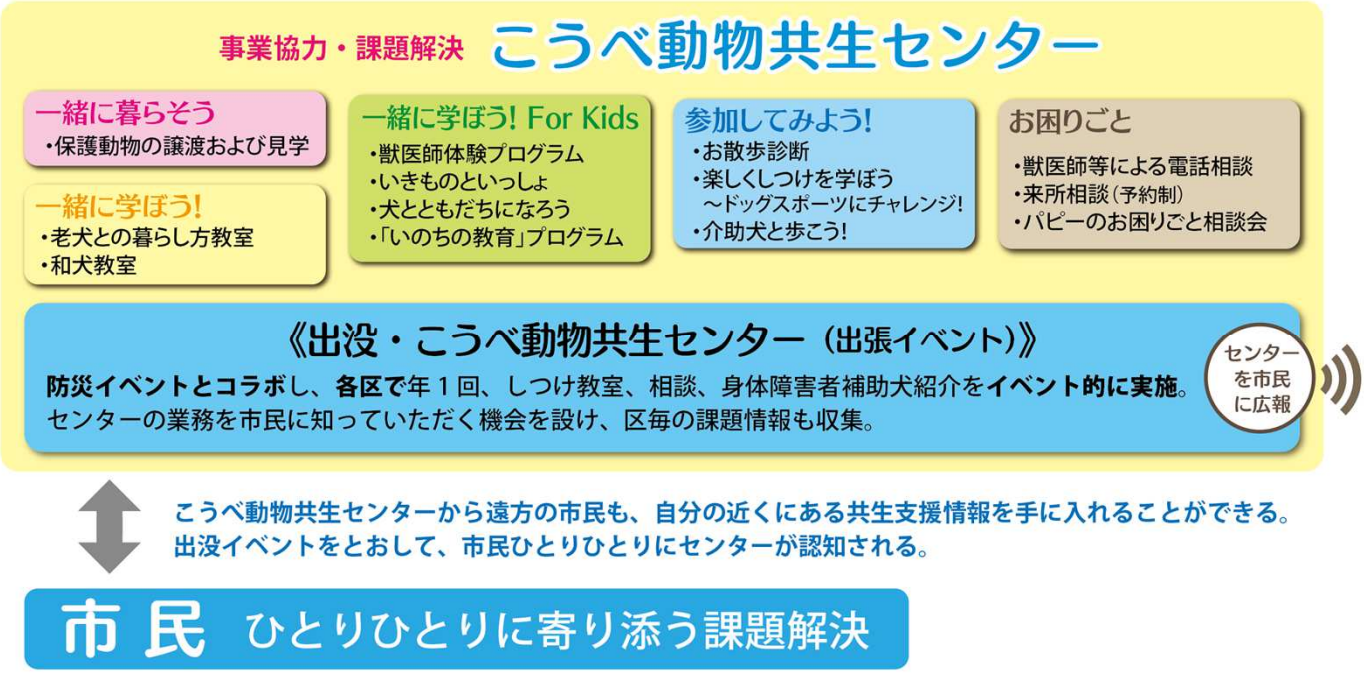
① 専用ウェブサイトの更新・保守　（P.13～18「センターの管理・運営業務」に記載）

② 出没・こうべ動物共生センター（出前型事業）

防災と関連付けて防災イベント等とのコラボレーションにより、各区で年に1回、「しつけ方教室」「飼育相談」「身体障害者補助犬の普及啓発」等を実施する。

共生センターの業務を市民に知っていただく機会を設け、区毎の課題情報も収集する。各地域の動物取扱業登録業者を中心に、プラットフォームのメンバー候補にも広く参加いただく。

この事業を通じ、各地域で「神戸市の幸せな動物との共生」に関心の高い市民を発掘し、各地域での密な連携が自律的に実現していけるような事業を行っていく。様々な課題解決にコミュニティーの力が再評価されており、このような事業を通じて市民力の向上とコミュニティー再構築にも寄与する。



◎令和4年度の取り組み

出前型事業については、各区のまちづくり課等との連携を検討したが、新型コロナウイルス感染が収束しなかったため、令和4年度の実施は見送り、令和5年度に持ち越しとなった。令和5年度は各地域で開催されるイベントに出展する形での開催も考慮する。

⑧受託者企画事業の展開

【こうべ動物共生情報の提供・収集】

《こうべ動物共生プラットフォーム》と市民を有機的に「“つなぐ”場」「市民交流の場」を創出する。専用ウェブサイト上に、【《こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー》を設ける。

《こうべ動物共生プラットフォーム》に係る情報を市民に提供し、交流の場を構築すると共に、事業者にビジネス活性の機会を提供する。

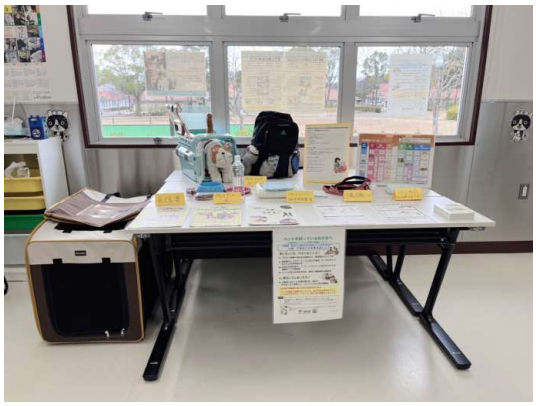
《「こうべ動物共生プラットフォーム情報提供コーナー」での提供情報》

市民は、ワンストップで、自分の近くにある共生支援情報を手に入れることができる。

1．「ずっと一緒に幸せに暮らせるあたたかな神戸」　ペットとの暮らしを支える
　獣医療／ペットショップ／トリミングサロン／しつけ方教室／ドッグカフェ／ペットと入居可能な住宅や施設／ペットと泊まれる宿泊施設／保険／信託など
2．「動物でつながる社会の豊かさ」
　イベント情報／動物に係る教育実施情報／その他情報交流
3．防災情報
　ペットが入れる避難所／ペット用品を配布している拠点など

◎令和4年度の取り組み

新型コロナウイルス感染拡大のピークが収束しつつあるので、令和4年度に実施することができなかった《こうべ動物共生プラットフォーム》の構築を、令和5年度から準備を進めたい。専用ウェブサイトに情報提供コーナーを設け、神戸市の担当者と連携して防災情報の公開を開始したい。



阪神・淡路大震災発災の1月17日の前後2週間程度、ふれあい室にペットとの同行避難に関する展示コーナーを設け、避難グッズの展示を行い、市民への啓発を図った。

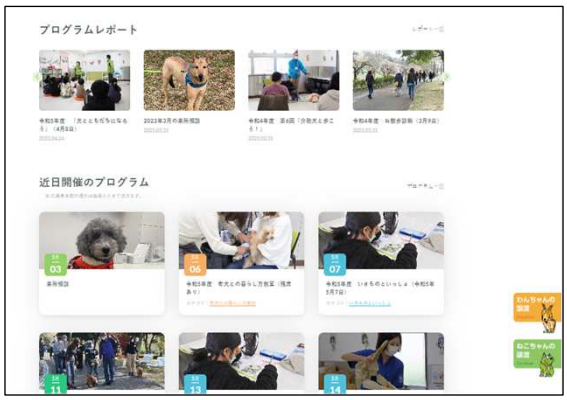
各事業を通して、交通の便、車を所有していない等の理由で共生センターに来所しにくい市民の声を聞く。各区での事業開催や、《こうべ動物共生プラットフォーム》の構築により、どの地域に居住していても希望するサービスが受けられるような仕組みが期待されている。こうべ動物共生センターが窓口となり、市民の声を神戸市に伝え、相談・調整しながら仕組み創りを構築することで、市民が使いやすい窓口となるよう工夫する。

⑨センター広報

【専用ウェブサイト】（P.13～18参照）

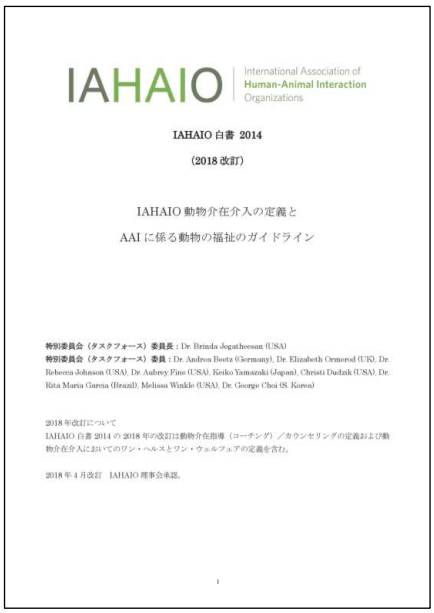
こうべ動物共生センターのコンセプトや事業内容について情報発信を行うと共に、各事業の参加者募集案内や事業実施レポートを随時更新し、こうべ動物共生センターおよび事業のPRを行った。資料・報告を専用ウェブサイト上で提供することで、来所できない市民への利便を図っている。しつけ方教室や飼養相談およびその対策等については事例として紹介して市民に情報を提供している。こうべ動物共生センターで実施している事業の成果を活用し、市民の様々な課題に対し、解決・相談の場が整備されていることを報せている。専用ウェブサイトは日本語だけでなく、英語、ドイツ語、中国語などにも対応し、国内外への情報発信も行った。このように、専用ウェブサイトは、市民がこうべ動物共生センターの事業に参加するなどして関わる「**市民とのコミュニケーションの場**」として、「**国内外への広報**」として、重要な役割を担っている。

トップページに配置のスライド式バナーは、各事業の様子がダイレクトに伝わる写真を活用し、各事業の紹介ページにリンクを貼り、バナー画像は定期的に更新している。リンク先からさらに参加申込フォームへとリンクさせており、申込フォームから直接参加申込ができる。ウェブサイトからの申込受付は、開館時間外でも市民が各種プログラムに参加申込を行うことを可能にしている。



プログラムレポートと近日開催のプログラムの最新情報はトップページで確認することができる。

専用ウェブサイトを通して情報を得た方々よりプログラムの見学依頼をいただくこともあるため、参加者募集の告知や実施報告は丁寧に正確に発信できるように心がけている。特に実施報告は、来所・受講できない市民に対しても、成果をフィードバックするという点で重要である。

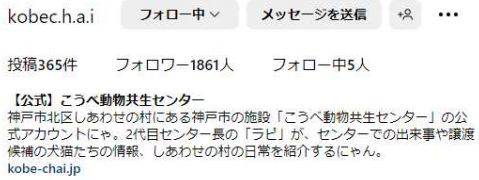


「IAHAIOについて」のページではIAHAIOの紹介だけでなく、IAHAIO白書に基づいて事業を実施している旨を情報発信し、IAHAIO白書をダウンロードできるようにしている。

⑨センター広報

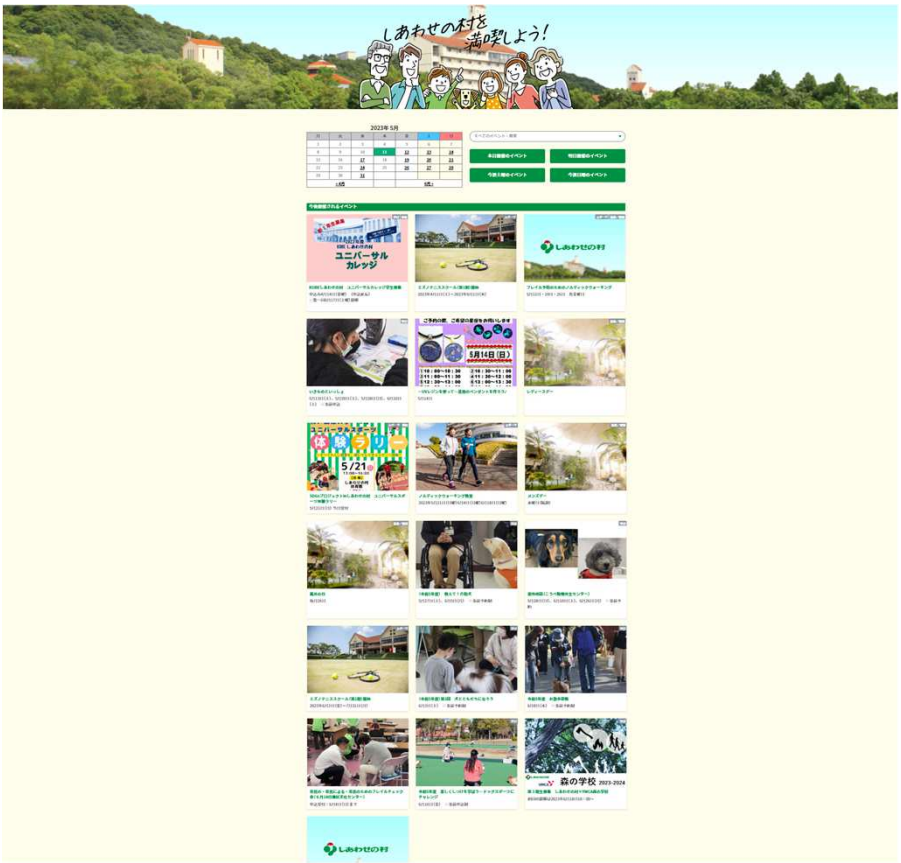
◎こうべ動物共生センター　公式Instagram

　こうべ動物共生センターの公式Instagramは、投稿を含め環境衛生課で管理していただいている。フォロワーを増やすための広報として、 PR用チラシ（A5サイズ）を作成して来所者に配布し、通りかかった市民の方々にもその場で気軽にフォローしていただけるように、事務室や猫のプレイルームにもチラシを掲示している。日々の共生センターの様子、事業の案内、しあわせの村内の季節の風景等については、スタッフが撮影した写真・動画を環境衛生課に送っている。



◎しあわせの村ウェブサイト・SNS

　しあわせの村（公益社団法人こうべ市民福祉振興協会）のウェブサイトやSNSで事業等の紹介をしていただいている。特にウェブサイトのイベント情報から、共生センターの事業を知り、参加申込をされる方も増えてきている。



　しあわせの村ウェブサイトの「イベントカレンダー」では、村内の他施設と同様、こうべ動物共生センターの月ごとの開催事業を掲載していただいている。

⑨センター広報

【メディア実績】

新聞、テレビ、ラジオ等の取材依頼に応じた。

◎新聞

【令和4年度 （取材日）】

・ 6月17日　朝日小学生新聞（マイクロチップ）
・ 9月25日　朝日新聞（センター長交代式）
・ 9月26日　読売新聞（二代目センター長就任）
https://www.yomiuri.co.jp/national/20220929-OYT1T50034/
・11月 3日　神戸新聞（老犬との暮らし方教室）

◎テレビ・ラジオ

事前に取材・収録を行い、下記のとおり放送された。（令和5年3月31日現在で視聴可能であったものはURLを併記している）

【令和4年度 （収録日）】

・5月31日　NHK神戸放送局　関西のニュース（6月1日放送）
「マイクロチップについて」
・6月3日　読売テレビ　かんさい情報ネットten.（6月9日放送）
「マイクロチップについて」
・8月19日　サンテレビ　キャッチプラス（8月19日放送）
「動物愛護スクール開催」
https://www.youtube.com/watch?v=AuqOWvELV_U
・9月25日　サンテレビ　ニュースSUNデー（9月25日放送）
「センター長交代式 」
https://www.youtube.com/watch?v=2dKIy1ZjbrA
・11月21日　ラジオ関西　サンデー神戸（11月27日放送）
「開設1年！人と動物がお互いの関係を大切にするまちに」
https:/jocr.jp/sunday/repo/2231/
・1月13日　サンテレビ　キャッチプラス（1月19日放送）
「ペットの防災対策 」
https://www.youtube.com/watch?v=Opj6kVL06DE

令和4年8月19日　サンテレビ

令和4年11月21日　ラジオ関西

⑨センター広報

【制作物】

こうべ動物共生センターを広く知っていただくため、リーフレット類や共生センターグッズ、事業のチラシ等を制作し、配布した。

◎クリアファイル

・犬と猫のキャラクターに**首輪無しのデザイン**のもの（写真左下）は、首輪のシールを作り、子どもたちに貼ってもらう仕掛けにし、迷子札の重要性を伝える教材とした。共生センターのオープン時より子どもを対象としたプログラムで参加者に配布、令和4年12月で配布を終えた。＜令和3年度500部作成・共生センター在庫なし＞

・犬と猫のキャラクターに**最初から首輪がついているデザイン**のもの（写真右下）は、プログラムに参加する子どもたちや、見学・視察に来られた方へ共生センター資料の配布時にお渡ししている。
＜令和3年度1,000部作成・共生センター在庫160部（令和5年３月31日現在）＞

◎紹介カード・リーフレット

共生センターオープン前に名刺サイズの共生センター紹介カードと、A5サイズのリーフレットを作成し、来所者、プログラム参加者に配布した。また、共生センターだけでなく、動物管理センターや市役所等でも配布している。

・紹介カード＜令和3年度3,000部作成・
共生センター在庫801部（令和5年3月31日現在）＞

・リーフレット＜令和3年度3,000部作成・
共生センター在庫317部（令和5年3月31日現在）＞

オープン前に作成したものであり、事業を紹介する写真などで構成できていないため、在庫がなくなる前に、新しい版の作成を検討したい。より多くの市民に配布することで、共生センターのPRが可能となり、来場者数の増加につながる。

⑨センター広報

◎マグカップ

　オープン記念グッズとして作成、久元市長、小原副市長が視察に来られた際にお渡ししたほか、神戸市関係者、関係団体等に配布した。共生センター事務室では来客用に使用し、常に目につくところにセンターのコンセプトが見える工夫をしている。
＜令和3年度60個作成・共生センター在庫なし（令和5年3月31日現在）＞

【事業チラシ】

◎令和4年度作成実績

　事業（プログラム）の案内・参加者募集のため、アニマルセラピー 動物ふれあい事業、子どもを対象とした動物共生教育事業のチラシを作成し、専用ウェブサイトに掲載した。

・わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）
・獣医師体験プログラム
・犬とともだちになろう
・いきものといっしょ
・「いのちの教育」プログラム

　共生センターでのプログラムの参加者の方々に、他のプログラムのPRをさせていただくと共にチラシを配布した。

令和４年度 こうべ動物共生センター教育事業

犬に本を読み聞かせることで心の成長をうながす取り組みを「R.E.A.D.（リード）【Reading Education Assistance Dogs】プログラム」といいます

ワンちゃんとふれあいながら本を読んでみよう！

わんちゃん読書会（R.E.A.D.プログラム）

神戸市・しあわせの村内「こうべ動物共生センター」ふれあい室

実施予定

2022年
①4月29日（金･祝）／②5月15日（日）／③5月28日（土）／④6月19日（日）／⑤9月11日（日）／⑥9月24日（土）／⑦10月22日（土）／⑧11月6日（日）／⑨11月27日（日）／⑩12月25日（日）

2023年
⑪1月29日（日）／⑫2月23日（木･祝）

実施時間：14：00～15：00

※各回定員３名（対象：小学1～6年生）

子どもの識字能力の改善を目的にして、子どもが犬に本の読み聞かせを行うことによって、音読が苦手な子どもが**自信を失うことなく意欲を育み、読書力の向上等の効果が期待できると共に自己肯定感を持てるようになり、犬との関わりを通して心の成長をうながすことを目的としたプログラム**です。**プログラムに参加してくださるお子さんを募集**しています！

犬は人間のことを笑ったりしないので安心して読むことができるよ

「うまく読まなくちゃ」とか「間違えたら叱られる」ということを気にせず、自分のことを否定せずに寄り添って耳を傾けてくれる犬は、子どもたちに安心感と自己肯定感を与えてくれます。

※専門家の適性をクリアした犬を使用し、大人のスタッフが付き添って適切な管理の元に実施いたします。

参加費 無料

犬が一緒にいてくれるだけで自信がわいてくるんだ！

本を読むのは好きだけど人前にでると緊張しちゃうんです…

保護者の皆さまへ

アメリカでは、すでに動物を介在した医療の一環として行われている取り組みで、こうべ動物共生センターでは AAA（動物介在活動）として実施します。犬は、人間が上手に読んだりそうでなかったりすることを評価したり、笑ったりすることはありませんので、自分に自信を持つことができない子どもが、犬との関わりを通して自己肯定感を持ち、心の成長を促すことを目的としています。

こうべ動物共生センターは、こうした取り組みの中で、最先端の AI 技術等を使って、人と動物相互の影響を科学的に明らかにしていければと考えています。実施に際しては、下記の専門家のアドバイスや留意事項を遵守しながら行いますので、皆さまのご協力をお願い致します。

01 アドバイザー紹介

国内外のアドバイザーの先生方の協力のもと実施します。

- 中山　裕之 先生（東京大学名誉教授／ VISION VETS GROUP (VVG) Lab 学術役員・センター長）
- 土居　裕和 先生（国士館大学 理工学部 人間情報学系 准教授（学術博））
- 柴内　裕子 先生（赤坂動物病院総院長／公益社団法人日本動物病院協会（JAHA）相談役）
- 島村　俊介 先生（大阪公立大学（旧大阪府立大学））
- 木下 美也子 先生（※1 グリーン・チムニーズ＆ファーム サム＆マイラ・ロス研究所 教育プログラム部長・神戸市出身）
- アンドレア・ビーツ 先生（MA 心理学／博士号（心理学）／博士号（特殊教育）特別・インクルーシブ教育教授 IU 国際応用科学大学・ドイツ））

※1 **グリーン・チムニーズ（アメリカ・ニューヨーク州）とは：**情緒障害・学習障害等を持つ子どもを治療するための長期療養型施設。自宅から通学する子どももいるが、半数は寄宿舎で暮らし、生活も共にしている。自然や動物たちに囲まれた環境の中で、その自然や動物との関わりを通して命あるものを大切にする心を育み、自己肯定感につながる教育を行っている。子どもたちは、専門家によるサポートを受けながら、社会復帰を目指す。

02 ご協力いただきたい内容（対象：小学 1～6 年生）

次の 3 つのパターンで適性がある犬を相手に本を読み聞かせてデータを取り、心理・認知的効果を調査します。　※神戸市と大学等の専門機関の個人情報保護基準に則って実施します。

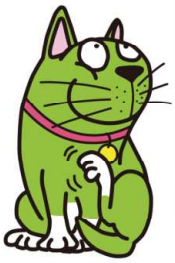
① 犬に向けた音読　② ヒトに向けた音読　③ 一人での音読　※各 10 分程度を予定

- 音読中の表情　※2（表現力・心理状態の指標）
- 音読音声の特徴　※3（表現力・理解度の指標）
- 音読後の文章内容に関する記憶（理解度の指標）
- 音読に対する意識のアンケート調査

※2 表情認識の AI を使用
※3 録音音読音声を専用ソフトで分析

03 留意事項

① 取得したデータや動画などの個人情報については、神戸市及び大学等の専門機関の基準に沿って管理します。
② お子さんが楽しんで参加してもらえることを最優先します。
③ 動物にストレスを与えないため、適正な実施方法を遵守して実施します。
④ 専門家による判定をクリアした動物を使用します。
⑤ 保護者同伴でご参加いただけます。



【こうべ動物共生センターとは？】　https://kobe-chai.jp/

こうべ動物共生センターは、「Kobe Center for Human-Animal Interaction」という英語名が示すとおり、「人と動物の相互」の関係を大切にし、その影響を科学的に解明し、市民にフィードバックしていくような「共生」を柱とした事業を行います。

問合せ先　こうべ動物共生センター
電話：078-747-3061　メール：info@kobe-chai.jp

こうべ動物共生センター教育事業

参加者募集！

獣医師体験プログラム

参加費
無　料

実施予定

2022年5月22日（日）／6月25日（土）※同日に2回開催／7月29日（金）／
8月4日（木）／8月22日（月）／9月4日（日）／9月23日（金・祝）／
10月15日（土）※同日に2回開催／11月23日（水・祝）／12月10日（土）／
2023年2月26日（日）　**※各回定員12名（小中学生）**

開催日が変更になる場合がございますので、申し込みの際にウェブサイトでご確認下さい。

神戸市・しあわせの村内「こうべ動物共生センター」ふれあい室

獣医師の仕事は、感染症や食品衛生、ペットとの暮らしや産業動物の飼育、環境問題など、人が生活していく上で必要な多くの分野に関わっています。そうした幅広い獣医師の世界を体験し、学びを深めることにより、人と動物の共生とは、人の生活に深く関わるものであることへの気付きを促し、様々な人と動物の共生の在り方についての理解を深めます。

また、専門家として現場に関わっているプロに接することで、子どもたちの職業選択の視点を広げることにもつながります。**プログラムに参加してくださるお子さんを募集**しますので、ご協力よろしくお願いいたします。

**楽しみながらいろんな動物との
関わりについて学ぶことができるよ**

01 アドバイザー紹介

獣医師のアドバイザーの協力の監修のもと実施します。

・堀尾 政博 先生（獣医師／獣医学博士）

02 実施内容

小動物／大動物／産業動物／野生動物／動物園／水族館／食品衛生／公衆衛生／公務員の９つの分野で、様々な獣医師の仕事を知るためのプログラムを体験します。

参加予約方法

こうべ動物共生センターのウェブサイトからご予約ください。

https://kobe-chai.jp

開催日時	タイトル（案）	分野	協力依頼	到達目標
2022年 5月22日（日） 14：00～15：00	お肉は どこから来るの？	食品衛生	神戸市食肉衛生検査所	人間は、動物の「いのち」をいただくことによって生きていくことができる。適切な環境で家畜を飼育して家畜に対する福祉を担保しつつ、安心・安全な食肉を提供するために必要なことを学ぶ。
6月25日（土） ①13：00～14：00 ②14：30～15：30	水族園動物の お医者さん	水族館	神戸市立須磨海浜水族園	水族園には多様な生きものが暮らしています。その健康を守るには、本来の生育環境や生態を背景とした生きものの特徴を知ることが大切です。水族園で暮らす動物たちの病気や治療についてお話をします。
7月29日（金） 14：00～15：00	多様な動物が生きる 「地球」という環境	動物園	神戸市立王子動物園	地球（動物園）には様々な種類の動物が生活しているが、それぞれ生きていくために必要な食べ物や環境などが違う。そうした多様な生物が生きていくことができる地球を持続可能な環境として保持するために必要なことを学ぶ。
8月4日（木） 14：00～15：00	感染症って何？	公衆衛生	大学研究者	新型コロナウイルスの感染症拡大の只中である現在、動物由来の感染症についての正しい知識を学習し、日常生活における感染症対策の重要性を知る。
8月22日（月） 14：00～15：00	公務員としての 獣医さんの仕事	公務員	神戸市健康局環境衛生課	公務員獣医師の仕事は、食の安全の確保、人獣共通感染症対策、動物愛護や福祉の増進、野生動物保護等自然環境保全対策等の広範な分野にわたるが、その中の動物愛護や福祉の増進について学び、人と動物の幸せな共生について考える。
9月4日（日） 14：00～15：00 （小学校低学年対象） 9月23日（金・祝） 14：00～15：00 （小学校高学年・中学生対象）	野生動物との共生	野生動物	株式会社野生動物保護管理事務所	里山では野生動物による農作物の被害が多発しているが、なぜそういったことが起こるのかを学ぶ。地球は人間だけのものではなく、多くの野生動物や昆虫などの生き物が共に生きる場所であることを知り、どうすれば野生動物と共生できるのかを考える。
10月15日（土） ①13：00～14：00 （小学校低学年対象） ②14：30～15：30 （小学校高学年・中学生対象）	いちばん身近な存在 「ペット」の健康と 幸せを守るには	小動物	大阪公立大学獣医学研究科	人間にとっていちばん身近に存在する動物「ペット」の健康と幸せ（福祉）を守るためには、どういったケアが必要なのかを学び、飼い主が日常的に健康状態を観察して獣医師と連携してペットの健康を守ることの大切さを学ぶ。
11月23日（水・祝） 14：00～15：00	人と共に生きてきた 馬について	大動物	馬事公苑／大阪公立大学獣医学研究科	小型のペットとは違い、人間よりも大きな動物には特別な世話や医療が必要であることを学ぶと同時に、人が馬と共に生きてきた歴史を知ることで共生という概念を理解する。
12月10日（土） 14：00～15：00	身近な大動物・牛	大動物	開業獣医師	小型のペットとは違い、人間よりも大きな動物には特別な世話や医療が必要であることを学ぶと同時に、牛が私たちの生活のあらゆる場面で関わりを持っていることを理解する。
2023年 2月26日（日） 14：00～15：00	私たちの暮らしと 動物との関わり	産業動物	兵庫県農業共済組合（神戸市立六甲山牧場）	人間は様々な動物との関わりの中で恩恵を受けて生きていることに気づき、それらの恩恵に感謝をする気持ちを学ぶ。

※内容が変更になる場合がございます。

【こうべ動物共生センターとは？】こうべ動物共生センターは、「Kobe Center for Human-Animal Interaction」という英語名が示すとおり、「人と動物の相互」の関係を大切にし、その影響を科学的に解明し、市民にフィードバックしていくような「共生」を柱とした事業を行います。

問合せ先 こうべ動物共生センター 〒651-1106 神戸市北区しあわせの村１番21号
電話：078-747-3061 FAX：078-747-3062 メール：info@kobe-chai.jp

こうべ動物共生センター教育事業

参加者募集！

犬とともだちになろう

実施予定

2022年
①4月17日（日）／②6月4日（土）／③10月9日（日）／
④10月30日（日）／⑤12月17日（土）
2023年
⑥3月11日（土）

実施時間：14：00〜15：00
※各回定員12名（対象：小学1〜6年生）

参加費無料

ワンちゃんと一緒に「いのち」への共感を学ぼう！

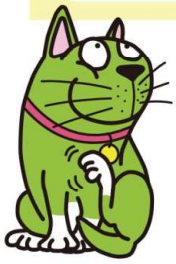
こうべ動物共生センターのサイトからご予約ください

実際のワンちゃんに接しながら、クイズや心臓の音を聞くなどのプログラムをとおして、「いのち」を実感しながら**犬の気持ちについて学びます。**
犬との接し方を学ぶことで、咬傷事故を予防するだけでなく、ワンちゃん（他者）の**気持ちを想像**したり**寄り添う気持ちの大切さ**を考えるきっかけを与えます。

※このプログラムでは、適正飼養アドバイザーにより推奨された適性のある犬にお手伝い頂きます。

こうべ動物共生センターにおける教育プログラムは、動物介在介入と動物介在活動の定義と活動動物の福祉のガイドラインである「IAHAIO白書」に基づいて実施されます。

※IAHAIO（International Association of Human-Animal Interaction Organizations）とは、人と動物との相互作用の正しい理解を促進させるために各国で活動している学会、協会等の国際的な連合体として、米国の Delta Society（現 PetPartners）、フランスの afirac、イギリスの SCAS が中心となって 1992 年に設立。人と動物の相互作用の分野を進歩させるため、国際的な指導力を提供することを使命としている団体です。



【こうべ動物共生センターとは？】 こうべ動物共生センターは、「Kobe Center for Human-Animal Interaction」という英語名が示すとおり、「人と動物の相互」の関係を大切にし、その影響を科学的に解明し、市民にフィードバックしていくような「共生」を柱とした事業を行います。

問合せ先 こうべ動物共生センター　〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1番21号
電　話：078-747-3061　FAX：078-747-3062　メール：info@kobe-chai.jp

こうべ動物共生センター教育事業

参加者募集！

いきものといっしょ

～みぢかなどうぶつに目をむけてみよう

参加費
無　料

実施予定

【毎週土曜日 10：30～11：30 実施】

神戸市・しあわせの村内「こうべ動物共生センター」ふれあい室

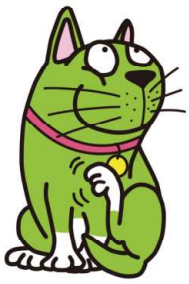
冊子とオリジナルクリアファイルもお持ち帰り頂けます！

神戸市は海と山、都会と田園地帯など、多様な環境が混在する地域です。そうした環境には**たくさんのいきものが人間と共に生活**をしています。そうしたいきものとの関わりを、まちがい探しクイズなどが掲載された**冊子を使って学習**することができます。

この街で共に生きるいきものについて考えてみよう

https://kobe-chai.jp/

こうべ動物共生センターのサイトからご予約ください。



【こうべ動物共生センターとは？】こうべ動物共生センターは、「Kobe Center for Human-Animal Interaction」という英語名が示すとおり、「人と動物の相互」の関係を大切にし、その影響を科学的に解明し、市民にフィードバックしていくような「共生」を柱とした事業を行います。

問合せ先　こうべ動物共生センター　〒651-1106 神戸市北区しあわせの村 1 番 21 号

電話：078-747-3061　FAX：078-747-3062　メール：info@kobe-chai.jp

こうべ動物共生センターにおける教育事業ご協力のお願い

実施協力校（クラス）を募集しています！

動物共生教育（「いのちの教育」プログラム）

【令和４年度に２回実施（３つのプログラムで構成）・**参加費無料**】

アクティブラーニングの手法を用いて、すでに多くの自治体での導入実績がある奈良県「いのちの教育」プログラムは実施した小学校の評価も高く、全国の自治体職員や教育関係者が研修に参加し、**すでに多くの自治体でも導入**されています。
奈良県「いのちの教育」研究協議会（会長・国立大学法人奈良女子大学の天ケ瀬正博教授、副会長・公益社団法人 Knots 理事長）が設置され、プログラムの内容を適宜ブラッシュアップし、**教育効果の測定と効果の向上を実現する工夫を行っている先進的な取り組み**です。この**プログラムの実施に協力をして下さる学校（クラス）を募集**しています（ご説明にお伺いさせて頂きます）。

「いのちの教育プログラム」で使用するツール

・３つのエリアを示す扇形のパネル　・20 種類の張り子の動物たち（イノシシ、ブタなど＝45～50cm）

実施の様子

01 実施方法

１体 45～50cm ほどある大型の張り子の動物 20 体とパネル類を使用し、それらの動物を子どもたちが動かしながら人との関わりを学びます。
また、個々に配られたホワイトボードに書いたり、拡張心音計で自分と友達の心臓の音を聞き比べたりして、**子どもたちが積極的に参加しながら実施**します。
実施完了後は各学校と連携をして「ふりかえり」を行い、**実施後に子どもたちの意識がどのように変化したのか調査・分析**を行います。

02 こころの成長に必要な３つの要素を学ぶことができます

「いのちの教育」プログラムは、以下の３つのプログラムに分かれています。それぞれのプログラムで、「気づき」「共感」「責任」について学ぶことができます。

プログラムⅠ 私たちと動物の関わり（私たちと動物とのつながり） …… **気づき**

プログラムⅡ 動物たちと私たちの「いのち」は同じ（動物たちの気持ちを考えよう） …… **共　感**

プログラムⅢ 動物たちのために私たちにできること（私たちが動物たちに果たす責任） …… **責　任**

子どもたちが、手作りの大型張り子を運びながら、人間と動物との関わりに「気づき」、そして彼らの《いのち》に対する「共感」と「責任」を学びます。

03 学校の先生や保護者、子どもたちからも高い評価を受けています！

「いのちの教育」プログラムは、学校の様々な場面で実施可能です。こうべ動物共生センターの職員が実施いたしますが、先生方に実施方法をお伝えさせて頂き、自校式としての実施も可能です。

- プログラムのツール一式が揃っているので手間がかかりません。
- 道徳や生活科の授業などで、「生命尊重」の授業として実施できます。
- 授業参観でも実施可能。
- 遠足と組み合わせて実施もできます。

アクティブラーニングの手法を用いているため、子どもたちが積極的に授業に参加する内容になっています。発言が苦手な子どもでも「書く」という行為や、相談しながら動物を「運ぶ」行為、自分と友達の心臓の音を聴き比べて「感じる」という手法も取りれており、子どもたちの関心を惹き付ける工夫がなされています。

【こうべ動物共生センターとは？】 https://kobe-chai.jp/

こうべ動物共生センターは、「Kobe Center for Human-Animal Interaction」という英語名が示すとおり、「人と動物の相互」の関係を大切にし、その影響を科学的に解明し、市民にフィードバックしていくような「共生」を柱とした事業を行います。

問合せ先 こうべ動物共生センター　〒651-1106 神戸市北区しあわせの村１番21号
電　話：078-747-3061　FAX：078-747-3062　メール：info@kobe-chai.jp